

の進学について前向きな回答¹⁶の割合が高い傾向にある。

さらに、検討中の新しい形態の高校への進学の希望と、その理由については、「家から通学できるから」「自由に活動できる時間が多そうだから」「自分の学力に合った授業を受けることができるから」を選択した子どもは、進学について前向きの回答¹⁷をしている割合が高く、「部活動ができなさそうだから」「大学受験に不利そうだから」を選択している子どもは、進学したくないという回答¹⁸をしている割合が高い。

こうしたことを踏まえると、子どもたちが高校に希望することとして、将来の職業、進学、部活などが主に上げられる中で、ICT を活用した高校でどのようにそれを提供できるのかを整理していく必要がある。

加えて、通信制高校については、アンケートからは、進学や部活などに何らかの支障が生じると考えていることから進学先として検討していないと読み取れる結果も出ているが、通信制高校の中には、インターネット上で講義を受ける形式を中心とするコースのほか、平日は通学するコースなどの多様なコースから生徒の希望に応じた選択が可能な取組を行っている高校などもあることから、こうした様々な形態で取り組んでいる高校の取組を把握し、参考となる取組について整理していく必要がある。

さらに、ICT を活用した高校について、イメージがわからないという側面もあることから、これまでの実証実験の状況や ICT を活用した授業の取組など、前述した多様な取組も含め理解を広めていくことも必要と考えられる。

（自治体における意識、意向）

沖縄県内には、高校のない離島のある市町村が 15 あるが、平成 29 年度卒業数が最も多いのは伊江島（伊江村）で 45 人、少ないのは、津堅島（うるま市）で 3 人、水納島（本部町）で 0 人となっており、各離島で、子どもの人数や島の状況も様々である。

アンケート結果では、ICT を活用した高校の設置に向け、積極的に取り組みたい自治体は 1 自治体、自治体の負担の規模等を踏まえ検討したい自治体は 3 自治体、取り組む予定がない自治体が 6 自治体となっている。

こうした理由について、ニーズがないと考えるため（4 自治体）、対象者が少ないため（4 自治体）、自治体の負担が生じるため（2 自治体）、などとなっている。

こうしたことを踏まえると、引き続き、子どもや保護者のニーズのほか、離島ごとの状況を踏まえた自治体の意見等を把握するとともに、理解を広める取組も必要と考える。

（2）県内の高校教育の現状・課題

沖縄県内には、県立高校 60 校（全日制 52 校、定時制 6 校、全日制と通信制の併置 1 校、定時制と通信制の併置 1 校）、私立高校 8 校（全日制 4 校、広域通信制 4 校）があり、

¹⁶ 「ぜひ進学したい」「進学を検討してみたい」との回答

¹⁷ 「ぜひ進学したい」「進学を検討してみたい」との回答

¹⁸ 「あまり進学したくない」「絶対に進学したくない」との回答

計約 57,000 人が学んでいる。

所在地は沖縄本島のほか、宮古島、石垣島、久米島となっている。久米島では普通科と園芸科、宮古島、石垣島では、普通科のほか、工業、商業、農業等の学科のある高校が島内に設置されている。

入学した生徒数（全日制（本科））としては、沖縄県全体では5年間（2015年度→2019年度）で6%減少、離島にある高校では16%減少しており、離島留学生の受け入れなどの取組を行っている学校もある。このほか、沖縄県では、不登校や高校中退率の高さも指摘されている。

高校がある離島の高校における取組を含め、こうした県内の他の高校における現状や課題と対応等についても把握し、新たに高校設置を検討する場合、どのような取組が必要かについて、整理が必要と考えられる。

（3）県内外における多様な手法を活用した高校教育

ICTを活用した授業が行われている学校や、多様なコースを開設し、生徒のニーズに応えられるようにしている高校など、本報告書に記載した事例のほか、県内の高校においてもすでに取組が進んでいる。

アンケート結果を踏まえると、保護者や子ども、自治体においてもこうした様々な取組内容が十分に知られているとは考えにくい結果もあった。

今年度も視察を行ったが、県内の取組も含め、これ以外の取組も引き続き把握し、どのような取組が可能か、また、こうした様々な手法について理解を広める取組が必要と考えられる。

こうした現状や課題等を整理した上で、ICTを活用した高校を設置するとした場合、

- ・設置形態（全日制、通信制等）、
- ・内容（求められている教育内容）
- ・設置主体（県、市町村、一部事務組合、私立 等）

などの項目について整理する必要がある。

2-2 その他の教育環境の改善

小規模校の場合、教員の人数が少ないことにより、同じ教科の教員同士の話し合いができない、教科担当外の教員が教える必要があることなどが指摘されている。

こうした課題を解決するため、同じ島に同じ教科の教員が他にいない場合でも、ICTを活用した教員同士のやりとりや研修をより効率的に受ける仕組みの検討が必要ではないか。あわせて、ICTを活用した授業の手法等を含め、教員にICTの理解を深めることも必要と考えられる。

また、小中学校においても一部遠隔合同授業により、自校に教科担当教員がいないことを補うなどの取組も有効と考えられる。

ICT を活用し、海外の子どもたちとの交流を深める取組や、博物館、美術館、動物園などと遠隔で協働で行う授業なども考えられる。本報告書にも記載がある旭山動物園（北海道旭川市）の取組なども参考になると考えられる。

こうした取組は、小中学校時から遠隔授業等を活用し、様々な子どもと触れる機会として ICT を活用することにより、これまで小規模校で過ごしてきた子どもが、高校入学により、大規模校での環境の変化に戸惑うことへの負担軽減につながることも考えられる。

(参考 1) ICTを活用した離島における高校教育に関するアンケート調査

(1) ICTを活用した離島における高校教育に関するアンケート調査票

- 中学生対象調査票「離島の中学生の進路意識に関する調査」
- 中学生の保護者対象調査票「離島の中学生保護者の進路意識に関する調査」
- 高校生対象調査票「離島出身の高校生の進路意識に関する調査」
- 高校生の保護者対象調査票
「離島出身の高校生の保護者の進路意識に関する調査」
- 自治体対象調査票「離島の中学生の進路に関する自治体調査」
うるま市・南城市・本部町
- 自治体対象調査票「離島の中学生の進路に関する自治体調査」
伊是名村・伊平屋村・伊江村・渡嘉敷村・座間味村・北大東村・南大東村・渡名喜村・栗国村・多良間村・竹富町・与那国町
- 小中校長対象調査票「離島の中学生の進路に関する小中校長調査」
うるま市津堅島・南城市久高島・本部町水納島に所在する小中学校
- 小中校長対象調査票「離島の中学生の進路に関する小中校長調査」
伊是名村・伊平屋村・伊江村・渡嘉敷村・座間味村・北大東村・南大東村・渡名喜村・栗国村・多良間村・竹富町・与那国町に所在する小中学校

離島の中学生の進路意識に関する調査

本調査では、離島の中学校に在籍する中学生の進路に関する意識についてお尋ねします。
無記名の調査で誰の回答か分からなくなっています。また、調査結果はコンピュータで統計的に処理され、個別の回答が公表されることはありませんので、ありのままに教えてください。

回答が終わりましたら、調査票と一緒に配布された封筒に入れて提出してください。

※あなたの学年に○をつけてください。

2年生	3年生
-----	-----

【Ⅰ】中学校卒業後の進路希望について

まず始めに、中学校卒業後のあなたの進路希望についてお尋ねします。

《全員対象》

Q1.あなたは、中学校を卒業したら、どのような進路をとりたいと考えていますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 高校へ進学したい
2. 高専(高等専門学校)へ進学したい
3. 専門学校(高等専修学校)へ進学したい
4. 就職したい
5. その他(具体的に: _____)
6. まだ分からない

《全員対象》

Q2.その進路をとりたいのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 大学に進学したいから
2. もっと勉強したいから
3. 部活動を頑張りたいから
4. 友達と一緒にいたいから
5. 親が勧めるから
6. 将来、希望の職業に就くために必要だから
7. 家を出たいから
8. 島を離れたいから
9. まだ就職したくないから
10. その他(具体的に: _____)
11. 特に理由はない

【Ⅱ】高校進学について

次に、高校進学についてお尋ねします。

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q3.あなたは、高校に進学したら、どこに住む予定ですか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 沖縄本島（南部：浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南）
2. 沖縄本島（中部：うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北）
3. 沖縄本島（北部：金武町、恩納村以北）
4. 久米島地区
5. 宮古地区
6. 八重山地区
7. 本土
8. その他（具体的に：_____）
9. まだ分からない

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q4.そこに住む予定なのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する高校がそこにしかないから
2. なるべく都会で生活したいから
3. なるべく家から離れたくないから
4. 親が勧めるから
5. その他（具体的に：_____）

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q5.あなたは、高校に進学したら、どのようなところに住む予定ですか。次の選択肢から、最も可能性が高いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 学生寮に入寮予定
2. 下宿・アパートを借りる予定
3. 家族と共に移住する予定
4. 親戚等・知人宅に居住する予定
5. 現在の家に住み続ける予定
6. その他（具体的に：_____）
7. まだ分からない

《Q1.で1. を選択し、かつ、Q5.で5. 以外を選択した生徒対象》

Q6.あなたは、高校に進学したら、現在住んでいる島を離れて生活することになりますが、それについてどう思っていますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 絶対に島を離れたくない
2. できれば島を離れたくない
3. 特に何も思っていない
4. この機会に島を離れてみたい
5. ぜひ島を離れたい
6. その他（具体的に：_____）

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q7.最近、テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用することによって、島内の学校に通学しながら、本土などの遠隔地の高校の授業を受けることができる新しい形態※の高校のあり方が検討されています。(※同級生とはICT技術により画面を通じてつながっている形態)
仮に、このような形態の高校が島内に設置されたとしたら、あなたはその高校への進学を検討しますか。
次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. ぜひ進学したい
2. 進学を検討してみたい
3. どちらとも言えない
4. あまり進学したくない
5. 絶対に進学したくない
6. その他(具体的に:_____)

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q8.検討中の新しい形態の高校について、あなたがそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業をうけることができそうだから
3. 友だちと一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 部活動ができなそうだから
8. ICTを活用したイメージが分からないから
9. その他(具体的に:_____)

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q9.高校進学を検討するにあたり、通信制高校への進学を検討していますか、あるいは検討しましたか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 通信制高校への進学を検討中である
2. 通信制高校への進学を検討したが選択肢から外した
3. 通信制高校への進学を検討したことはない
4. その他(具体的に:_____)

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q10.通信制高校について、あなたがそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業をうけることができそうだから
3. 友だちと一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 他に行きたい高校があるから
8. 部活動ができなそうだから
9. 沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから
10. その他(具体的に:_____)

【Ⅲ】将来の希望について

次に、あなたの将来の進路希望についてお尋ねします。

《Q1.で1. を選択した生徒対象》

Q11.あなたは、高校を卒業したら、どのような進路をとりたいと考えていますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大学へ進学したい
2. 専門学校へ進学したい
3. 就職したい
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q12.あなたは、将来、どのような職業に就きたいと考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 企業等に就職(被雇用者)
2. 自営業(店や会社を起業等)
3. 自営業(家業)
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q13.あなたは、将来、どこに住むことを希望していますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 現在住んでいる島
2. 沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)
3. 沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)
4. 沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)
5. 久米島地区
6. 宮古地区
7. 八重山地区
8. 本土
9. その他(具体的に: _____)
10. まだ分からない

《Q13.で1. を選択した生徒対象》

Q14.「現在住んでいる島」に住むことを希望しているのはどうしてですか。次の選択肢から、あてはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島が好きだから
5. 友人が多くいるから
6. 家族と一緒にいたいから
7. その他(具体的に: _____)

《Q13.で1. を選択しなかった生徒対象》

Q15.「現在住んでいる島」に住むことを希望しないのはどうしてですか。次の選択肢から、あてはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島の外にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島の外が好きだから
5. 島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)
6. その他(具体的に: _____)

【IV】島での生活について

最後に、現在、お住いの島での生活についてお尋ねします。

《全員対象》

Q16.あなたは、この島での生活に満足していますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q17.あなたは、この島での学校生活や教育に満足していますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q18.あなたが、この島での学校生活や教育について、満足できるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が多い
4. 自分の学力に合った教育が受けられる
5. 校舎や校庭が広い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している
7. 保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる
8. その他(具体的に:_____)
9. 満足できる点はない

《全員対象》

Q19.あなたが、この島での学校生活や教育について、不満に感じるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が少ない
4. 自分の学力に合った教育が受けられない
5. 校舎や校庭が狭い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない
7. 保護者や地域の方々が学校に無関心
8. 高校・大学がない
9. その他(具体的に:_____)
10. 不満な点はない

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

離島の中学生保護者の進路意識に関する調査

本調査では、離島の中学校に在籍する中学生の保護者の進路に関する意識についてお尋ねします。
無記名の調査で誰の回答か分かっていません。また、調査結果はコンピュータで統計的に処理され、個別の回答が公表されることはありませんので、ありのままに教えてください。

回答が終わりましたら、調査票と一緒に配布された封筒に入れて提出してください。

※あなたのお子さんの学年に○をつけてください。

2年生	3年生
-----	-----

【Ⅰ】中学校卒業後の進路希望について

まず始めに、中学校卒業後のあなたのお子さんの進路希望についてお尋ねします。

《全員対象》

Q1.あなたのお子さんは、中学校を卒業したら、どのような進路をとりたいと考えていますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。〈SA〉

1. 高校へ進学したい
2. 高専(高等専門学校)へ進学したい
3. 専門学校(高等専修学校)へ進学したい
4. 就職したい
5. その他(具体的に: _____)
6. まだ分からない

《全員対象》

Q2.あなたのお子さんがその進路をとりたいのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。〈MA〉

1. 大学に進学したいから
2. もっと勉強したいから
3. 部活動を頑張りたいから
4. 友達と一緒にいたいから
5. 親が勧めるから
6. 将来、希望の職業に就くために必要だから
7. 家を出たいから
8. 島を離れたいから
9. まだ就職したくないから
10. その他(具体的に: _____)
11. 特に理由はない

【Ⅱ】高校進学について

次に、高校進学についてお尋ねします。

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q3.あなたのお子さんは、高校に進学したら、どこに住む予定ですか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)
2. 沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)
3. 沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)
4. 久米島地区
5. 宮古地区
6. 八重山地区
7. 本土
8. その他(具体的に: _____)
9. まだ分からない

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q4.あなたのお子さんがそこに住む予定なのは どうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 希望する高校がそこにしかないから
2. なるべく都会で生活したいから
3. なるべく家から離れたくないから
4. 親が勧めるから
5. その他(具体的に:)

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q5.あなたのお子さんは、高校に進学したら、どのようなところに住む予定ですか。次の選択肢から、最も可能性が高いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 学生寮に入寮予定
2. 下宿・アパートを借りる予定
3. 家族と共に移住する予定
4. 親戚等・知人宅に居住する予定
5. 現在の家に住み続ける予定
6. その他(具体的に: _____)
7. まだ分らない

《Q1.で1. を選択し、かつ、Q5.で5. 以外を選択した保護者対象》

Q6.あなたのお子さんは、高校に進学したら、現在住んでいる島を離れて生活することになりますが、それについてどう思っていますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 絶対に島を離れてほしくない
2. できれば島を離れてほしくない
3. 特に何も思っていない
4. この機会に島を離れてみてもよい
5. ぜひ島を離れてほしい
6. その他(具体的に: _____)

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q7.最近、テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用することによって、島内の学校に通学しながら、本土などの遠隔地の高校の授業を受けることができる新しい形態※の高校のあり方が検討されています。(※同級生とはICT技術により画面を通じてつながっている形態)
仮に、このような形態の高校が島内に設置されたとしたら、あなたのお子さんはその高校への進学を検討しますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. ぜひ進学したいと思う
2. 進学を検討してみたいと思う
3. どちらとも言えない
4. あまり進学したくないと思う
5. 絶対に進学したくないと思う
6. その他(具体的に:_____)

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q8.検討中の新しい形態の高校について、あなたがそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業をうけることができそうだから
3. 友だちと一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 部活動ができなそうだから
8. ICTを活用したイメージが分からないから
9. その他(具体的に:_____)

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q9.あなたのお子さんは、高校進学を検討するにあたり、通信制高校への進学を検討していますか、あるいは検討しましたか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 通信制高校への進学を検討中である
2. 通信制高校への進学を検討したが選択肢から外した
3. 通信制高校への進学を検討したことはない
4. その他(具体的に:_____)

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q10.通信制高校について、あなたのお子さんがそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業をうけることができそうだから
3. 友だちと一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 他に行きたい高校があるから
8. 部活動ができなそうだから
9. 沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから
10. その他(具体的に:_____)

【Ⅲ】将来の希望について

次に、あなたのお子さんの将来の進路希望についてお尋ねします。

《Q1.で1. を選択した保護者対象》

Q11.あなたのお子さんは、高校を卒業したら、どのような進路をとりたいと考えていますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大学へ進学したい
2. 専門学校へ進学したい
3. 就職したい
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q12.あなたのお子さんは、将来、どのような職業に就きたいと考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 企業等に就職(被雇用者)
2. 自営業(店や会社を起業等)
3. 自営業(家業)
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q13.あなたのお子さんは、将来、どこに住むことを希望していますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 現在住んでいる島
2. 沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)
3. 沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)
4. 沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)
5. 久米島地区
6. 宮古地区
7. 八重山地区
8. 本土
9. その他(具体的に: _____)
10. まだ分からない

《Q13.で1. を選択した生徒対象》

Q14.あなたのお子さんが「現在住んでいる島」に住むことを希望しているのはどうしてですか。次の選択肢から、あてはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島が好きだから
5. 友人が多くいるから
6. 家族と一緒にいたいから
7. その他(具体的に: _____)

《Q13.で1. を選択しなかった生徒対象》

Q15.あなたのお子さんが「現在住んでいる島」に住むことを希望しないのはどうしてですか。次の選択肢から、あてはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島の外にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島の外が好きだから
5. 島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)
6. その他(具体的に:_____)

【IV】島での生活について

次に、現在、お住いの島での生活についてお尋ねします。

《全員対象》

Q16.あなた自身は、この島での生活に満足していますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q17.あなた自身は、この島での学校生活や教育に満足していますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q18.あなた自身が、この島での学校生活や教育について、満足できるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が多い
4. 自分の学力に合った教育が受けられる
5. 校舎や校庭が広い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している
7. 保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる
8. その他(具体的に: _____)
9. 満足できる点はない

《全員対象》

Q19.あなた自身が、この島での学校生活や教育について、不満に感じるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が少ない
4. 自分の学力に合った教育が受けられない
5. 校舎や校庭が狭い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない
7. 保護者や地域の方々が学校に無関心
8. 高校・大学がない
9. その他(具体的に: _____)
10. 不満な点はない

【V】お子さんのきょうだいについて

最後に、あなたのお子さんのきょうだいについてお尋ねします。

《全員対象》

Q20.あなたのお子さんには、高校に進学したきょうだいが他にいますか。次の選択肢から、当てはまるものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 高校に進学したきょうだいがいる
2. 高校に進学したきょうだいはいない

《Q20.で1. を選択した保護者対象》

Q21.あなたのお子さんのきょうだいが高校に進学した際は、どのようなところに住みましたか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 学生寮に入寮した
2. 下宿・アパートを借た
3. 家族と共に移住した
4. 親戚等・知人宅に居住した
5. 中学生の頃に住んでいた家に住み続けていた
6. その他(具体的に: _____)

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

離島出身の高校生の進路意識に関する調査

本調査では、離島の中学校出身の高校生の進路に関する意識についてお尋ねします。

無記名の調査で誰の回答か分からなくなっています。また、調査結果はコンピュータで統計的に処理され、個別の回答が公表されることはありませんので、ありのままに教えてください。

回答が終わりましたら、調査票と一緒に配布された封筒に入れて郵送で返送してください。

なお、パソコンやスマートフォンで回答することもできます。

■パソコンの場合 → [https://\[REDACTED\]](https://[REDACTED]) にアクセスしてください。

■スマートフォンの場合 → 下記の2次元バーコードを読み込んでアクセスしてください。



【Ⅰ】高校進学について

まず始めに、あなたの高校進学についてお尋ねします。

《全員対象》

Q1.あなたが高校に進学したのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 大学に進学したいから
2. もっと勉強したいから
3. 部活動を頑張りたいから
4. 友だちと一緒にいたいから
5. 親が勧めるから
6. 将来、希望の職業に就くために必要だから
7. 家を出たいから
8. 島を離れたいから
9. まだ就職したくないから
10. その他(具体的に: _____)
11. 特に理由はない

《全員対象》

Q2.あなたは、高校進学後、どこに住んでいますか。次の選択肢から、当てはまるものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 沖縄本島（南部：浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南）
2. 沖縄本島（中部：うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北）
3. 沖縄本島（北部：金武町、恩納村以北）
4. 久米島地区
5. 宮古地区
6. 八重山地区
7. 本土
8. その他（具体的に：_____）

《全員対象》

Q3.あなたがそこに住んでいるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する高校がそこにしかないから
2. なるべく都会で生活したいから
3. なるべく家から離れたくないから
4. 親が勧めるから
5. その他（具体的に：_____）

《全員対象》

Q4.あなたは、高校進学後、どのようなところに住んでいますか。次の選択肢から、当てはまるものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 学生寮に入寮している
2. 下宿・アパートを借りている
3. 家族と共に移住している
4. 親戚等・知人宅に居住している
5. 中学まで住んでいた家に住み続けている
6. その他（具体的に：_____）

《Q4.で5. 以外を選択した生徒対象》

Q5.あなたは、高校進学後、住んでいた島を離れて生活することになりましたが、それについてどう思っていますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 絶対に島を離れたくなかった
2. できれば島を離れたくなかった
3. 特に何も思っていない
4. この機会に島を離れてみたかった
5. ぜひ島を離れたかった
6. その他（具体的に：_____）

《全員対象》

Q6.最近、テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用することによって、島内の学校に通学しながら、本土などの遠隔地の高校の授業を受けることができる新しい形態※の高校のあり方が検討されています。(※同級生とはICT技術により画面を通じてつながっている形態)
仮に、このような形態の高校が島内に設置されたとしたら、あなたはその高校への進学を検討したでしょうか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. ぜひ進学したいと思う
2. 進学を検討してみたいと思う
3. どちらとも言えない
4. あまり進学したくないと思う
5. 絶対に進学したくないと思う
6. その他(具体的に: _____)

《全員対象》

Q7.検討中の新しい形態の高校について、あなたがそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業をうけることができそうだから
3. 友だちと一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 部活動ができなそうだから
8. ICTを活用したイメージが分からないから
9. その他(具体的に: _____)

《全員対象》

Q8.あなたは、高校進学を検討するにあたり、通信制高校への進学を検討しましたか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 通信制高校への進学を検討したことがある
2. 通信制高校への進学を検討したことはない
3. その他(具体的に: _____)

《全員対象》

Q9.通信制高校について、あなたがそう考えたのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業をうけることができそうだから
3. 友だちと一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 他に行きたい高校があるから
8. 部活動ができなそうだから
9. 沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから
10. その他(具体的に: _____)

【Ⅱ】将来の希望について

次に、あなたの将来の進路希望についてお尋ねします。

《全員対象》

Q10.あなたは、高校を卒業したら、どのような進路をとりたいと考えていますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大学へ進学したい
2. 専門学校へ進学したい
3. 就職したい
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q11.あなたは、将来、どのような職業に就きたいと考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 企業等に就職(被雇用者)
2. 自営業(店や会社を起業等)
3. 自営業(家業)
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q12.あなたは、将来、どこに住むことを希望していますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 中学生時に住んでいた島
2. 沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)
3. 沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)
4. 沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)
5. 久米島地区
6. 宮古地区
7. 八重山地区
8. 本土
9. その他(具体的に: _____)
10. まだ分からない

《Q12.で1. を選択した生徒対象》

Q13.あなたが「中学生時に住んでいた島」に住むことを希望しているのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島が好きだから
5. 友人が多くいるから
6. 家族と一緒にいたいから
7. その他(具体的に: _____)

《Q12.で1. を選択しなかった生徒対象》

Q14.あなたが「中学生時に住んでいた島」に住むことを希望しないのはどうしてですか。次の選択肢から、あてはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島の外にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島の外が好きだから
5. 島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)
6. その他(具体的に:_____)

【Ⅲ】島での生活について

次に、中学生時に住んでいた島での生活についてお尋ねします。

《全員対象》

Q15.あなたは、中学生時に住んでいた島での生活に満足していましたか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q16.あなたは、中学生時に住んでいた島での学校生活や教育に満足していましたか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q17.あなたが、中学生時に住んでいた島での学校生活や教育について、満足できるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が多い
4. 自分の学力に合った教育が受けられる
5. 校舎や校庭が広い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している
7. 保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる
8. その他(具体的に:_____)
9. 満足できる点はない

《全員対象》

Q18.あなたが、中学生時に住んでいた島での学校生活や教育について、不満に感じるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が少ない
4. 自分の学力に合った教育が受けられない
5. 校舎や校庭が狭い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない
7. 保護者や地域の方々が学校に無関心
8. 高校・大学がない
9. その他(具体的に:_____)
10. 不満な点はない

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

離島出身の高校生の保護者の進路意識 に関する調査

本調査では、離島の中学校出身の高校1年生の保護者の進路に関する意識についてお尋ねします。
無記名の調査で誰の回答か分からなくなっています。また、調査結果はコンピュータで統計的に処理され、
個別の回答が公表されることはありませんので、ありのままに教えてください。

回答が終わりましたら、調査票と一緒に配布された封筒に入れて郵送で返送してください。

なお、パソコンやスマートフォンで回答することもできます。

■パソコンの場合 → [https://\[redacted\]](https://[redacted]) にアクセスしてください。

■スマートフォンの場合 → 下記の2次元バーコードを読み込んでアクセスしてください。



【Ⅰ】高校進学について

まず始めに、あなたのお子さんの高校進学についてお尋ねします。

《全員対象》

Q1.あなたのお子さんが高校に進学したのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 大学に進学したいから
2. もっと勉強したいから
3. 部活動を頑張りたいから
4. 友だちと一緒にいたいから
5. 親が勧めるから
6. 将来、希望の職業に就くために必要だから
7. 家を出たいから
8. 島を離れたいから
9. まだ就職したくないから
10. その他(具体的に: _____)
11. 特に理由はない

《全員対象》

Q2.あなたのお子さんは、今春、高校進学後、どこに住んでいますか。次の選択肢から、当てはまるものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)
2. 沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)
3. 沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)
4. 久米島地区
5. 宮古地区
6. 八重山地区
7. 本土
8. その他(具体的に:_____)

《全員対象》

Q3.あなたのお子さんがそこに住んでいるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する高校がそこにしかないから
2. なるべく都会で生活したいから
3. なるべく家から離れたくないから
4. 親が勧めるから
5. その他(具体的に:_____)

《全員対象》

Q4.あなたのお子さんは、今春、高校進学後、どのようなところに住んでいますか。次の選択肢から、当てはまるものを1つだけ選んでください。＜MA＞

1. 学生寮に入寮している
2. 下宿・アパートを借りている
3. 家族と共に移住している
4. 親戚等・知人宅に居住している
5. 中学まで住んでいた家に住み続けている
6. その他(具体的に:_____)

《Q4.で5. 以外を選択した保護者対象》

Q5.あなたのお子さんは、今春、高校進学後、現在住んでいる島を離れて生活することになりましたが、それについてどう思っていますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 絶対に島を離れてほしくなかった
2. できれば島を離れてほしくなかった
3. 特に何も思っていない
4. この機会に島を離れてみてもよいと思った
5. ぜひ島を離れてほしかった
6. その他(具体的に:_____)

《全員対象》

Q6.最近、テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用することによって、島内の学校に通学しながら、本土などの遠隔地の高校の授業を受けることができる新しい形態※の高校のあり方が検討されています。(※同級生とはICT技術により画面を通じてつながっている形態)

仮に、このような形態の高校が島内に設置されたとしたら、あなたのお子さんはその高校への進学を検討したでしょうか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. ぜひ進学したいと思う
2. 進学を検討してみたいと思う
3. どちらとも言えない
4. あまり進学したくないと思う
5. 絶対に進学したくないと思う
6. その他(具体的に:_____)

《全員対象》

Q7.検討中の新しい形態の高校について、あなたがそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業を受けることができそうだから
3. 友達と一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 部活動ができなそうだから
8. ICTを活用したイメージが分からないから
9. その他(具体的に:_____)

《全員対象》

Q8.あなたのお子さんは、高校進学を検討するにあたり、通信制高校への進学を検討しましたか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 通信制高校への進学を検討したことがある
2. 通信制高校への進学を検討したことはない
3. その他(具体的に:_____)

《全員対象》

Q9.通信制高校について、あなたのお子さんがそう考えたのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 家から通学できるから
2. 自分の学力に合った授業を受けることができそうだから
3. 友達と一緒に通学できるから
4. 自由に活動できる時間が多そうだから
5. 大学受験に不利そうだから
6. 高校進学時には島を出たいと思っているから
7. 他に行きたい高校があるから
8. 部活動ができなそうだから
9. 沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから
10. その他(具体的に:_____)

【Ⅱ】将来の希望について

次に、あなたのお子さんの将来の進路希望についてお尋ねします。

《全員対象》

Q10.あなたのお子さんは、高校を卒業したら、どのような進路をとりたいと考えていますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大学へ進学したい
2. 専門学校へ進学したい
3. 就職したい
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q11.あなたのお子さんは、将来、どのような職業に就きたいと考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 企業等に就職(被雇用者)
2. 自営業(店や会社を起業等)
3. 自営業(家業)
4. その他(具体的に: _____)
5. まだ分からない

《全員対象》

Q12.あなたのお子さんは、将来、どこに住むことを希望していますか。次の選択肢から、最も希望に近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 現在住んでいる島
2. 沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)
3. 沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)
4. 沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)
5. 久米島地区
6. 宮古地区
7. 八重山地区
8. 本土
9. その他(具体的に: _____)
10. まだ分からない

《Q12.で1. を選択した保護者対象》

Q13.あなたのお子さんが「現在住んでいる島」に住むことを希望しているのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島が好きだから
5. 友人が多くいるから
6. 家族と一緒にいたいから
7. その他(具体的に: _____)

《Q12.で1. を選択しなかった保護者対象》

Q14.あなたのお子さんが「現在住んでいる島」に住むことを希望しないのはどうしてですか。次の選択肢から、あてはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 希望する職業等が島の外にあるから
2. 家庭の事情
3. 経済的理由から
4. 島の外が好きだから
5. 島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)
6. その他(具体的に:_____)

【Ⅲ】島での生活について

次に、現在、お住いの島での生活についてお尋ねします。

《全員対象》

Q15.あなた自身は、この島での生活に満足していますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q16.あなた自身は、この島での学校生活や教育に満足していますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 大変満足している
2. おおむね満足している
3. どちらでもない
4. やや不満である
5. とても不満である

《全員対象》

Q17.あなた自身が、この島での学校生活や教育について、満足できるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、あてはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が多い
4. 自分の学力に合った教育が受けられる
5. 校舎や校庭が広い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している
7. 保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる
8. その他(具体的に:_____)
9. 満足できる点はない

《全員対象》

Q18.あなた自身が、この島での学校生活や教育について、不満に感じるのはどのような点でしょうか。次の選択肢から、当てはまるものを幾つでも選んでください。＜MA＞

1. 学校の生徒数が少ない
2. 小中学校で同級生が変わらない
3. 良い先生が少ない
4. 自分の学力に合った教育が受けられない
5. 校舎や校庭が狭い
6. パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない
7. 保護者や地域の方々が学校に無関心
8. 高校・大学がない
9. その他(具体的に: _____)
10. 不満な点はない

【Ⅳ】お子さんのきょうだいについて

最後に、あなたのお子さんのきょうだいについてお尋ねします。

《全員対象》

Q19.あなたのお子さんには、高校に進学したきょうだいがありますか。次の選択肢から、当てはまるものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 高校に進学したきょうだいがいる
2. 高校に進学したきょうだいはいない

《Q19.で1. を選択した保護者対象》

Q20.あなたのお子さんのきょうだいが高校に進学した際は、どのようなところに住みましたか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 学生寮に入寮した
2. 下宿・アパートを借た
3. 家族と共に移住した
4. 親戚等・知人宅に居住した
5. 中学生の頃に住んでいた家に住み続けていた
6. その他(具体的に: _____)

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

離島の中学生の進路に関する自治体調査

本調査では、離島(うるま市津堅島・南城市久高島・本部町水納島)の中学生の進路についてお尋ねします。

回答が終わりましたら、調査票を cao2019@icr.co.jp 宛に、電子メールに添付して返送してください。

【I】中学生の卒業後の進路について

まず始めに、貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の生徒の卒業後の進路についてお尋ねします。

《全自治体対象》

Q1.貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の卒業生の最近5年間の進路を下表に記入してください。＜NA＞

(単位:人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
1. 高校(全日制)進学					
2. 高校(通信制その他)進学					
3. 高専(高等専門学校)進学					
4. 専門学校(高等専修学校)進学					
5. 就職					
6. その他(具体的に: _____)					
中学校卒業生合計					

《全自治体対象》

Q2.貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の卒業生の進路にはどのような傾向や特徴及びその背景がありますか。＜FA＞

＜記載例＞“当島では農業が盛んであることから、農業系の進学率が高くなっている。”

《全自治体対象》

Q3.貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の卒業生が高校進学を希望する場合、島から離れなくてはならないことについて、どのように考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 生徒が人間的に成長する機会である
2. 生徒の人間関係が広がる機会である
3. 生徒が様々な経験ができる機会である
4. 若者が一度、島を離れてしまうと、将来、島に帰って来る可能性が低い
5. 家族を帯同して本島等に移住してしまうケースがある
6. 高校進学を諦める中学生がいる
7. 教育の機会均等の観点から問題である
8. その他(具体的に:_____)

《全自治体対象》

Q4.最近、テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用することによって、島内の学校に通学しながら、本土などの遠隔地の高校の授業を受けることができる新しい形態※の高校のあり方が検討されています。(※同級生とはICT技術により画面を通じてつながっている形態)
仮に、このような形態の高校を津堅島・久高島・水納島内に設置することが可能になったとしたら、貴自治体では、設置に向けて取り組みますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 設置に向け、積極的に取り組みたい
2. 自治体の負担の規模等を踏まえ検討したい
3. 取り組む予定はない
4. その他(具体的に:_____)

《全自治体対象》

Q5.貴自治体がそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. ニーズがあると考えするため
2. ニーズがないと考えするため
3. 中学生が島を離れることを抑止できそうに思えないため
4. 自治体の負担が生じるため
5. 現状より保護者の負担が軽減されそうのため
6. 対象者が少ないため
7. 人材の確保が困難なため
8. その他(具体的に:_____)

《全自治体対象》

Q6.貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の卒業生の進路として、既存の通信制高校への進学者が少ないのはなぜですか。＜FA＞

--

【Ⅱ】教育上の課題について

次に、教育上の課題についてお尋ねします。

《全自治体対象》

Q7.離島の特性等による、貴自治体の津堅島・久高島・水納島での教育上の課題には、どのようなものがありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない
2. 児童・生徒の学力水準が低い
3. 児童・生徒の人間関係が固定化している
4. 教員の人数が少ない
5. プログラミング教育や英語学習など新しい教育課程を十分にこなせない
6. 文化的刺激(図書館・美術館・博物館等)が少ない
7. 部活動の種類や活動範囲に制約が大きい
8. 学習塾や習い事の機会が少ない
9. その他(具体的に:_____)
10. 特に課題はない

《Q7.で1. ～9. を選択した自治体対象》

Q8.上記Q7.で掲げた課題の解決策はありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 様々な児童・生徒と交流する機会を増やす
2. 教員の研修機会を増やす
3. 専門分野の教員から授業を受ける機会を増やす
4. 島の外に出る機会を増やす
5. その他(具体的に:_____)

【Ⅲ】高校進学に対する取り組みについて

次に、津堅島・久高島・水納島を離れて高校に進学する/した生徒・保護者に対する取り組みについてお尋ねします。

《全自治体対象》

Q9.貴自治体では、津堅島・久高島・水納島を離れて高校に進学する/した生徒・保護者に対して、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 経済的負担の軽減策をしている
2. 経済面以外の支援策をしている
3. 将来のUターンに向けた働きかけをしている
4. その他(具体的に: _____)
5. 特に何もしていない

《Q9.で1. を選択した自治体対象》

Q10.経済的負担の軽減策として、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 奨学金の給与
2. 奨学金の貸与
3. 奨学金の斡旋・紹介
4. 本島等に学生寮の整備
5. 下宿代等の一部補助
6. 交通費等の一部補助
7. その他の支援金の給付
8. その他(具体的に: _____)

《Q9.で2. を選択した自治体対象》

Q11.経済面以外の支援策として、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 進路情報の提供
2. 下宿・アパートの紹介
3. 島の出身者の紹介
4. 自治体広報誌の送付
5. 島の出身者のSNSの運営
6. 同窓会の開催
7. その他(具体的に: _____)

《Q9.で3. を選択した自治体対象》

Q12.将来のUターンに向けた働きかけとして、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 就職情報の提供
2. Uターン者の紹介
3. SOHOの支援
4. 自治体広報誌の送付
5. 島の出身者のSNSの運営
6. 同窓会の開催
7. その他(具体的に: _____)

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

【ご回答者】

自治体	市 郡 町
部署	
お名前	
電話番号	
電子メールアドレス	

離島の中学生の進路に関する自治体調査

本調査では、離島の中学生の進路についてお尋ねします。

回答が終わりましたら、調査票を cao2019@icr.co.jp 宛に、電子メールに添付して返送してください。

【Ⅰ】中学生の卒業後の進路について

まず始めに、貴自治体の公立中学校の生徒の卒業後の進路についてお尋ねします。

《全自治体対象》

Q1.貴自治体の公立中学校の卒業生の最近5年間の進路を下表に記入してください。＜NA＞

(単位:人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
1. 高校(全日制)進学					
2. 高校(通信制その他)進学					
3. 高専(高等専門学校)進学					
4. 専門学校(高等専修学校)進学					
5. 就職					
6. その他(具体的に: _____)					
中学校卒業生合計					

《全自治体対象》

Q2.貴自治体の公立中学校の卒業生の進路にはどのような傾向や特徴及びその背景がありますか。＜FA＞

＜記載例＞“当島では農業が盛んであることから、農業系の進学率が高くなっている。”

《全自治体対象》

Q3.貴自治体の公立中学校の卒業生が高校進学を希望する場合、島から離れなくてはならないことについて、どのように考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 生徒が人間的に成長する機会である
2. 生徒の人間関係が広がる機会である
3. 生徒が様々な経験ができる機会である
4. 若者が一度、島を離れてしまうと、将来、島に帰って来る可能性が低い
5. 家族を帯同して本島等に移住してしまうケースがある
6. 高校進学を諦める中学生がいる
7. 教育の機会均等の観点から問題である
8. その他(具体的に:_____)

《全自治体対象》

Q4.最近、テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用することによって、島内の学校に通学しながら、本土などの遠隔地の高校の授業を受けることができる新しい形態※の高校のあり方が検討されています。(※同級生とはICT技術により画面を通じてつながっている形態)
仮に、このような形態の高校を島内に設置することが可能になったとしたら、貴自治体では、設置に向けて取り組みますか。次の選択肢から、最も考えに近いものを1つだけ選んでください。＜SA＞

1. 設置に向け、積極的に取り組みたい
2. 自治体の負担の規模等を踏まえ検討したい
3. 取り組む予定はない
4. その他(具体的に:_____)

《全自治体対象》

Q5.貴自治体がそう考えるのはどうしてですか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. ニーズがあると考えするため
2. ニーズがないと考えするため
3. 中学生が島を離れることを抑止できそうに思えないため
4. 自治体の負担が生じるため
5. 現状より保護者の負担が軽減されそうのため
6. 対象者が少ないため
7. 人材の確保が困難なため
8. その他(具体的に:_____)

《全自治体対象》

Q6.貴自治体の公立中学校の卒業生の進路として、既存の通信制高校への進学者が少ないのはなぜですか。＜FA＞

--

【Ⅱ】教育上の課題について

次に、教育上の課題についてお尋ねします。

《全自治体対象》

Q7.離島の特性等による、貴自治体の教育上の課題には、どのようなものがありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない
2. 児童・生徒の学力水準が低い
3. 児童・生徒の人間関係が固定化している
4. 教員の人数が少ない
5. プログラミング教育や英語学習など新しい教育課程を十分にこなせない
6. 文化的刺激(図書館・美術館・博物館等)が少ない
7. 部活動の種類や活動範囲に制約が大きい
8. 学習塾や習い事の機会が少ない
9. その他(具体的に:_____)
10. 特に課題はない

《Q7.で1. ～9. を選択した自治体対象》

Q8.上記Q7.で掲げた課題の解決策はありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 様々な児童・生徒と交流する機会を増やす
2. 教員の研修機会を増やす
3. 専門分野の教員から授業を受ける機会を増やす
4. 島の外に出る機会を増やす
5. その他(具体的に:_____)

【Ⅲ】高校進学に対する取り組みについて

次に、島を離れて高校に進学する/した生徒・保護者に対する取り組みについてお尋ねします。

《全自治体対象》

Q9.貴自治体では、島を離れて高校に進学する/した生徒・保護者に対して、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 経済的負担の軽減策をしている
2. 経済面以外の支援策をしている
3. 将来のUターンに向けた働きかけをしている
4. その他(具体的に: _____)
5. 特に何もしていない

《Q9.で1. を選択した自治体対象》

Q10.経済的負担の軽減策として、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 奨学金の給与
2. 奨学金の貸与
3. 奨学金の斡旋・紹介
4. 本島等に学生寮の整備
5. 下宿代等の一部補助
6. 交通費等の一部補助
7. その他の支援金の給付
8. その他(具体的に: _____)

《Q9.で2. を選択した自治体対象》

Q11.経済面以外の支援策として、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 進路情報の提供
2. 下宿・アパートの紹介
3. 島の出身者の紹介
4. 自治体広報誌の送付
5. 島の出身者のSNSの運営
6. 同窓会の開催
7. その他(具体的に: _____)

《Q9.で3. を選択した自治体対象》

Q12.将来のUターンに向けた働きかけとして、どのような取り組みをしていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 就職情報の提供
2. Uターン者の紹介
3. SOHOの支援
4. 自治体広報誌の送付
5. 島の出身者のSNSの運営
6. 同窓会の開催
7. その他(具体的に: _____)

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

【ご回答者】

自治体	郡	町・村
部署		
お名前		
電話番号		
電子メールアドレス		

離島の中学生の進路に関する小中校長調査

本調査では、離島(うるま市津堅島・南城市久高島・本部町水納島)の中学生の進路についてお尋ねします。

回答が終わりましたら、調査票を cao2019@icr.co.jp 宛に、電子メールに添付して返送してください。

【I】中学生の卒業後の進路について

まず始めに、貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の生徒の卒業後の進路についてお尋ねします。

《全員対象》

Q1.貴自治体の津堅島・久高島・水納島に所在する公立中学校の卒業生が高校進学を希望する場合、島から離れなくてはならないことについて、どのように考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつか選んでください。＜MA＞

1. 生徒が人間的に成長する機会である
2. 生徒の人間関係が広がる機会である
3. 生徒が様々な経験ができる機会である
4. 若者が一度、島を離れてしまうと、将来、島に帰って来る可能性が低い
5. 家族を帯同して本島等に移住してしまうケースがある
6. 高校進学を諦める中学生がいる
7. 教育の機会均等の観点から問題である
8. その他(具体的に: _____)

【Ⅱ】教育上の課題について

次に、教育上の課題についてお尋ねします。

《全員対象》

Q2.離島の特性等による、貴校の教育上の課題には、どのようなものがありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない
2. 児童・生徒の学力水準が低い
3. 児童・生徒の人間関係が固定化している
4. 教員の人数が少ない
5. プログラミング教育や英語学習など新しい教育課程を十分にこなせない
6. 文化的刺激(図書館・美術館・博物館等)が少ない
7. 部活動の種類や活動範囲に制約が大きい
8. 学習塾や習い事の機会が少ない
9. その他(具体的に: _____)
10. 特に課題はない

《Q2.で1. ～9. を選択した校長先生対象》

Q3.上記Q7.で掲げた課題の解決策はありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 様々な児童・生徒と交流する機会を増やす
2. 教員の研修機会を増やす
3. 専門分野の教員から授業を受ける機会を増やす
4. 島の外に出る機会を増やす
5. その他(具体的に: _____)

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

【ご回答者】

自治体	市 郡 町
学校	小・中学校
お名前	
電話番号	
電子メールアドレス	

離島の中学生の進路に関する小中校長調査

本調査では、離島の中学生の進路についてお尋ねします。

回答が終わりましたら、調査票を cao2019@icr.co.jp 宛に、電子メールに添付して返送してください。

【Ⅰ】中学生の卒業後の進路について

まず始めに、貴自治体の公立中学校の生徒の卒業後の進路についてお尋ねします。

《全員対象》

Q1. 貴自治体の公立中学校の卒業生が高校進学を希望する場合、島から離れなくてはならないことについて、どのように考えていますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 生徒が人間的に成長する機会である
2. 生徒の人間関係が広がる機会である
3. 生徒が様々な経験ができる機会である
4. 若者が一度、島を離れてしまうと、将来、島に帰って来る可能性が低い
5. 家族を帯同して本島等に移住してしまうケースがある
6. 高校進学を諦める中学生がいる
7. 教育の機会均等の観点から問題である
8. その他(具体的に: _____)

【Ⅱ】教育上の課題について

次に、教育上の課題についてお尋ねします。

《全員対象》

Q2.離島の特性等による、貴校の教育上の課題には、どのようなものがありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない
2. 児童・生徒の学力水準が低い
3. 児童・生徒の人間関係が固定化している
4. 教員の人数が少ない
5. プログラミング教育や英語学習など新しい教育課程を十分にこなせない
6. 文化的刺激(図書館・美術館・博物館等)が少ない
7. 部活動の種類や活動範囲に制約が大きい
8. 学習塾や習い事の機会が少ない
9. その他(具体的に:_____)
10. 特に課題はない

《Q2.で1. ～9. を選択した校長先生対象》

Q3.上記Q7.で掲げた課題の解決策はありますか。次の選択肢から、当てはまるものをいくつでも選んでください。＜MA＞

1. 様々な児童・生徒と交流する機会を増やす
2. 教員の研修機会を増やす
3. 専門分野の教員から授業を受ける機会を増やす
4. 島の外に出る機会を増やす
5. その他(具体的に:_____)

質問は以上です。ご協力いただき、誠に有難うございました。

【ご回答者】

自治体	郡	町・村
学校	小・中学校	
お名前		
電話番号		
電子メールアドレス		

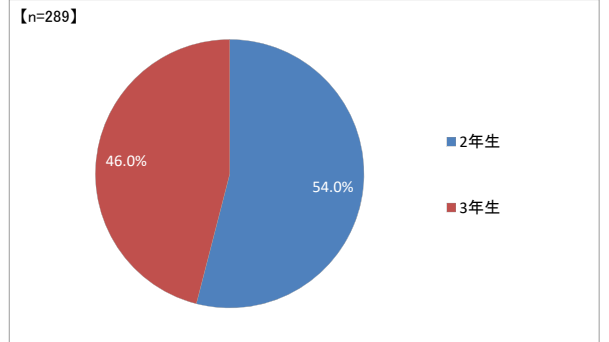
(2) I C Tを活用した離島における高校教育に関するアンケート集計表（全体版）

- 中学生対象調査
- 中学生の保護者対象調査
- 高校生対象調査
- 高校生の保護者対象調査
- 自治体対象調査
- 小中校長対象調査

【中学生】

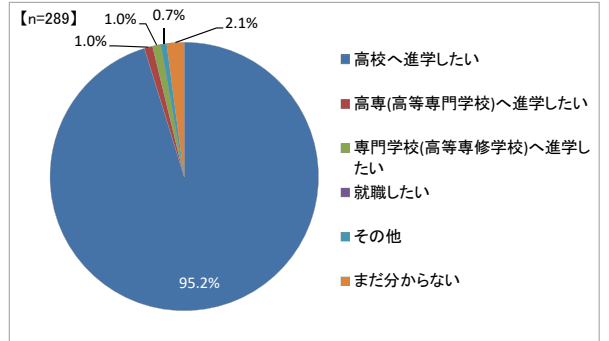
学年		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	2年生	156	53.8	54.0
2	3年生	133	45.9	46.0
	不明	1	0.3	
	N (96ヘース)	290	100	289

【n=289】



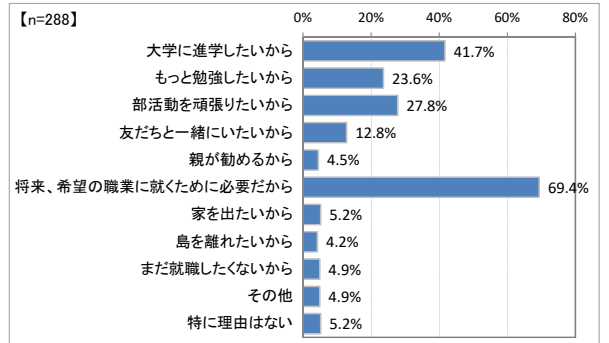
Q1 中学校卒業後の進路希望		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	高校へ進学したい	275	94.8	95.2
2	高専(高等専門学校)へ進学したい	3	1.0	1.0
3	専門学校(高等専修学校)へ進学したい	3	1.0	1.0
4	就職したい	0	0.0	0.0
5	その他	2	0.7	0.7
6	まだ分からない	6	2.1	2.1
	不明	1	0.3	
	N (96ヘース)	290	100	289

【n=289】



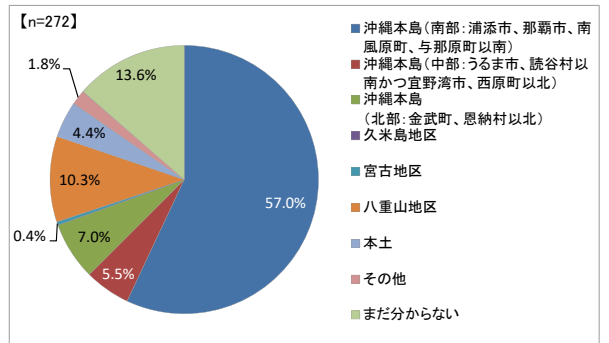
Q2 進路の希望理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	大学に進学したいから	120	41.4	41.7
2	もっと勉強したいから	68	23.4	23.6
3	部活動を頑張りたいから	80	27.6	27.8
4	友達と一緒にいたいから	37	12.8	12.8
5	親が勧めるから	13	4.5	4.5
6	将来、希望の職業に就くために必要だから	200	69.0	69.4
7	家を出たいから	15	5.2	5.2
8	島を離れたいから	12	4.1	4.2
9	まだ就職したくないから	14	4.8	4.9
10	その他	14	4.8	4.9
11	特に理由はない	15	5.2	5.2
	不明	2	0.7	
	N (96ヘース)	290	100	288

【n=288】



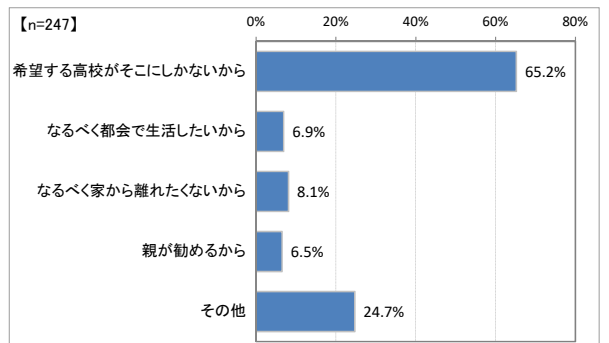
Q3 高校進学後の居住予定地		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	155	56.4	57.0
2	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	15	5.5	5.5
3	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	19	6.9	7.0
4	久米島地区	0	0.0	0.0
5	宮古地区	1	0.4	0.4
6	八重山地区	28	10.2	10.3
7	本土	12	4.4	4.4
8	その他	5	1.8	1.8
9	まだ分からない	37	13.5	13.6
	不明	3	1.1	
	N (96ヘース)	275	100	272

【n=272】



Q4 居住予定の理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	希望する高校がそこにしかないから	161	58.5	65.2
2	なるべく都会で生活したいから	17	6.2	6.9
3	なるべく家から離れたくないから	20	7.3	8.1
4	親が勧めるから	16	5.8	6.5
5	その他	61	22.2	24.7
	不明	28	10.2	
	N (96ヘース)	275	100	247

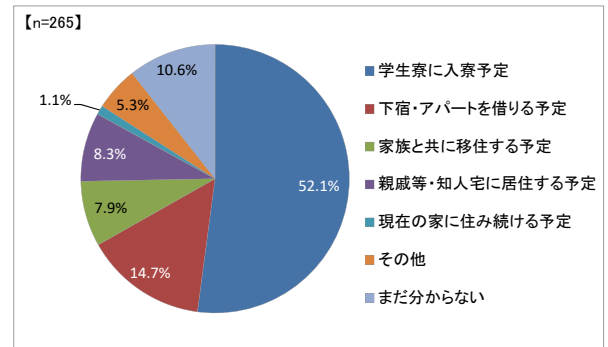
【n=247】



【中学生】

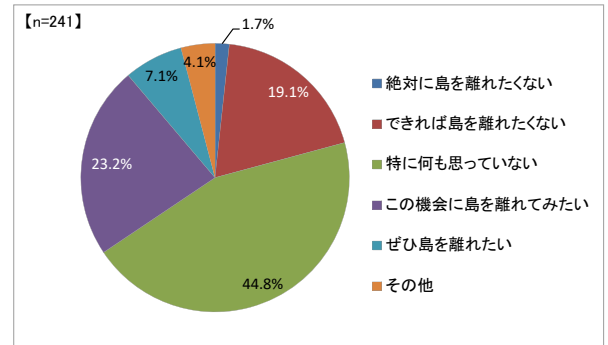
Q5.高校進学後の居住予定場所 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学生寮に入寮予定	138	50.2 52.1
2	下宿・アパートを借りる予定	39	14.2 14.7
3	家族と共に移住する予定	21	7.6 7.9
4	親戚等・知人宅に居住する予定	22	8.0 8.3
5	現在の家に住み続ける予定	3	1.1 1.1
6	その他	14	5.1 5.3
7	まだ分からない	28	10.2 10.6
	不明	10	3.6
	N (%ベース)	275	100 265

【n=265】



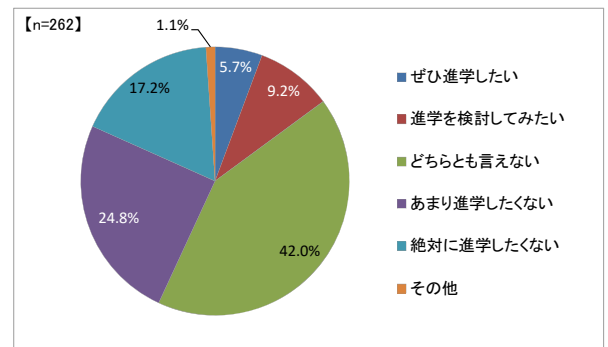
Q6.島を離れて生活することについてどう思うか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	絶対に島を離れたくない	4	1.5 1.7
2	できれば島を離れたくない	46	17.6 19.1
3	特に何も思っていない	108	41.2 44.8
4	この機会に島を離れてみたい	56	21.4 23.2
5	ぜひ島を離れたい	17	6.5 7.1
6	その他	10	3.8 4.1
	不明	21	8.0
	N (%ベース)	262	100 241

【n=241】



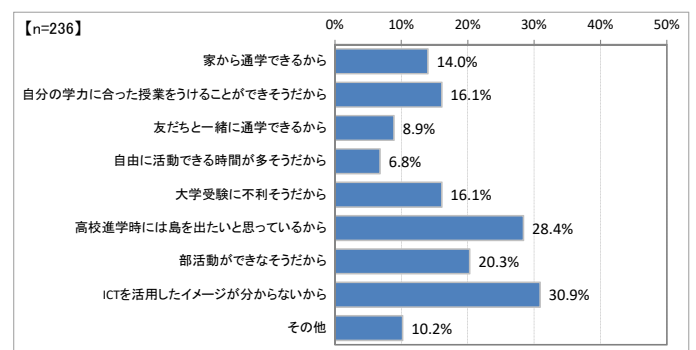
Q7.テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用した遠隔授業の高校へ進学を検討するか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	ぜひ進学したい	15	5.5 5.7
2	進学を検討してみたい	24	8.7 9.2
3	どちらとも言えない	110	40.0 42.0
4	あまり進学したくない	65	23.6 24.8
5	絶対に進学したくない	45	16.4 17.2
6	その他	3	1.1 1.1
	不明	13	4.7
	N (%ベース)	275	100 262

【n=262】



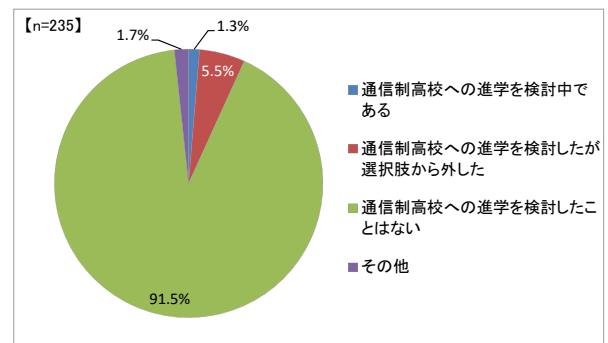
Q8.検討中の新しい形態の高校について、そう考える理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	家から通学できるから	33	12.0 14.0
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	38	13.8 16.1
3	友だちと一緒に通学できるから	21	7.6 8.9
4	自由に活動できる時間が多そうだから	16	5.8 6.8
5	大学受験に不利そうだから	38	13.8 16.1
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	67	24.4 28.4
7	部活動がきなさそうだから	48	17.5 20.3
8	ICTを活用したイメージが分からないから	73	26.5 30.9
9	その他	24	8.7 10.2
	不明	39	14.2
	N (%ベース)	275	100 236

【n=236】



Q9.通信制高校への進学の検討について (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	通信制高校への進学を検討中である	3	1.1 1.3
2	通信制高校への進学を検討したが選択肢から外した	13	4.7 5.5
3	通信制高校への進学を検討したことはない	215	78.2 91.5
4	その他	4	1.5 1.7
	不明	40	14.5
	N (%ベース)	275	100 235

【n=235】



【中学生】

Q10.通信制高校について、あなたがそう考える理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	家から通学できるから	14	5.1 6.5
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	16	5.8 7.4
3	友だちと一緒に通学できるから	10	3.6 4.6
4	自由に活動できる時間が多そうだから	7	2.5 3.2
5	大学受験に不利そうだから	41	14.9 18.9
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	37	13.5 17.1
7	他にいききたい高校があるから	121	44.0 55.8
8	部活動ができなそうだから	55	20.0 25.3
9	沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから	15	5.5 6.9
10	その他	15	5.5 6.9
	不明	58	21.1
	N (%ベース)	275	100 217

【n=217】

Q11.高校卒業後の進路希望 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大学へ進学したい	113	41.1 44.5
2	専門学校へ進学したい	53	19.3 20.9
3	就職したい	33	12.0 13.0
4	その他	7	2.5 2.8
5	まだ分からない	48	17.5 18.9
	不明	21	7.6
	N (%ベース)	275	100 254

【n=254】

Q12.将来希望する職業 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	企業等に就職(被雇用者)	108	37.2 38.7
2	自営業(店や会社を起業等)	34	11.7 12.2
3	自営業(家業)	16	5.5 5.7
4	その他	38	13.1 13.6
5	まだ分からない	110	37.9 39.4
	不明	11	3.8
	N (%ベース)	290	100 279

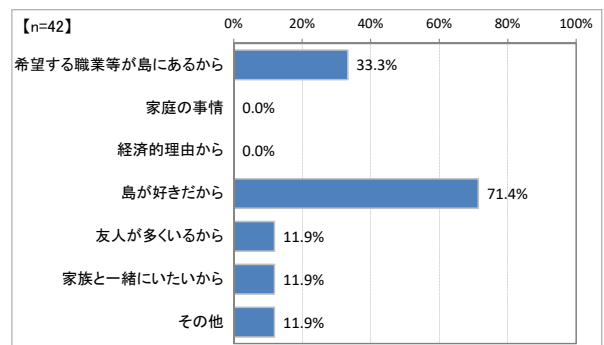
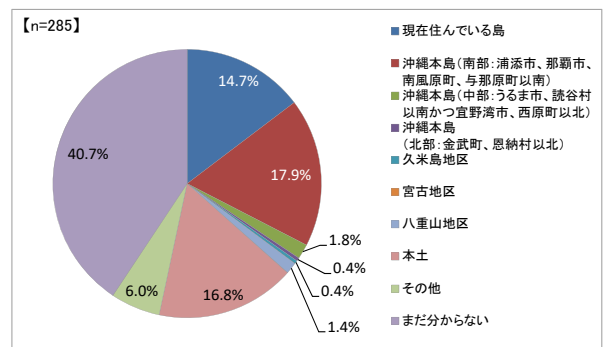
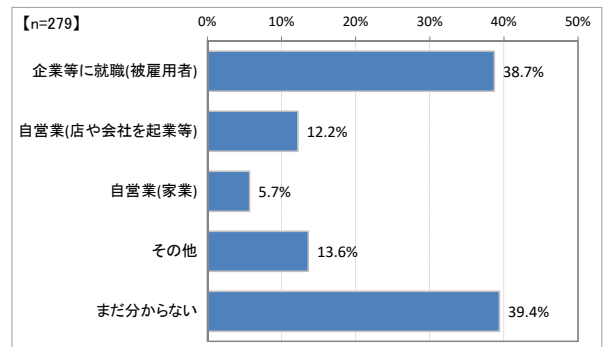
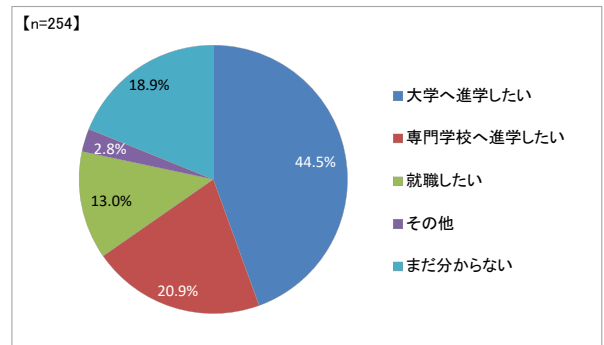
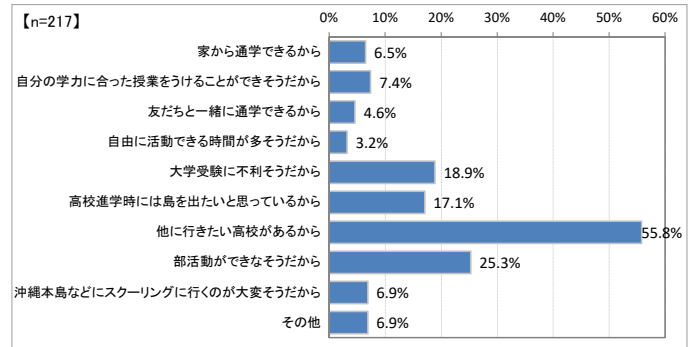
【n=279】

Q13.将来の居住希望地 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	現在住んでいる島	42	14.5 14.7
2	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	51	17.6 17.9
3	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	5	1.7 1.8
4	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	1	0.3 0.4
5	久米島地区	1	0.3 0.4
6	宮古地区	0	0.0 0.0
7	八重山地区	4	1.4 1.4
8	本土	48	16.6 16.8
9	その他	17	5.9 6.0
10	まだ分からない	116	40.0 40.7
	不明	5	1.7
	N (%ベース)	290	100 285

【n=285】

Q14.「現在住んでいる島」に住むことを希望している理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	希望する職業等が島にあるから	14	33.3 33.3
2	家庭の事情	0	0.0 0.0
3	経済的理由から	0	0.0 0.0
4	島が好きだから	30	71.4 71.4
5	友人が多くいるから	5	11.9 11.9
6	家族と一緒にいたいから	5	11.9 11.9
7	その他	5	11.9 11.9
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	42	100 42

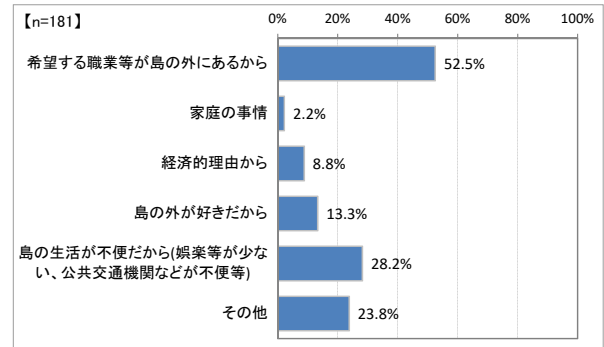
【n=42】



【中学生】

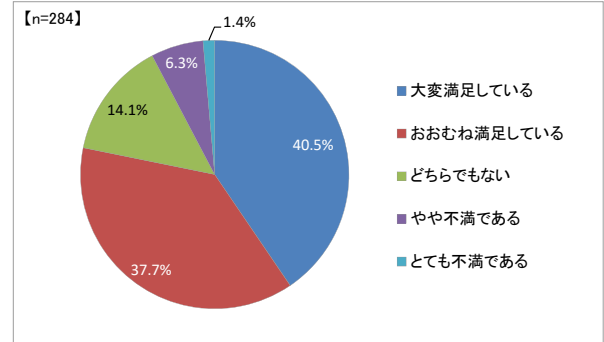
Q15「現在住んでいる島」に住むことを希望しない理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体% (除不%))
1	希望する職業等が島の外にあるから	95	39.1 52.5
2	家庭の事情	4	1.6 2.2
3	経済的理由から	16	6.6 8.8
4	島の外が好きだから	24	9.9 13.3
5	島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)	51	21.0 28.2
6	その他	43	17.7 23.8
	不明	62	25.5
	N (%ベース)	243	100

【n=181】



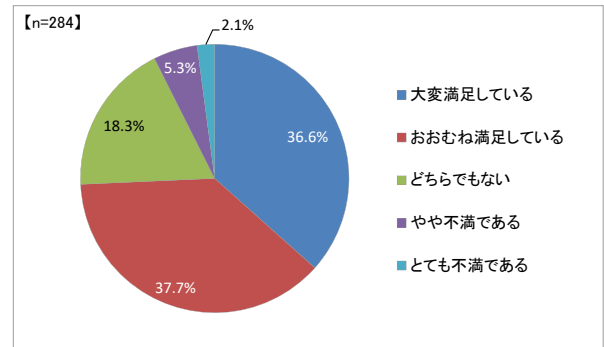
Q16.この島での生活に満足しているか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体% (除不%))
1	大変満足している	115	39.7 40.5
2	おおむね満足している	107	36.9 37.7
3	どちらでもない	40	13.8 14.1
4	やや不満である	18	6.2 6.3
5	とても不満である	6	1.4 1.4
	不明	6	2.1
	N (%ベース)	290	100

【n=284】



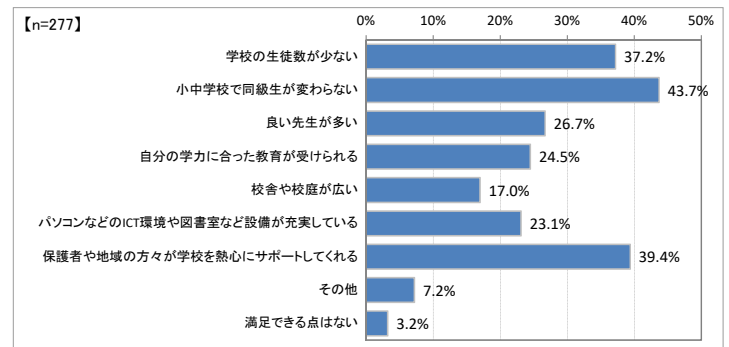
Q17.この島での学校生活や教育に満足しているか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体% (除不%))
1	大変満足している	104	35.9 36.6
2	おおむね満足している	107	36.9 37.7
3	どちらでもない	52	17.9 18.3
4	やや不満である	15	5.2 5.3
5	とても不満である	6	2.1 2.1
	不明	6	2.1
	N (%ベース)	290	100

【n=284】



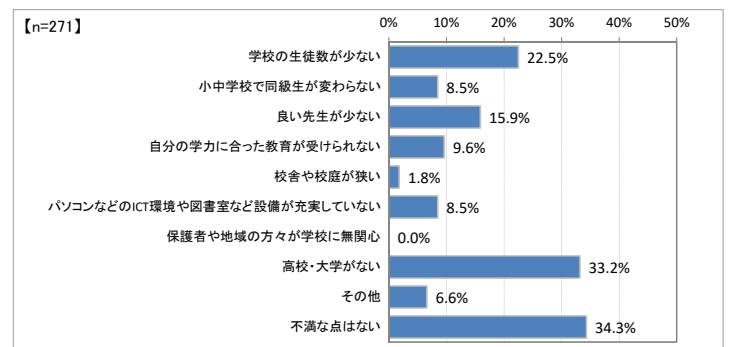
Q18.この島での学校生活や教育について、満足できる点 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体% (除不%))
1	学校の生徒数が少ない	103	35.5 37.2
2	小中学校で同級生が変わらない	121	41.7 43.7
3	良い先生が多い	74	25.5 26.7
4	自分の学力に合った教育が受けられる	68	23.4 24.5
5	校舎や校庭が広い	47	16.2 17.0
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している	64	22.1 23.1
7	保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる	109	37.6 39.4
8	その他	20	6.9 7.2
9	満足できる点はない	9	3.1 3.2
	不明	13	4.5
	N (%ベース)	290	100

【n=277】



Q19.この島での学校生活や教育について、不満な点 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体% (除不%))
1	学校の生徒数が少ない	61	21.0 22.5
2	小中学校で同級生が変わらない	23	7.9 8.5
3	良い先生が少ない	43	14.8 15.9
4	自分の学力に合った教育が受けられない	26	9.0 9.6
5	校舎や校庭が狭い	5	1.7 1.8
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない	23	7.9 8.5
7	保護者や地域の方々が学校に無関心	0	0.0 0.0
8	高校・大学がない	90	31.0 33.2
9	その他	18	6.2 6.6
10	不満な点はない	93	32.1 34.3
	不明	19	6.6
	N (%ベース)	290	100

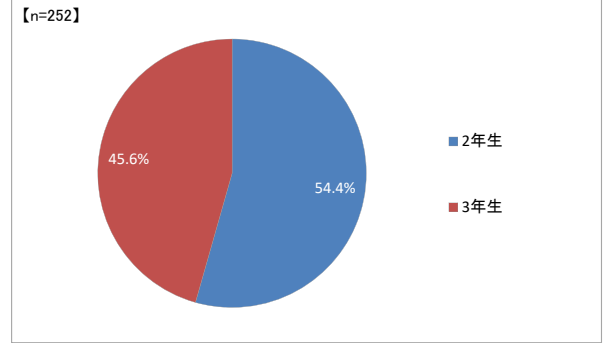
【n=271】



【中学生の保護者】

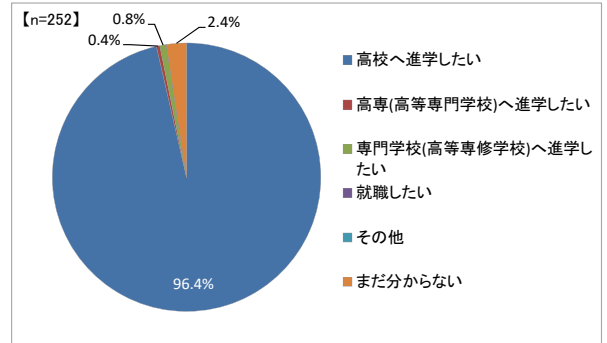
お子さんの学年		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	2年生	137	54.2	54.4
2	3年生	115	45.5	45.6
	不明	1	0.4	
	N (%ベース)	253	100	252

【n=252】



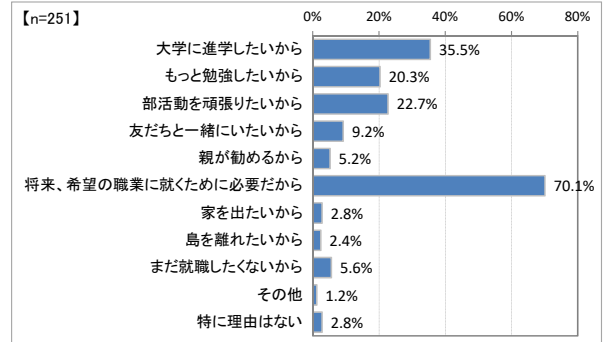
Q1 中学校卒業後の進路希望		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	高校へ進学したい	243	96.0	96.4
2	高専(高等専門学校)へ進学したい	1	0.4	0.4
3	専門学校(高等専修学校)へ進学したい	2	0.8	0.8
4	就職したい	0	0.0	0.0
5	その他	0	0.0	0.0
6	まだ分からない	6	2.4	2.4
	不明	1	0.4	
	N (%ベース)	253	100	252

【n=252】



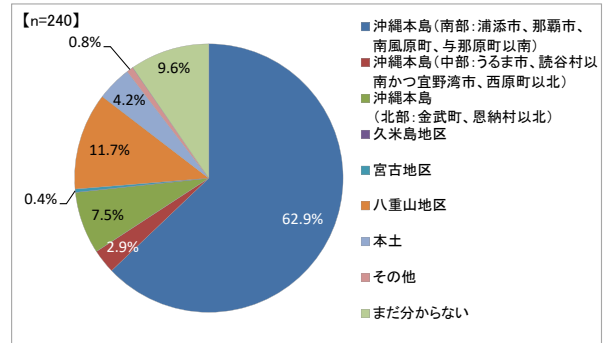
Q2 進路の希望理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	大学に進学したいから	89	35.2	35.5
2	もっと勉強したいから	51	20.2	20.3
3	部活動を頑張りたいから	57	22.5	22.7
4	友達と一緒にいたいから	23	9.1	9.2
5	親が勧めるから	13	5.1	5.2
6	将来、希望の職業に就くために必要だから	176	69.6	70.1
7	家を出たいから	7	2.8	2.8
8	島を離れたいから	6	2.4	2.4
9	まだ就職したくないから	14	5.5	5.6
10	その他	3	1.2	1.2
11	特に理由はない	7	2.8	2.8
	不明	2	0.8	
	N (%ベース)	253	100	251

【n=251】



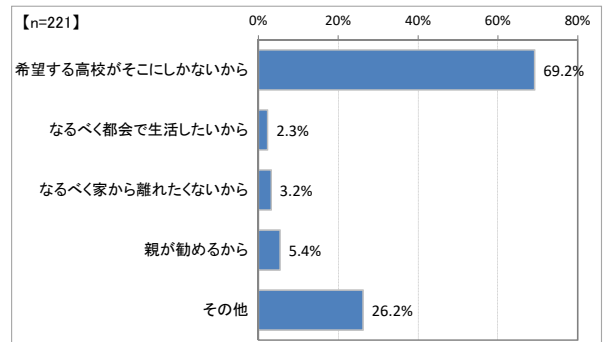
Q3 高校進学後の居住予定地		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	151	62.1	62.9
2	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	7	2.9	2.9
3	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	18	7.4	7.5
4	久米島地区	0	0.0	0.0
5	宮古地区	1	0.4	0.4
6	八重山地区	28	11.5	11.7
7	本土	10	4.1	4.2
8	その他	2	0.8	0.8
9	まだ分からない	23	9.5	9.6
	不明	3	1.2	
	N (%ベース)	243	100	240

【n=240】



Q4 居住予定の理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	希望する高校がそこにしかないから	153	63.0	69.2
2	なるべく都会で生活したいから	5	2.1	2.3
3	なるべく家から離れたいから	7	2.9	3.2
4	親が勧めるから	12	4.9	5.4
5	その他	58	23.9	26.2
	不明	22	9.1	
	N (%ベース)	243	100	221

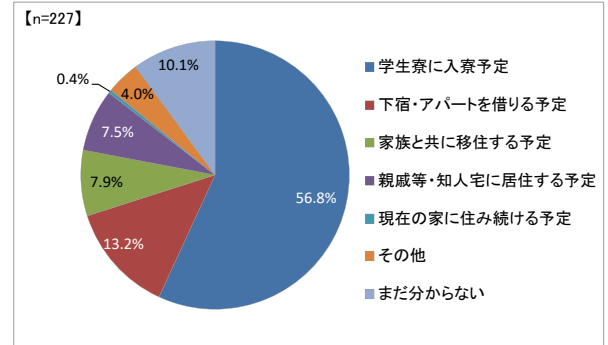
【n=221】



【中学生の保護者】

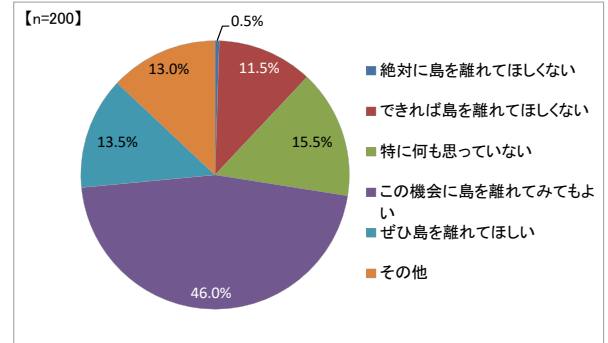
Q5.高校進学後の居住予定場所 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学生寮に入寮予定	129	53.1 56.8
2	下宿・アパートを借りる予定	30	12.3 13.2
3	家族と共に移住する予定	18	7.4 7.9
4	親戚等・知人宅に居住する予定	17	7.0 7.5
5	現在の家に住み続ける予定	1	0.4 0.4
6	その他	9	3.7 4.0
7	まだ分からない	23	9.5 10.1
	不明	16	6.6
	N (%ベース)	243	100 227

【n=227】



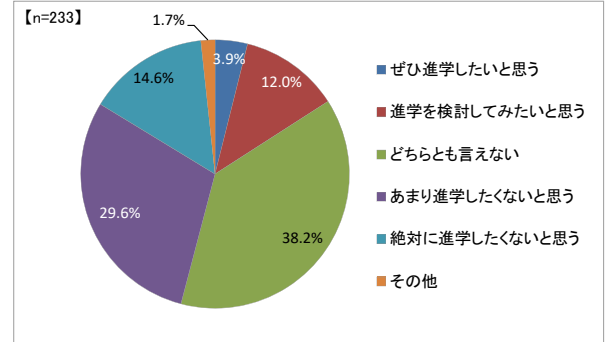
Q6.島を離れて生活することについてどう思うか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	絶対に島を離れてほしくない	1	0.4 0.5
2	できれば島を離れてほしくない	23	10.2 11.5
3	特に何も思っていない	31	13.7 15.5
4	この機会に島を離れてみてよい	92	40.7 46.0
5	ぜひ島を離れてほしい	27	11.9 13.5
6	その他	26	11.5 13.0
	不明	26	11.5
	N (%ベース)	226	100 200

【n=200】



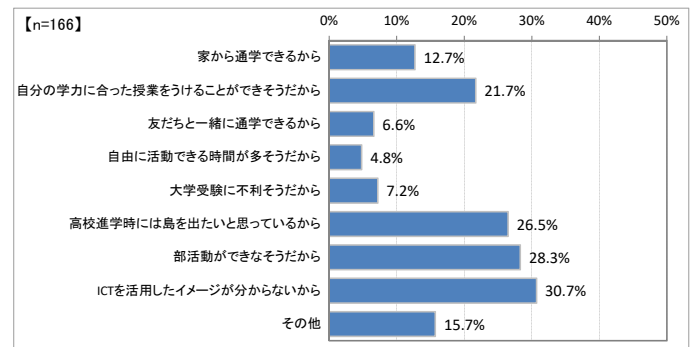
Q7.テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用した遠隔授業の高校へ進学を検討するか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	ぜひ進学したいと思う	9	3.7 3.9
2	進学を検討してみたいと思う	28	11.5 12.0
3	どちらとも言えない	89	36.6 38.2
4	あまり進学したくないと思う	69	28.4 29.6
5	絶対に進学したくないと思う	34	14.0 14.6
6	その他	4	1.6 1.7
	不明	10	4.1
	N (%ベース)	243	100 233

【n=233】



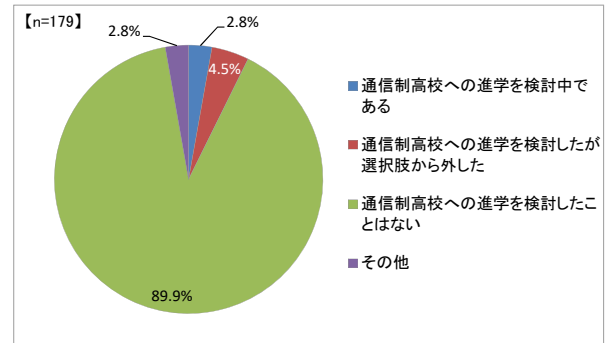
Q8.検討中の新しい形態の高校について、そう考える理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	家から通学できるから	21	8.6 12.7
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	36	14.8 21.7
3	友だちと一緒に通学できるから	11	4.5 6.6
4	自由に活動できる時間が多そうだから	8	3.3 4.8
5	大学受験に不利そうだから	12	4.9 7.2
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	44	18.1 26.5
7	部活動ができなさそうだから	47	19.3 28.3
8	ICTを活用したイメージが分からないから	51	21.0 30.7
9	その他	26	10.7 15.7
	不明	77	31.7
	N (%ベース)	243	100 166

【n=166】



Q9.通信制高校への進学を検討について (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	通信制高校への進学を検討中である	5	2.1 2.8
2	通信制高校への進学を検討したが選択肢から外した	8	3.3 4.5
3	通信制高校への進学を検討したことはない	161	66.3 89.9
4	その他	5	2.1 2.8
	不明	64	26.3
	N (%ベース)	243	100 179

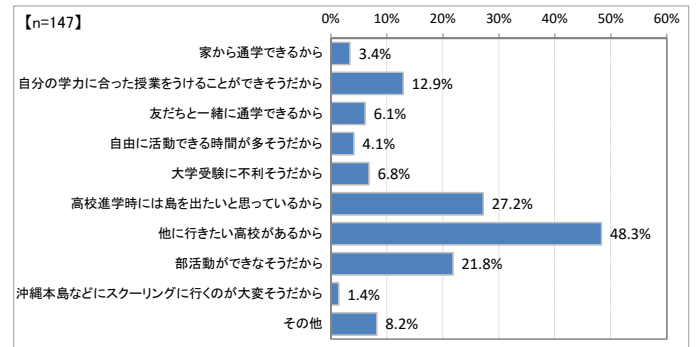
【n=179】



【中学生の保護者】

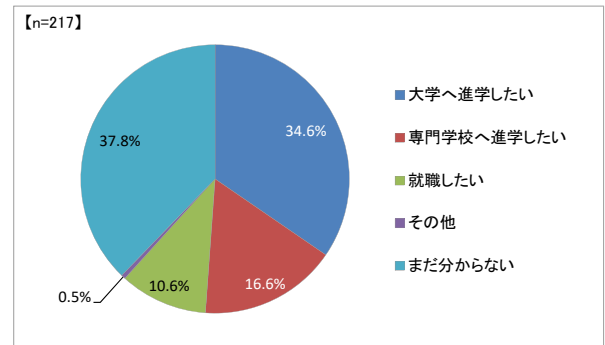
Q10.通信制高校について、あなたがそう考える理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	家から通学できるから	5	2.1 3.4
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	19	7.8 12.9
3	友だちと一緒に通学できるから	9	3.7 6.1
4	自由に活動できる時間が多そうだから	6	2.5 4.1
5	大学受験に不利そうだから	10	4.1 6.8
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	40	16.5 27.2
7	他に行きたい高校があるから	71	29.2 48.3
8	部活動ができなさそうだから	32	13.2 21.8
9	沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから	2	0.8 1.4
10	その他	12	4.9 8.2
	不明	96	39.5
	N (%ベース)	243	100 147

【n=147】



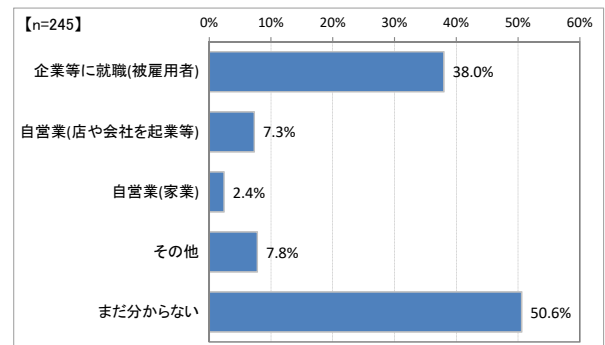
Q11.高校卒業後の進路希望 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大学へ進学したい	75	30.9 34.6
2	専門学校へ進学したい	36	14.8 16.6
3	就職したい	23	9.5 10.6
4	その他	1	0.4 0.5
5	まだ分からない	82	33.7 37.8
	不明	26	10.7
	N (%ベース)	243	100 217

【n=217】



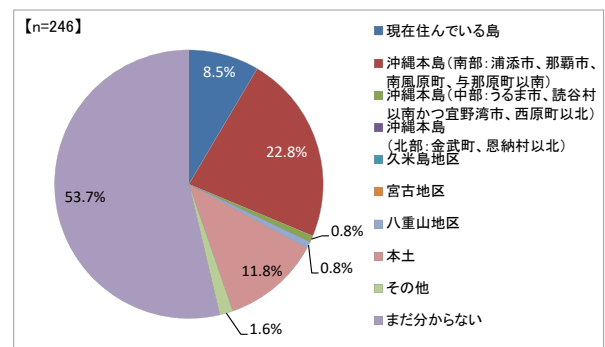
Q12.将来希望する職業 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	企業等に就職(被雇用者)	93	36.8 38.0
2	自営業(店や会社を起業等)	18	7.1 7.3
3	自営業(家業)	6	2.4 2.4
4	その他	19	7.5 7.8
5	まだ分からない	124	49.0 50.6
	不明	8	3.2
	N (%ベース)	253	100 245

【n=245】



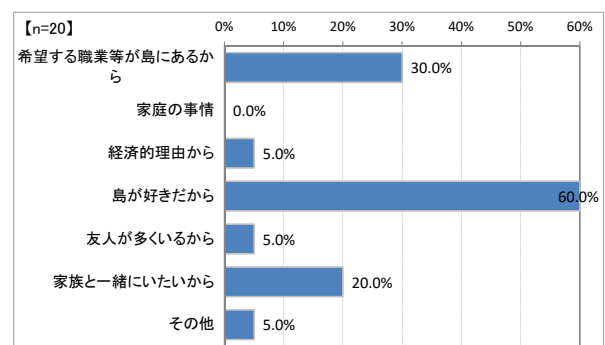
Q13.将来の居住希望地 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	現在住んでいる島	21	8.3 8.5
2	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	56	22.1 22.8
3	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	2	0.8 0.8
4	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	0	0.0 0.0
5	久米島地区	0	0.0 0.0
6	宮古地区	0	0.0 0.0
7	八重山地区	2	0.8 0.8
8	本土	29	11.5 11.8
9	その他	4	1.6 1.6
10	まだ分からない	132	52.2 53.7
	不明	7	2.8
	N (%ベース)	253	100 246

【n=246】



Q14.「現在住んでいる島」に住むことを希望している理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	希望する職業等が島にあるから	6	28.6 30.0
2	家庭の事情	0	0.0 0.0
3	経済的理由から	1	4.8 5.0
4	島が好きだから	12	57.1 60.0
5	友人が多くいるから	1	4.8 5.0
6	家族と一緒にいたいから	4	19.0 20.0
7	その他	1	4.8 5.0
	不明	1	4.8
	N (%ベース)	21	100 20

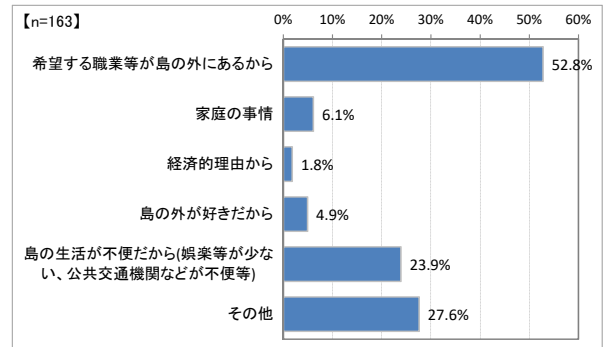
【n=20】



【中学生の保護者】

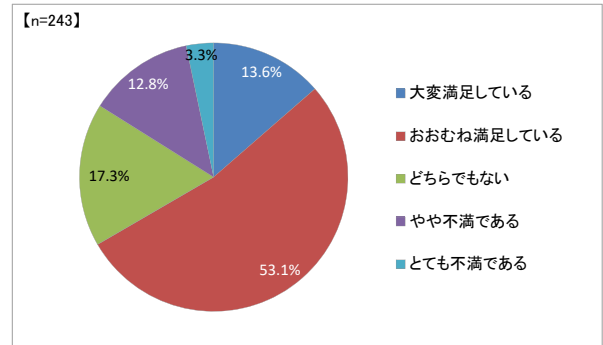
Q15「現在住んでいる島」に住むことを希望しない理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	希望する職業等が島の外にあるから	86	38.2 52.8
2	家庭の事情	10	4.4 6.1
3	経済的理由から	3	1.3 1.8
4	島の外が好きだから	8	3.6 4.9
5	島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)	39	17.3 23.9
6	その他	45	20.0 27.6
	不明	62	27.6
	N (%ベース)	225	100 163

【n=163】



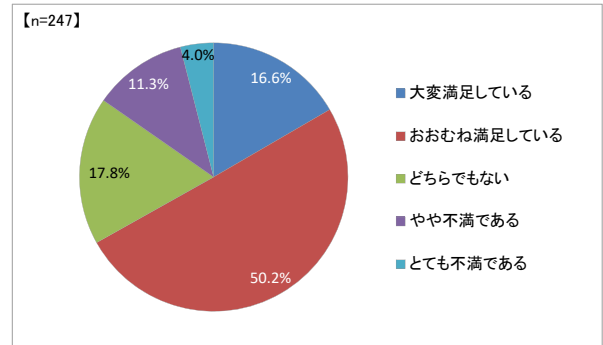
Q16 この島での生活に満足しているか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大変満足している	33	13.0 13.6
2	おおむね満足している	129	51.0 53.1
3	どちらでもない	42	16.6 17.3
4	やや不満である	31	12.3 12.8
5	とても不満である	8	3.2 3.3
	不明	10	4.0
	N (%ベース)	253	100 243

【n=243】



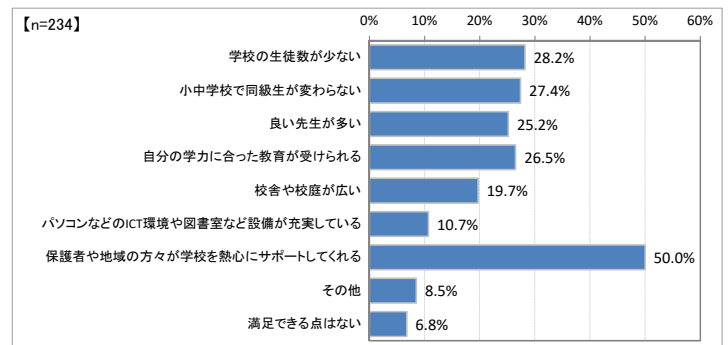
Q17 この島での学校生活や教育に満足しているか (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大変満足している	41	16.2 16.6
2	おおむね満足している	124	49.0 50.2
3	どちらでもない	44	17.4 17.8
4	やや不満である	28	11.1 11.3
5	とても不満である	10	4.0 4.0
	不明	6	2.4
	N (%ベース)	253	100 247

【n=247】



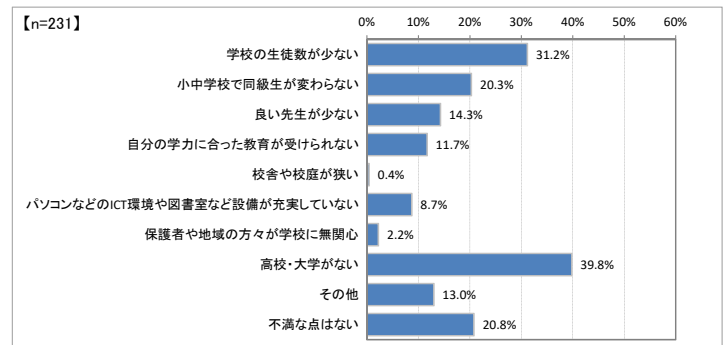
Q18 この島での学校生活や教育について、満足できる点 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学校の生徒数が少ない	66	26.1 28.2
2	小中学校で同級生が変わらない	64	25.3 27.4
3	良い先生が多い	59	23.3 25.2
4	自分の学力に合った教育が受けられる	62	24.5 26.5
5	校舎や校庭が広い	46	18.2 19.7
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している	25	9.9 10.7
7	保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる	117	46.2 50.0
8	その他	20	7.9 8.5
9	満足できる点はない	16	6.3 6.8
	不明	19	7.5
	N (%ベース)	253	100 234

【n=234】



Q19 この島での学校生活や教育について、不満点 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学校の生徒数が少ない	72	28.5 31.2
2	小中学校で同級生が変わらない	47	18.6 20.3
3	良い先生が少ない	33	13.0 14.3
4	自分の学力に合った教育が受けられない	27	10.7 11.7
5	校舎や校庭が狭い	1	0.4 0.4
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない	20	7.9 8.7
7	保護者や地域の方々が学校に無関心	5	2.0 2.2
8	高校・大学がない	92	36.4 39.8
9	その他	30	11.9 13.0
10	不満な点はない	48	19.0 20.8
	不明	22	8.7
	N (%ベース)	253	100 231

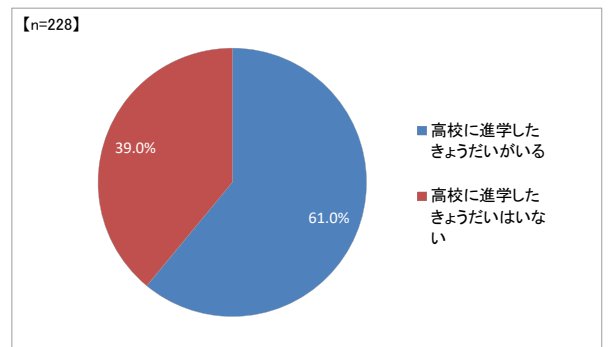
【n=231】



【中学生の保護者】

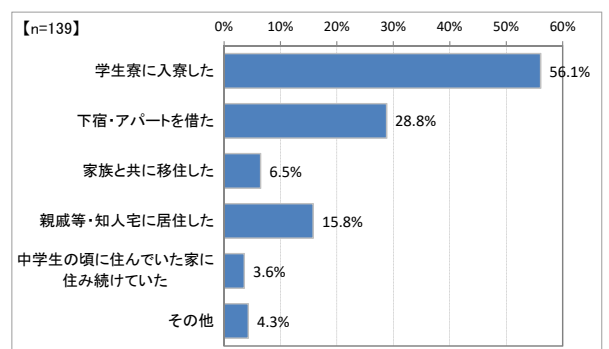
Q20.高校に進学したきょうだいがいるか		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	高校に進学したきょうだいがいる	139	54.9	61.0
2	高校に進学したきょうだいはいない	89	35.2	39.0
	不明	25	9.9	
	N (％ベース)	253	100	228

【n=228】



Q21.きょうだいが高校に進学した際、住んだところ		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	除不%
1	学生寮に入寮した	78	56.1	56.1
2	下宿・アパートを借た	40	28.8	28.8
3	家族と共に移住した	9	6.5	6.5
4	親戚等・知人宅に居住した	22	15.8	15.8
5	中学生の頃に住んでいた家に住み続けていた	5	3.6	3.6
6	その他	6	4.3	4.3
	不明	0	0.0	
	N (％ベース)	139	100	139

【n=139】



【高校生】

Q1 高校進学理由 (MA)		(MA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大学に進学したいから	49	45.4 45.8
2	もっと勉強したいから	26	24.1 24.3
3	部活動を頑張りたいから	29	26.9 27.1
4	友達と一緒にいたいから	11	10.2 10.3
5	親が勧めるから	8	7.4 7.5
6	将来、希望の職業に就くために必要だから	75	69.4 70.1
7	家を出たいから	1	0.9 0.9
8	島を離れたいから	9	8.3 8.4
9	まだ就職したくないから	11	10.2 10.3
10	その他	4	3.7 3.7
11	特に理由はない	1	0.9 0.9
N (%ベース)		108	100 107

【n=107】

Q2 高校進学後の居住地 (SA)		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	80	74.1 74.1
2	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	6	5.6 5.6
3	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	11	10.2 10.2
4	久米島地区	0	0.0 0.0
5	宮古地区	3	2.8 2.8
6	八重山地区	3	2.8 2.8
7	本土	3	2.8 2.8
8	その他	2	1.9 1.9
N (%ベース)		108	100 108

【n=108】

Q3 居住地理理由 (MA)		(MA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	希望する高校がそこにしかないから	65	60.2 60.2
2	なるべく都会で生活したいから	11	10.2 10.2
3	なるべく家から離れたいから	5	4.6 4.6
4	親が勧めるから	15	13.9 13.9
5	その他	26	24.1 24.1
N (%ベース)		108	100 108

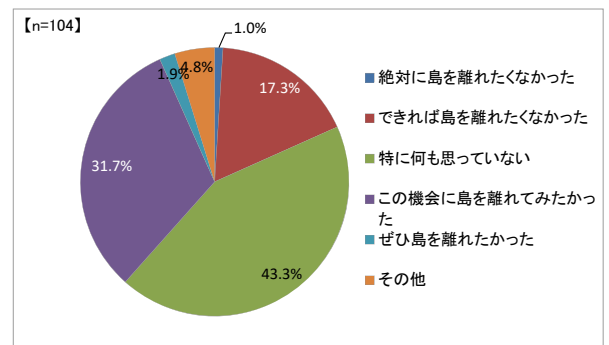
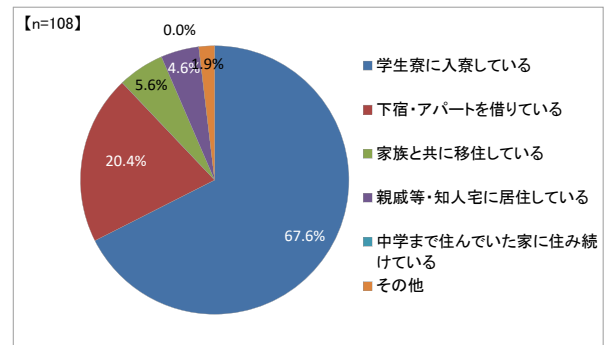
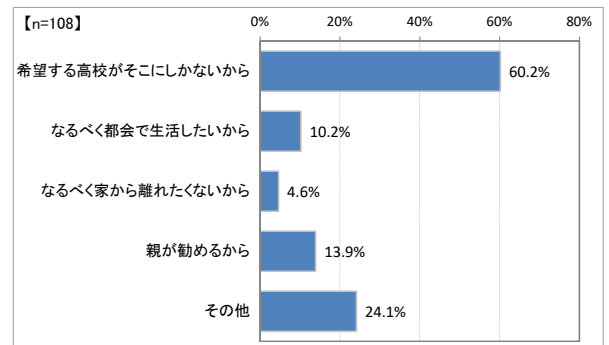
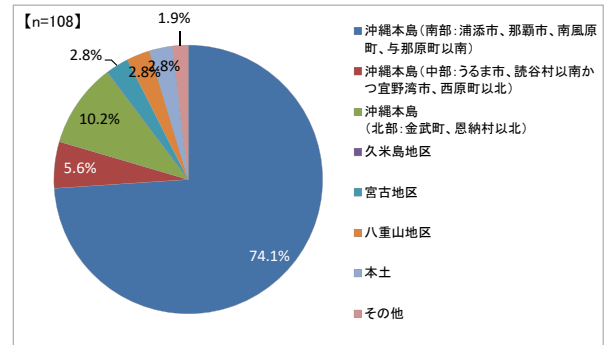
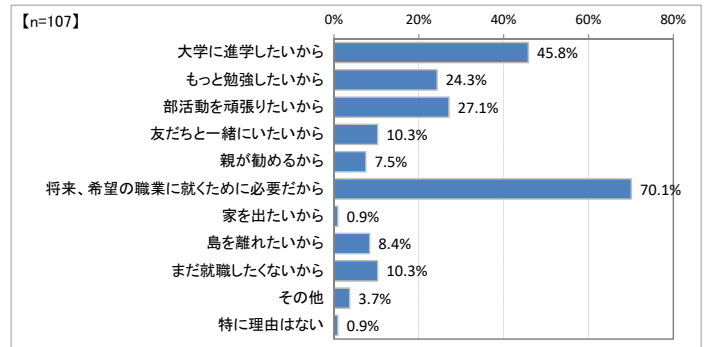
【n=108】

Q4 高校進学後の居住形態 (SA)		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学生寮に入寮している	73	67.6 67.6
2	下宿・アパートを借りている	22	20.4 20.4
3	家族と共に移住している	6	5.6 5.6
4	親戚等・知人宅に居住している	5	4.6 4.6
5	中学まで住んでいた家に住み続けている	0	0.0 0.0
6	その他	2	1.9 1.9
N (%ベース)		108	100 108

【n=108】

Q5 島を出た感想 (SA)		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	絶対に島を離れなくなかった	1	0.9 1.0
2	できれば島を離れなくなかった	18	16.7 17.3
3	特に何も思っていない	45	41.7 43.3
4	この機会に島を離れてみたかった	33	30.6 31.7
5	ぜひ島を離れたかった	2	1.9 1.9
6	その他	5	4.6 4.8
N (%ベース)		108	100 104

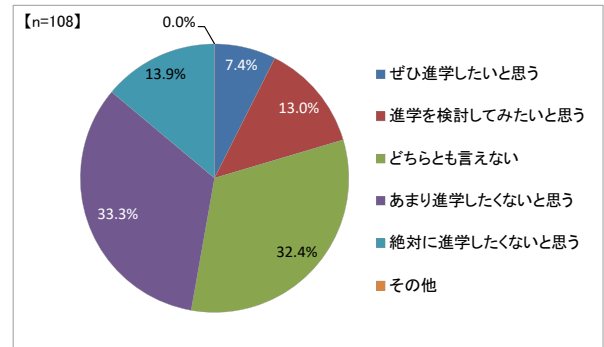
【n=104】



【高校生】

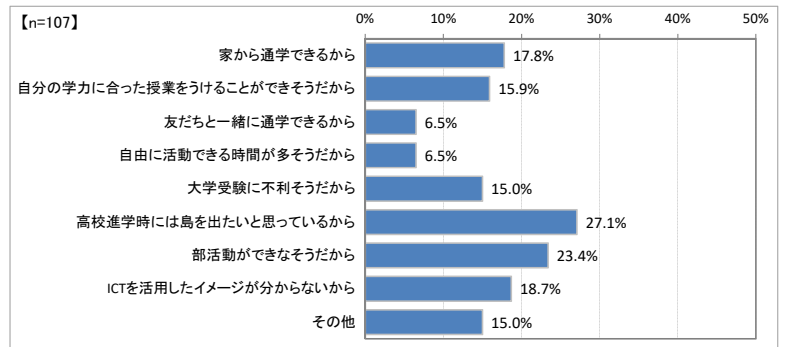
Q6 ICT活用新形態高校評価		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	ぜひ進学したいと思う	8	7.4	7.4
2	進学を検討してみたいと思う	14	13.0	13.0
3	どちらとも言えない	35	32.4	32.4
4	あまり進学したくないと思う	36	33.3	33.3
5	絶対に進学したくないと思う	15	13.9	13.9
6	その他	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	108	100	108

【n=108】



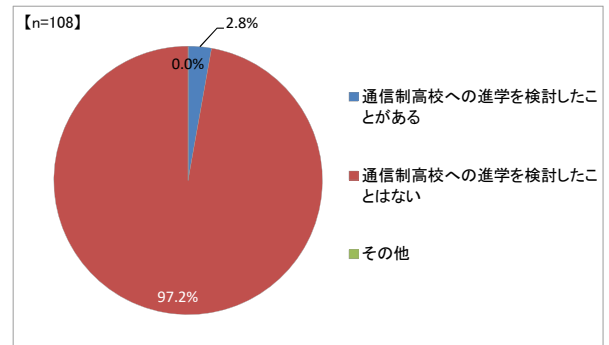
Q7 ICT活用新形態高校評価理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	家から通学できるから	19	17.6	17.8
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	17	15.7	15.9
3	友だちと一緒に通学できるから	7	6.5	6.5
4	自由に活動できる時間が多そうだから	7	6.5	6.5
5	大学受験に不利そうだから	16	14.8	15.0
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	29	26.9	27.1
7	部活動ができなそうだから	25	23.1	23.4
8	ICTを活用したイメージが分からないから	20	18.5	18.7
9	その他	16	14.8	15.0
	不明	1	0.9	
	N (%ベース)	108	100	107

【n=107】



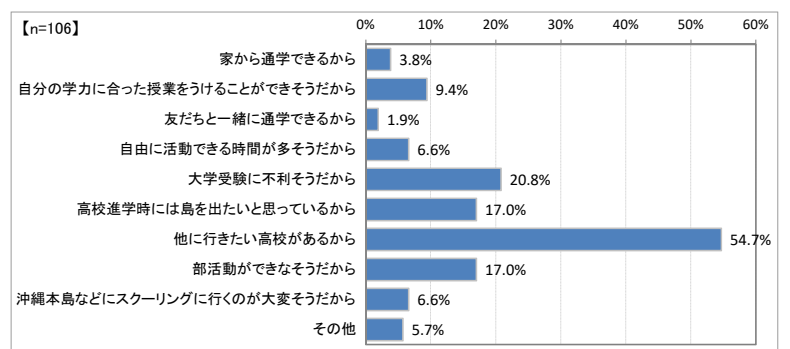
Q8 通信制高校検討		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	通信制高校への進学を検討したことがある	3	2.8	2.8
2	通信制高校への進学を検討したことはない	105	97.2	97.2
3	その他	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	108	100	108

【n=108】



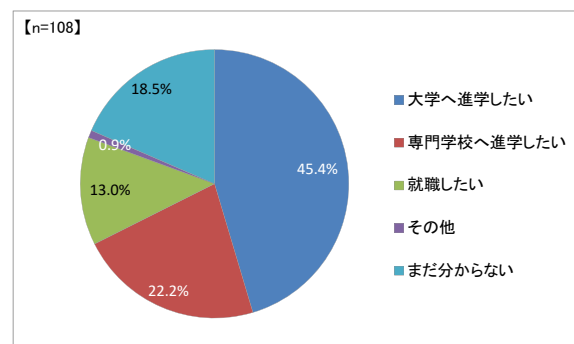
Q9 通信制高校検討理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	家から通学できるから	4	3.7	3.8
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	10	9.3	9.4
3	友だちと一緒に通学できるから	2	1.9	1.9
4	自由に活動できる時間が多そうだから	7	6.5	6.6
5	大学受験に不利そうだから	22	20.4	20.8
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	18	16.7	17.0
7	他にいききたい高校があるから	58	53.7	54.7
8	部活動ができなそうだから	18	16.7	17.0
9	沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから	7	6.5	6.6
10	その他	6	5.6	5.7
	不明	2	1.9	
	N (%ベース)	108	100	106

【n=106】



Q10 高校卒業後の進路		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	大学へ進学したい	49	45.4	45.4
2	専門学校へ進学したい	24	22.2	22.2
3	就職したい	14	13.0	13.0
4	その他	1	0.9	0.9
5	まだ分からない	20	18.5	18.5
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	108	100	108

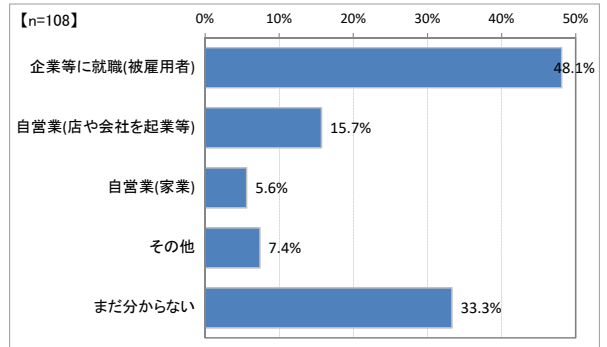
【n=108】



【高校生】

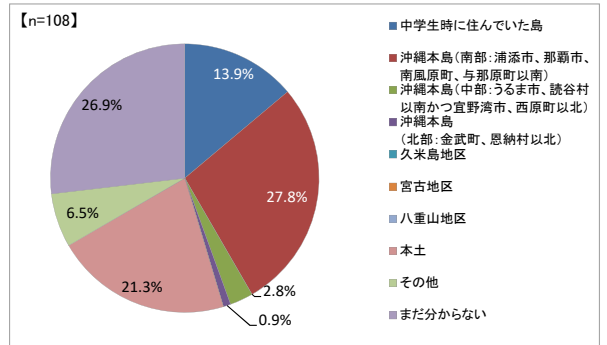
Q11 将来の希望職業 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	企業等に就職(被雇用者)	52	48.1 48.1
2	自営業(店や会社を起業等)	17	15.7 15.7
3	自営業(家業)	6	5.6 5.6
4	その他	8	7.4 7.4
5	まだ分からない	36	33.3 33.3
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	108	100 108

【n=108】



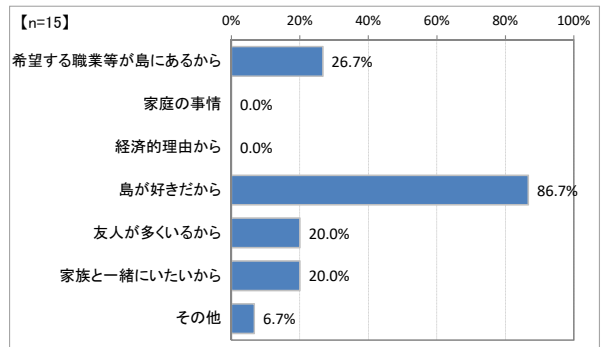
Q12 将来の希望居住地 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	中学生時に住んでいた島	15	13.9 13.9
2	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	30	27.8 27.8
3	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	3	2.8 2.8
4	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	1	0.9 0.9
5	久米島地区	0	0.0 0.0
6	宮古地区	0	0.0 0.0
7	八重山地区	0	0.0 0.0
8	本土	23	21.3 21.3
9	その他	7	6.5 6.5
10	まだ分からない	29	26.9 26.9
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	108	100 108

【n=108】



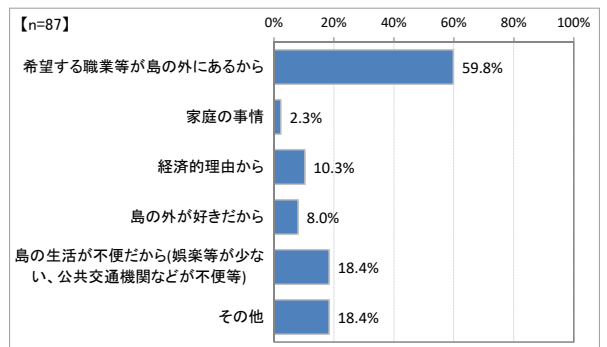
Q13 「中学生時に住んでいた島」への居住希望理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	希望する職業等が島にあるから	4	26.7 26.7
2	家庭の事情	0	0.0 0.0
3	経済的理由から	0	0.0 0.0
4	島が好きだから	13	86.7 86.7
5	友人が多くいるから	3	20.0 20.0
6	家族と一緒にいたいから	3	20.0 20.0
7	その他	1	6.7 6.7
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	15	100 15

【n=15】



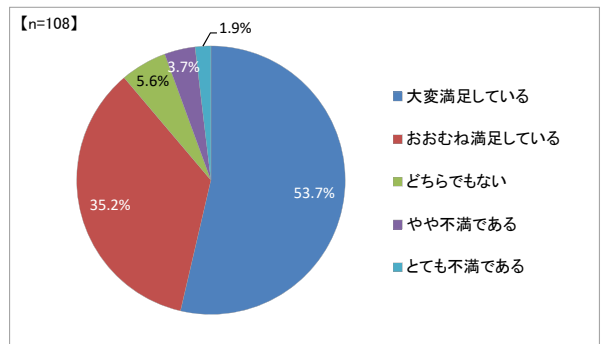
Q14 「中学生時に住んでいた島」への居住非希望理由 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	希望する職業等が島の外にあるから	52	55.9 59.8
2	家庭の事情	2	2.2 2.3
3	経済的理由から	9	9.7 10.3
4	島の外が好きだから	7	7.5 8.0
5	島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)	16	17.2 18.4
6	その他	16	17.2 18.4
	不明	6	6.5
	N (%ベース)	93	100 87

【n=87】



Q15 「中学生時に住んでいた島」の生活の満足度 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大変満足している	58	53.7 53.7
2	おおむね満足している	38	35.2 35.2
3	どちらでもない	6	5.6 5.6
4	やや不満である	4	3.7 3.7
5	とても不満である	2	1.9 1.9
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	108	100 108

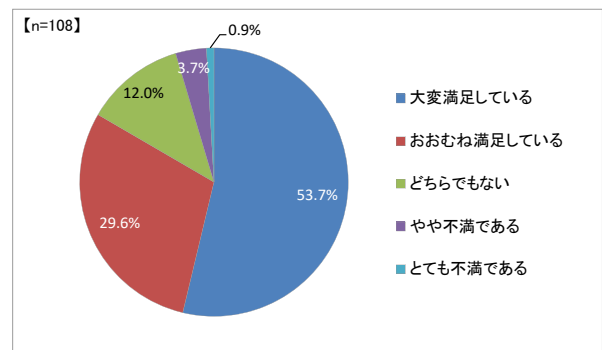
【n=108】



【高校生】

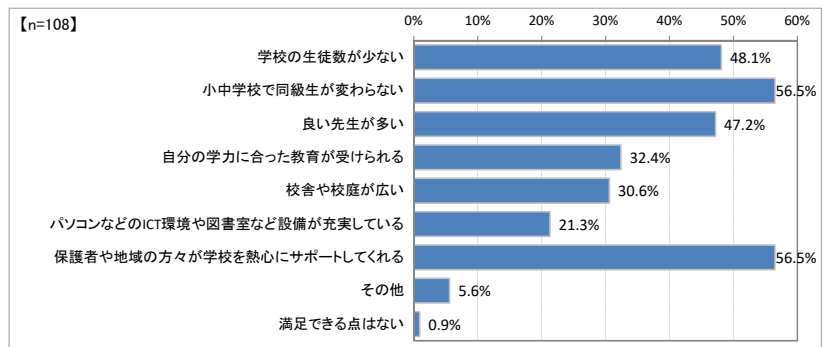
Q16「中学生時に住んでいた島」の教育の満足度 (SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大変満足している	58	53.7 53.7
2	おおむね満足している	32	29.6 29.6
3	どちらでもない	13	12.0 12.0
4	やや不満である	4	3.7 3.7
5	とても不満である	1	0.9 0.9
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	108	100 108

【n=108】



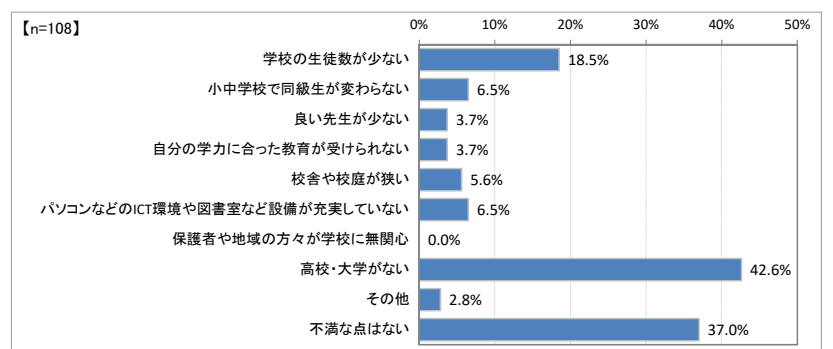
Q17「中学生時に住んでいた島」の教育の満足点 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学校の生徒数が少ない	52	48.1 48.1
2	小中学校で同級生が変わらない	61	56.5 56.5
3	良い先生が多い	51	47.2 47.2
4	自分の学力に合った教育が受けられる	35	32.4 32.4
5	校舎や校庭が広い	33	30.6 30.6
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している	23	21.3 21.3
7	保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる	61	56.5 56.5
8	その他	6	5.6 5.6
9	満足できる点はない	1	0.9 0.9
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	108	100 108

【n=108】



Q18「中学生時に住んでいた島」の教育の不満点 (MA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	学校の生徒数が少ない	20	18.5 18.5
2	小中学校で同級生が変わらない	7	6.5 6.5
3	良い先生が少ない	4	3.7 3.7
4	自分の学力に合った教育が受けられない	4	3.7 3.7
5	校舎や校庭が狭い	6	5.6 5.6
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない	7	6.5 6.5
7	保護者や地域の方々が学校に無関心	0	0.0 0.0
8	高校・大学がない	46	42.6 42.6
9	その他	3	2.8 2.8
10	不満な点はない	40	37.0 37.0
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	108	100 108

【n=108】



【高校生の保護者】

Q1 高校進学理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	大学に進学したいから	13	25.0	25.0
2	もっと勉強したいから	12	23.1	23.1
3	部活動を頑張りたいから	18	34.6	34.6
4	友達と一緒にいたいから	2	3.8	3.8
5	親が勧めるから	4	7.7	7.7
6	将来、希望の職業に就くために必要だから	37	71.2	71.2
7	家を出たいから	1	1.9	1.9
8	島を離れたいから	4	7.7	7.7
9	まだ就職したくないから	2	3.8	3.8
10	その他	4	7.7	7.7
11	特に理由はない	3	5.8	5.8
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	52	100	52

【n=52】

Q2 高校進学後の居住地		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	32	61.5	61.5
2	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	6	11.5	11.5
3	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	6	11.5	11.5
4	久米島地区	0	0.0	0.0
5	宮古地区	2	3.8	3.8
6	八重山地区	3	5.8	5.8
7	本土	3	5.8	5.8
8	その他	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	52	100	52

【n=52】

Q3 居住地理由		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	希望する高校がそこにしかないから	40	76.9	76.9
2	なるべく都会で生活したいから	3	5.8	5.8
3	なるべく家から離れたくないから	0	0.0	0.0
4	親が勧めるから	4	7.7	7.7
5	その他	13	25.0	25.0
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	52	100	52

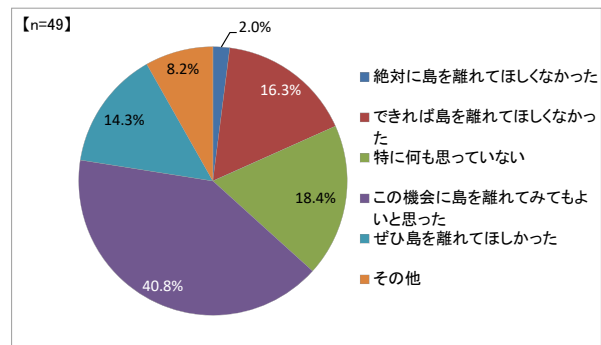
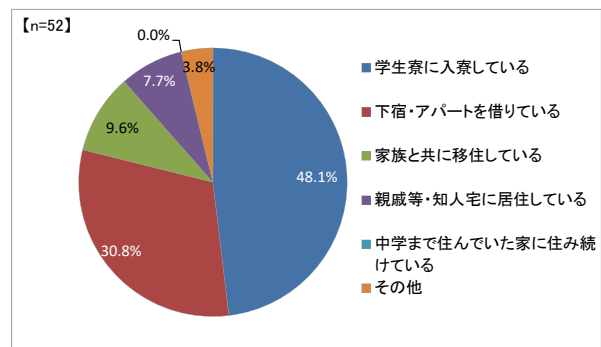
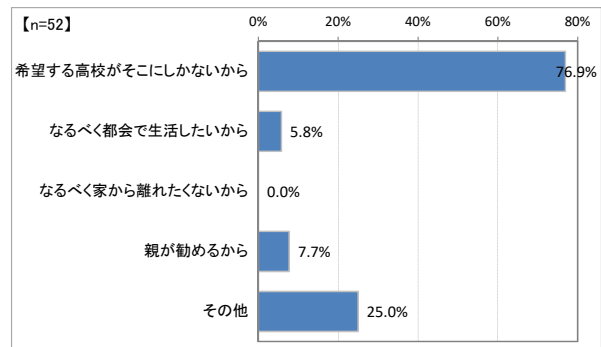
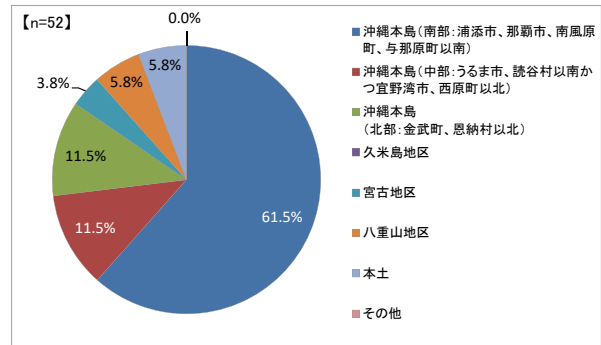
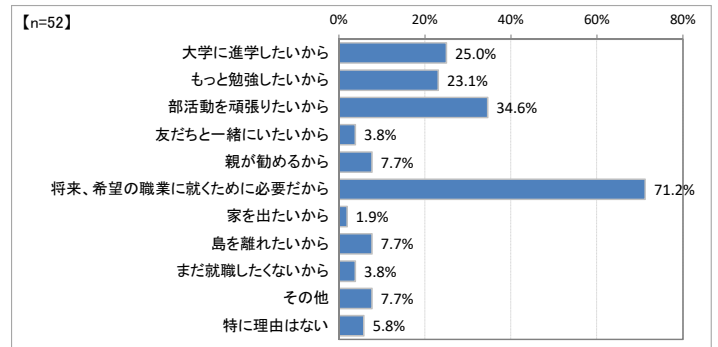
【n=52】

Q4 高校進学後の居住形態		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	学生寮に入寮している	25	48.1	48.1
2	下宿・アパートを借りている	16	30.8	30.8
3	家族と共に移住している	5	9.6	9.6
4	親戚等・知人宅に居住している	4	7.7	7.7
5	中学まで住んでいた家に住み続けている	0	0.0	0.0
6	その他	2	3.8	3.8
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	52	100	52

【n=52】

Q5 島を出た感想		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	絶対に島を離れてほしくなかった	1	1.9	2.0
2	できれば島を離れてほしくなかった	8	15.4	16.3
3	特に何も思っていない	9	17.3	18.4
4	この機会に島を離れてみてよかったと思った	20	38.5	40.8
5	ぜひ島を離れてほしかった	7	13.5	14.3
6	その他	4	7.7	8.2
	不明	3	5.8	
	N (%ベース)	52	100	49

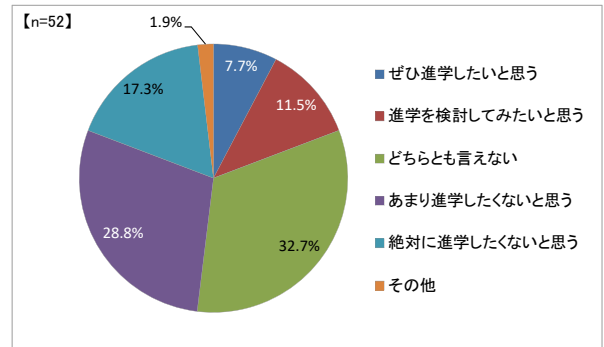
【n=49】



【高校生の保護者】

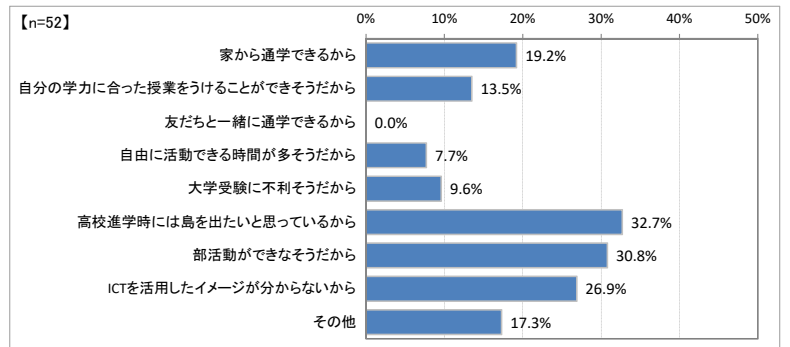
Q6 ICT活用新形態高校評価		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	ぜひ進学したいと思う	4	7.7 7.7
2	進学を検討してみたいと思う	6	11.5 11.5
3	どちらとも言えない	17	32.7 32.7
4	あまり進学したくないと思う	15	28.8 28.8
5	絶対に進学したくないと思う	9	17.3 17.3
6	その他	1	1.9 1.9
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	52	100 52

【n=52】



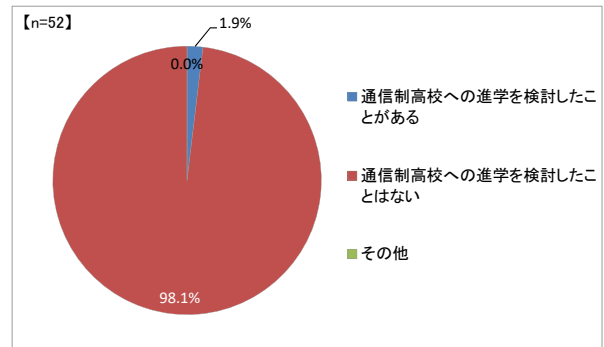
Q7 ICT活用新形態高校検討理由		(MA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	家から通学できるから	10	19.2 19.2
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	7	13.5 13.5
3	友だちと一緒に通学できるから	0	0.0 0.0
4	自由に活動できる時間が多そうだから	4	7.7 7.7
5	大学受験に不利そうだから	5	9.6 9.6
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	17	32.7 32.7
7	部活動ができなさそうだから	16	30.8 30.8
8	ICTを活用したイメージが分からないから	14	26.9 26.9
9	その他	9	17.3 17.3
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	52	100 52

【n=52】



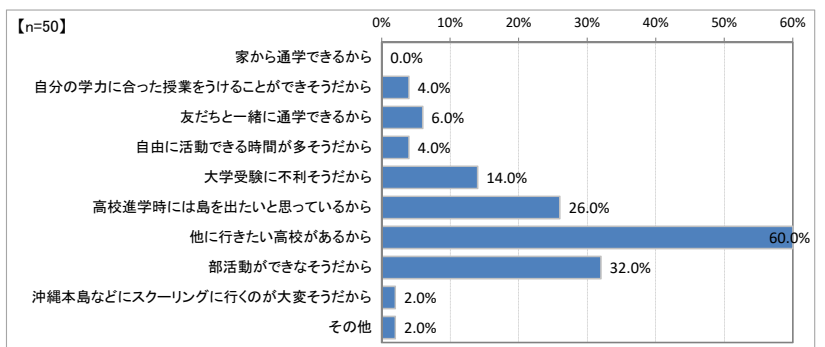
Q8 通信制高校検討		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	通信制高校への進学を検討したことがある	1	1.9 1.9
2	通信制高校への進学を検討したことはない	51	98.1 98.1
3	その他	0	0.0 0.0
	不明	0	0.0
	N (%ベース)	52	100 52

【n=52】



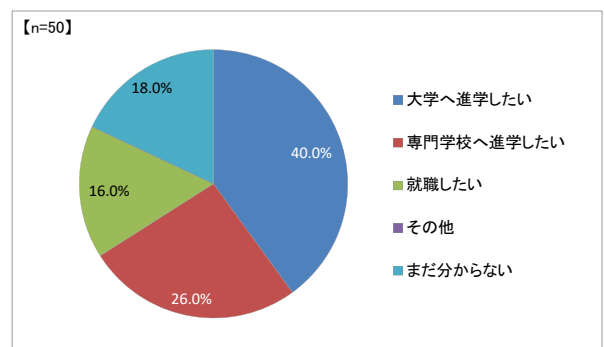
Q9 通信制高校検討理由		(MA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	家から通学できるから	0	0.0 0.0
2	自分の学力に合った授業をうけることができそうだから	2	3.8 4.0
3	友だちと一緒に通学できるから	3	5.8 6.0
4	自由に活動できる時間が多そうだから	2	3.8 4.0
5	大学受験に不利そうだから	7	13.5 14.0
6	高校進学時には島を出たいと思っているから	13	25.0 26.0
7	他に行きたい高校があるから	30	57.7 60.0
8	部活動ができなさそうだから	16	30.8 32.0
9	沖縄本島などにスクーリングに行くのが大変そうだから	1	1.9 2.0
10	その他	1	1.9 2.0
	不明	2	3.8
	N (%ベース)	52	100 50

【n=50】



Q10 高校卒業後の進路		(SA)	
No.	カテゴリ	件数	(全体%) (除不%)
1	大学へ進学したい	20	38.5 40.0
2	専門学校へ進学したい	13	25.0 26.0
3	就職したい	8	15.4 16.0
4	その他	0	0.0 0.0
5	まだ分からない	9	17.3 18.0
	不明	2	3.8
	N (%ベース)	52	100 50

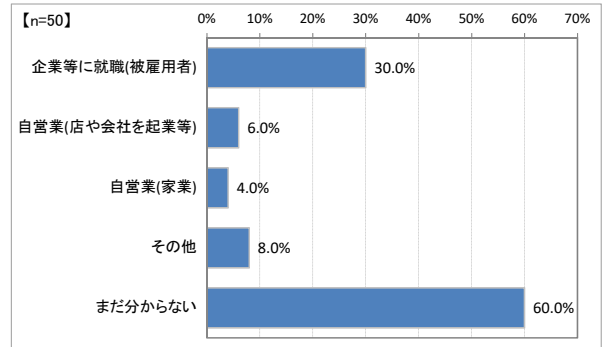
【n=50】



【高校生の保護者】

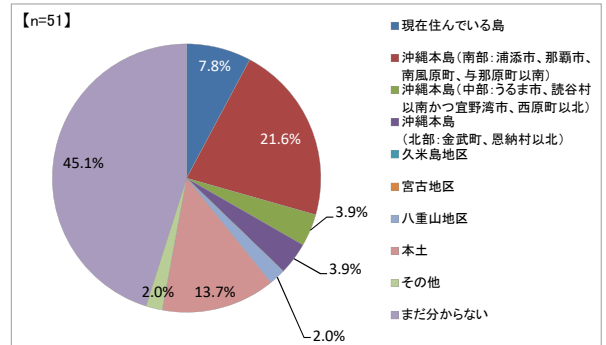
Q11 将来の希望職業 (MA)				
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	企業等に就職(被雇用者)	15	28.8	30.0
2	自営業(店や会社を起業等)	3	5.8	6.0
3	自営業(家業)	2	3.8	4.0
4	その他	4	7.7	8.0
5	まだ分からない	30	57.7	60.0
	不明	2	3.8	
	N (%ベース)	52	100	50

【n=50】



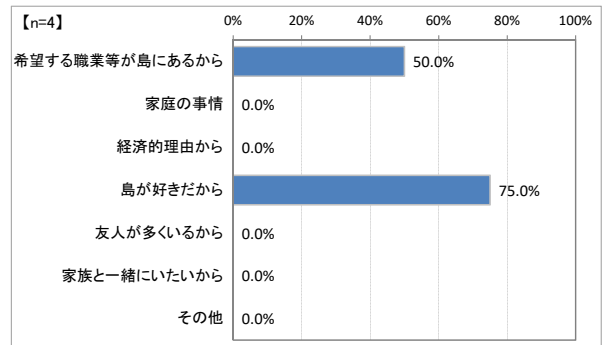
Q12 将来の希望居住地 (SA)				
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	現在住んでいる島	4	7.7	7.8
2	沖縄本島(南部:浦添市、那覇市、南風原町、与那原町以南)	11	21.2	21.6
3	沖縄本島(中部:うるま市、読谷村以南かつ宜野湾市、西原町以北)	2	3.8	3.9
4	沖縄本島(北部:金武町、恩納村以北)	2	3.8	3.9
5	久米島地区	0	0.0	0.0
6	宮古地区	0	0.0	0.0
7	八重山地区	1	1.9	2.0
8	本土	7	13.5	13.7
9	その他	1	1.9	2.0
10	まだ分からない	23	44.2	45.1
	不明	1	1.9	
	N (%ベース)	52	100	51

【n=51】



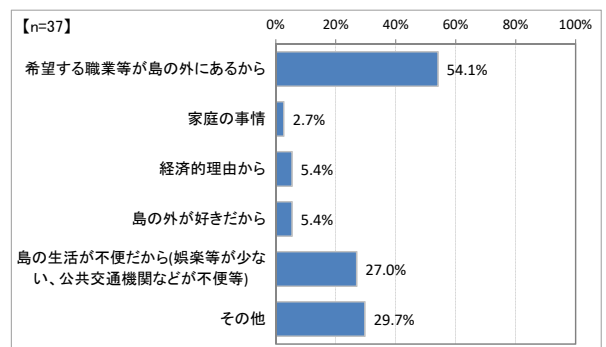
Q13 「中学生時に住んでいた島」への居住希望理由 (MA)				
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	希望する職業等が島にあるから	2	50.0	50.0
2	家庭の事情	0	0.0	0.0
3	経済的理由から	0	0.0	0.0
4	島が好きだから	3	75.0	75.0
5	友人が多くいるから	0	0.0	0.0
6	家族と一緒にいたいから	0	0.0	0.0
7	その他	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	4	100	4

【n=4】



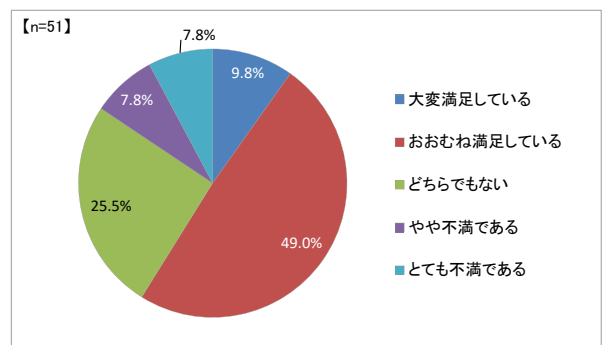
Q14 「中学生時に住んでいた島」への居住非希望理由 (MA)				
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	希望する職業等が島の外にあるから	20	41.7	54.1
2	家庭の事情	1	2.1	2.7
3	経済的理由から	2	4.2	5.4
4	島の外が好きだから	2	4.2	5.4
5	島の生活が不便だから(娯楽等が少ない、公共交通機関などが不便等)	10	20.8	27.0
6	その他	11	22.9	29.7
	不明	11	22.9	
	N (%ベース)	48	100	37

【n=37】



Q15 「中学生時に住んでいた島」の生活の満足度 (SA)				
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	大変満足している	5	9.6	9.8
2	おおむね満足している	25	48.1	49.0
3	どちらでもない	13	25.0	25.5
4	やや不満である	4	7.7	7.8
5	とても不満である	4	7.7	7.8
	不明	1	1.9	
	N (%ベース)	52	100	51

【n=51】

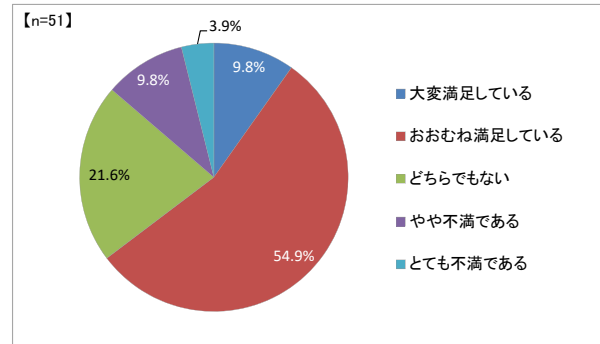


【高校生の保護者】

Q16「中学生時に住んでいた島」の学校生活や教育の満足度 (SA)

No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	大変満足している	5	9.6	9.8
2	おおむね満足している	28	53.8	54.9
3	どちらでもない	11	21.2	21.6
4	やや不満である	5	9.6	9.8
5	とても不満である	2	3.8	3.9
	不明	1	1.9	
	N (%ベース)	52	100	51

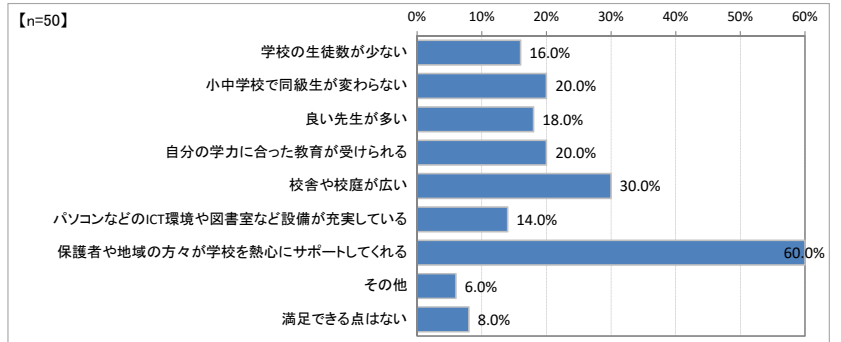
【n=51】



Q17「中学生時に住んでいた島」の学校生活や教育の満足点 (MA)

No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	学校の生徒数が少ない	8	15.4	16.0
2	小中学校で同級生が変わらない	10	19.2	20.0
3	良い先生が多い	9	17.3	18.0
4	自分の学力に合った教育が受けられる	10	19.2	20.0
5	校舎や校庭が広い	15	28.8	30.0
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実している	7	13.5	14.0
7	保護者や地域の方々が学校を熱心にサポートしてくれる	30	57.7	60.0
8	その他	3	5.8	6.0
9	満足できる点はない	4	7.7	8.0
	不明	2	3.8	
	N (%ベース)	52	100	50

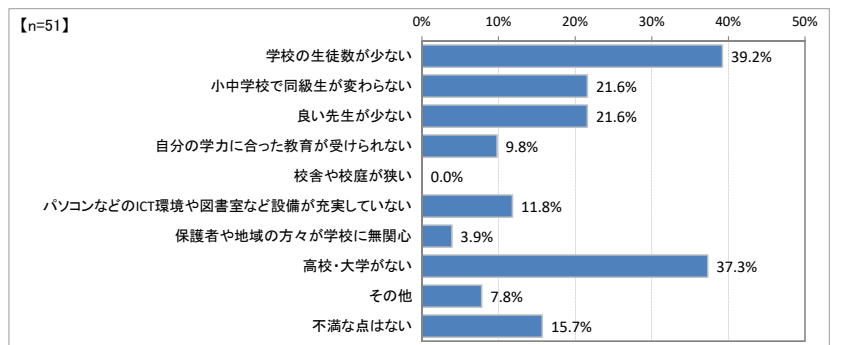
【n=50】



Q18「中学生時に住んでいた島」の学校生活や教育の不満足点 (MA)

No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	学校の生徒数が少ない	20	38.5	39.2
2	小中学校で同級生が変わらない	11	21.2	21.6
3	良い先生が少ない	11	21.2	21.6
4	自分の学力に合った教育が受けられない	5	9.6	9.8
5	校舎や校庭が狭い	0	0.0	0.0
6	パソコンなどのICT環境や図書室など設備が充実していない	6	11.5	11.8
7	保護者や地域の方々が学校に無関心	2	3.8	3.9
8	高校・大学がない	19	36.5	37.3
9	その他	4	7.7	7.8
10	不満な点はない	8	15.4	15.7
	不明	1	1.9	
	N (%ベース)	52	100	51

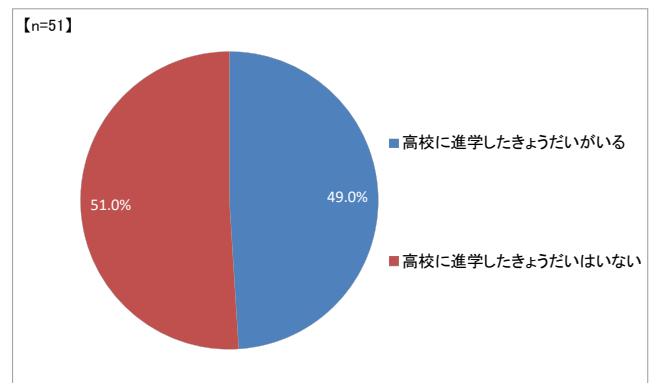
【n=51】



Q19 高校に進学したきょうだい (SA)

No.	カテゴリ	件数	全体%	(除不%)
1	高校に進学したきょうだいがいる	25	48.1	49.0
2	高校に進学したきょうだいはいない	26	50.0	51.0
	不明	1	1.9	
	N (%ベース)	52	100	51

【n=51】

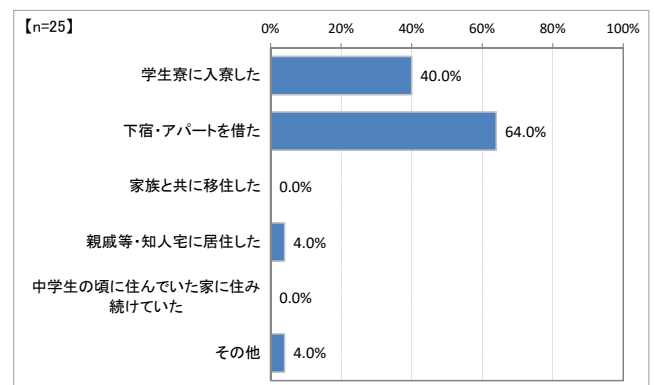


【高校生の保護者】

Q20 きょうだいの高校進学時の居住形態		(MA)		
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	学生寮に入寮した	10	40.0	40.0
2	下宿・アパートを借た	16	64.0	64.0
3	家族と共に移住した	0	0.0	0.0
4	親戚等・知人宅に居住した	1	4.0	4.0
5	中学生の頃に住んでいた家に住み続けていた	0	0.0	0.0
6	その他	1	4.0	4.0
	不明	0	0.0	
	N (%へース)	25	100	25

【n=25】

【n=25】



【自治体】

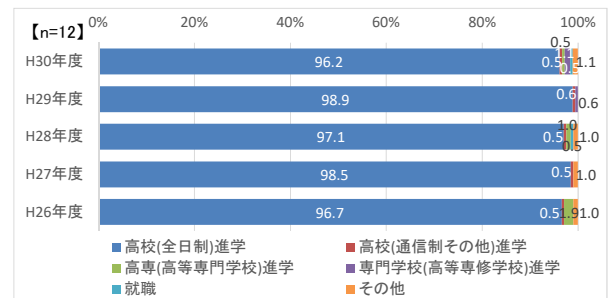
Q1.公立中学校の卒業生の最近5年間の進路(単位:人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
1 高校(全日制)進学	202	198	198	179	175
2 高校(通信制その他)進学	1	1	1	1	1
3 高専(高等専門学校)進学	4	0	2	0	1
4 専門学校(高等専修学校)進学	0	0	0	1	2
5 就職	0	0	1	0	1
6 その他	2	2	2	0	2
合計	209	201	204	181	182

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
1 高校(全日制)進学	96.7	98.5	97.1	98.9	96.2
2 高校(通信制その他)進学	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5
3 高専(高等専門学校)進学	1.9	0.0	1.0	0.0	0.5
4 専門学校(高等専修学校)進学	0.0	0.0	0.0	0.6	1.1
5 就職	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
6 その他	1.0	1.0	1.0	0.0	1.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【その他内訳】

海外
相撲部屋
事故による療養
分類不明の職業
特別支援学校
高校(定時)



【自治体】

Q3.公立中学校の卒業生が高校進学を希望する場合、島を離れることについてどう思うか (MA)

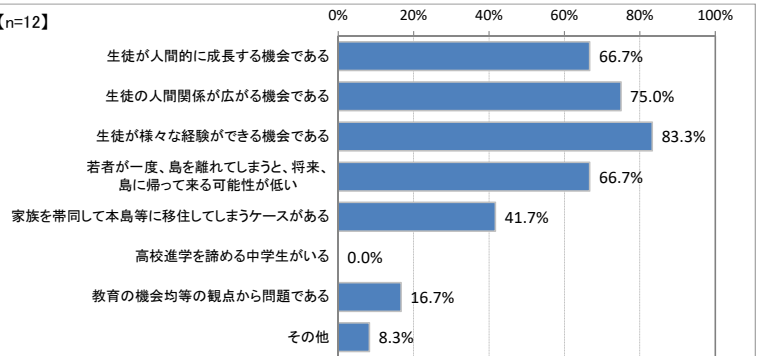
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	生徒が人間的に成長する機会である	8	66.7	66.7
2	生徒の人間関係が広がる機会である	9	75.0	75.0
3	生徒が様々な経験ができる機会である	10	83.3	83.3
4	若者が一度、島を離れてしまうと、将来、島に帰って来る可能性が低い	8	66.7	66.7
5	家族を帯同して本島等に移住してしまうケースがある	5	41.7	41.7
6	高校進学を諦める中学生がいる	0	0.0	0.0
7	教育の機会均等の観点から問題である	2	16.7	16.7
8	その他	1	8.3	8.3
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	12	100	12

【n=12】

【その他内訳】

15の春には島外に出て視野を広げるのが当たり前になっている

【n=12】



Q4.テレビ会議システムなどのICT(情報通信技術)を活用した遠隔授業の高校の設置を検討するか (SA)

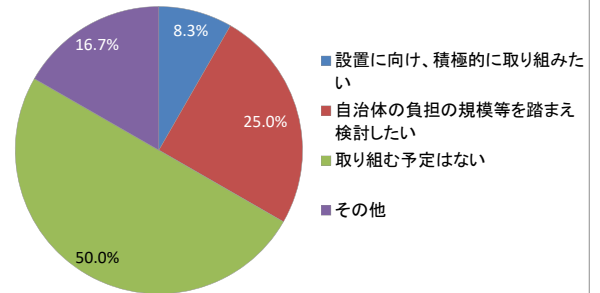
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	設置に向け、積極的に取り組みたい	1	8.3	8.3
2	自治体の負担の規模等を踏まえ検討したい	3	25.0	25.0
3	取り組み予定はない	6	50.0	50.0
4	その他	2	16.7	16.7
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	12	100	12

【n=12】

【その他内訳なし】

必要性があれば検討したい
小中学校ともに1村1校のため、できれば島外の高校に進学して様々な経験をしてほしい。

【n=12】



Q5.新しい形態の高校について、そう考える理由 (MA)

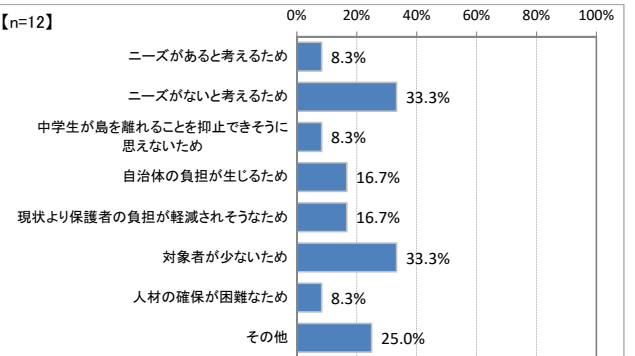
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	ニーズがあると考えるため	1	8.3	8.3
2	ニーズがないと考えるため	4	33.3	33.3
3	中学生が島を離れることを抑止できそうに思えないため	1	8.3	8.3
4	自治体の負担が生じるため	2	16.7	16.7
5	現状より保護者の負担が軽減されそうのため	2	16.7	16.7
6	対象者が少ないため	4	33.3	33.3
7	人材の確保が困難なため	1	8.3	8.3
8	その他	3	25.0	25.0
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	12	100	12

【n=12】

【その他内訳】

通信教育では、部活動等の実践活動や生徒間での連携や高めあいなど、協調性・協働性の涵養に不安があるため。
島を離れる事も成長の良い機会だと思える。
高校がないため。

【n=12】



Q7.離島の特性等による、貴自治体の教育上の課題 (MA)

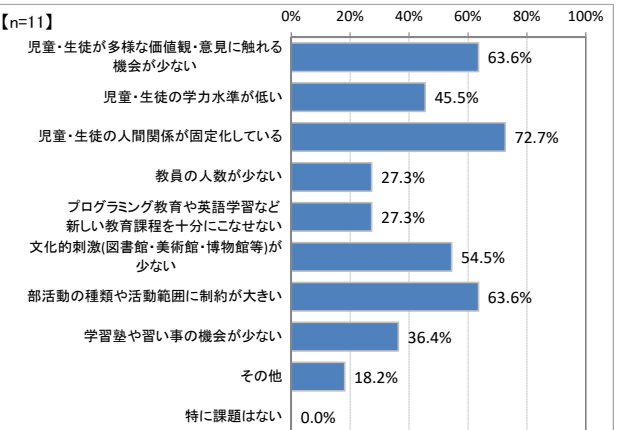
No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない	7	58.3	63.6
2	児童・生徒の学力水準が低い	5	41.7	45.5
3	児童・生徒の人間関係が固定化している	8	66.7	72.7
4	教員の人数が少ない	3	25.0	27.3
5	プログラミング教育や英語学習など新しい教育課程を十分にこなせない	3	25.0	27.3
6	文化的刺激(図書館・美術館・博物館等)が少ない	6	50.0	54.5
7	部活動の種類や活動範囲に制約が大きい	7	58.3	63.6
8	学習塾や習い事の機会が少ない	4	33.3	36.4
9	その他	2	16.7	18.2
10	特に課題はない	0	0.0	0.0
	不明	1	8.3	
	N (%ベース)	12	100	11

【n=11】

【その他内訳】

へき地・5級地・4級地であるため、教職員の移動が(2~3年)と短く、一貫性のある教育体制の構築が難しい。また、本務教諭の人数が少ない
教員が2年で異動になっている現状

【n=11】



Q8.課題の解決策（Q7=1-9）		（MA）	
No.	カテゴリ	件数	（全体％）（除不％）
1	様々な児童・生徒と交流する機会を増やす	9	81.8 90.0
2	教員の研修機会を増やす	3	27.3 30.0
3	専門分野の教員から授業を受ける機会を増やす	4	36.4 40.0
4	島の外に出る機会を増やす	2	18.2 20.0
5	その他	3	27.3 30.0
	不明	1	9.1
	N（％ベース）	11	100 10

【n=10】

【その他内訳】

初任者研修としてのへき地勤務の見直す。沖縄本島なみに、赴任期間を5年とする。
自治体としての支援を強化する。
交付金事業にて学習塾を実施している。

Q9.島を離れて高校に進学する/した生徒・保護者に対しての取り組み		（MA）	
No.	カテゴリ	件数	（全体％）（除不％）
1	経済的負担の軽減策をしている	9	75.0 81.8
2	経済面以外の支援策をしている	5	41.7 45.5
3	将来のUターンに向けた働きかけをしている	3	25.0 27.3
4	その他	1	8.3 9.1
5	特に何もしていない	2	16.7 18.2
	不明	1	8.3
	N（％ベース）	12	100 11

【n=11】

【その他内訳】

教育コーディネーターを配置し、島外での暮らし、生活、教育相談や各高校での学校生活についてアンケートを実施し保護者と連携して指導にあたっている。

Q10.経済的負担の軽減策（Q9=1）		（MA）	
No.	カテゴリ	件数	（全体％）（除不％）
1	奨学金の給与	1	11.1 11.1
2	奨学金の貸与	4	44.4 44.4
3	奨学金の斡旋・紹介	1	11.1 11.1
4	本島等に学生寮の整備	2	22.2 22.2
5	下宿代等の一部補助	8	88.9 88.9
6	交通費等の一部補助	6	66.7 66.7
7	その他の支援金の給付	1	11.1 11.1
8	その他	1	11.1 11.1
	不明	0	0.0
	N（％ベース）	9	100 9

【n=9】

【その他内訳】

医療費助成を高校生まで拡大

Q11.経済面以外の支援策（Q9=2）		（MA）	
No.	カテゴリ	件数	（全体％）（除不％）
1	進路情報の提供	1	20.0 20.0
2	下宿・アパートの紹介	2	40.0 40.0
3	島の出身者の紹介	0	0.0 0.0
4	自治体広報誌の送付	0	0.0 0.0
5	島の出身者のSNSの運営	0	0.0 0.0
6	同窓会の開催	0	0.0 0.0
7	その他	2	40.0 40.0
	不明	0	0.0
	N（％ベース）	5	100 5

【n=5】

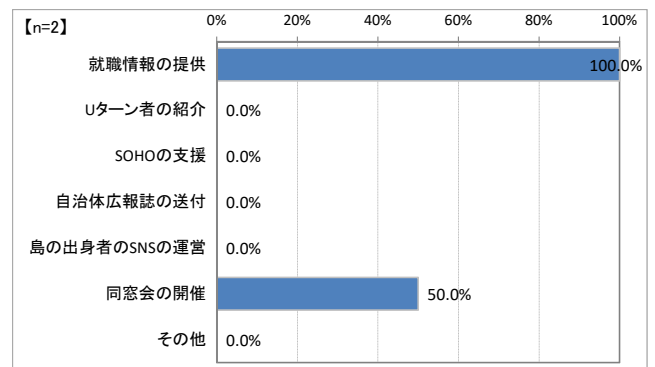
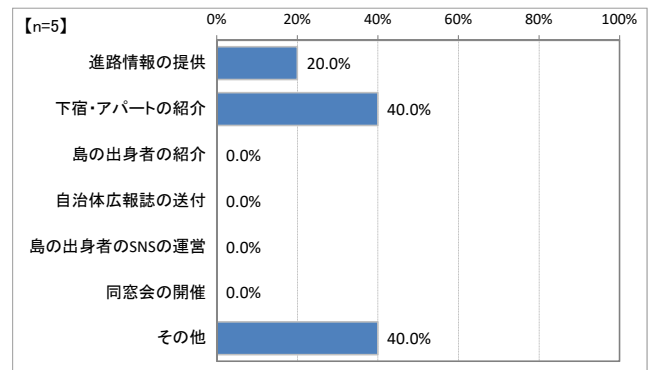
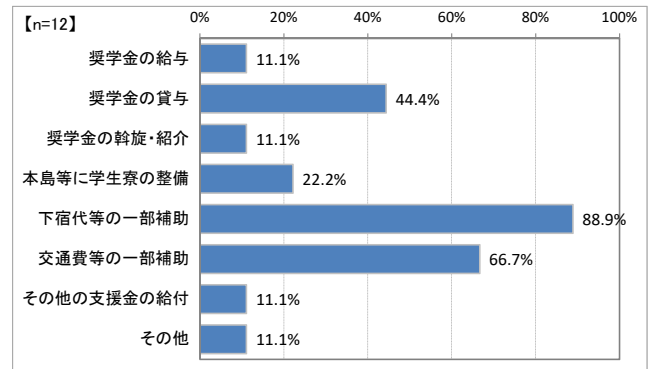
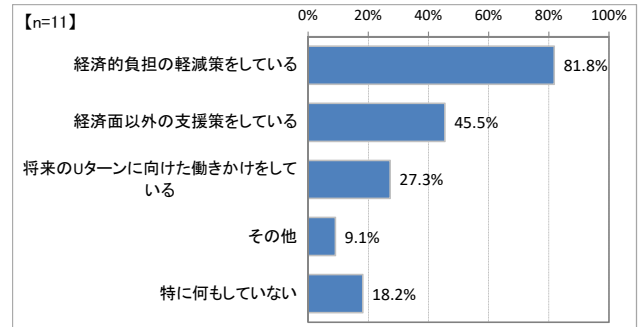
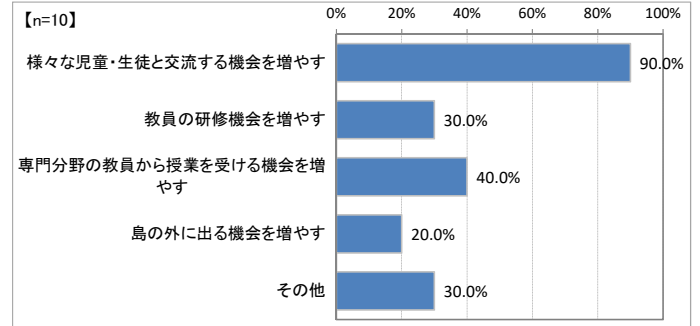
【その他内訳】

郷友会を中心に高校生激励会を開催している

Q12.将来のUターンに向けた働きかけ（Q9=3）		（MA）	
No.	カテゴリ	件数	（全体％）（除不％）
1	就職情報の提供	2	66.7 100.0
2	Uターン者の紹介	0	0.0 0.0
3	SOHOの支援	0	0.0 0.0
4	自治体広報誌の送付	0	0.0 0.0
5	島の出身者のSNSの運営	0	0.0 0.0
6	同窓会の開催	1	33.3 50.0
7	その他	0	0.0 0.0
	不明	1	33.3
	N（％ベース）	3	100 2

【n=2】

【その他内訳なし】



【小中学校長】

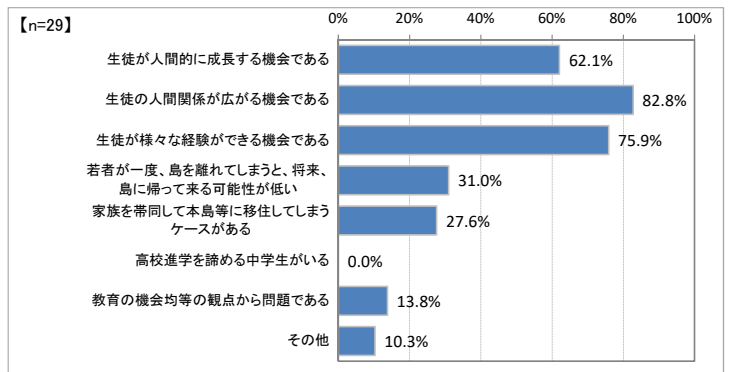
Q1.公立中学校の卒業生が高校進学を希望する場合、島を離れることについてどう思うか (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	生徒が人間的に成長する機会である	18	62.1	62.1
2	生徒の人間関係が広がる機会である	24	82.8	82.8
3	生徒が様々な経験ができる機会である	22	75.9	75.9
4	若者が一度、島を離れてしまうと、将来、島に帰って来る可能性が低い	9	31.0	31.0
5	家族を帯同して本島等に移住してしまうケースがある	8	27.6	27.6
6	高校進学を諦める中学生がいる	0	0.0	0.0
7	教育の機会均等の観点から問題である	4	13.8	13.8
8	その他	3	10.3	10.3
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	29	100	29

【n=29】

【その他内訳】

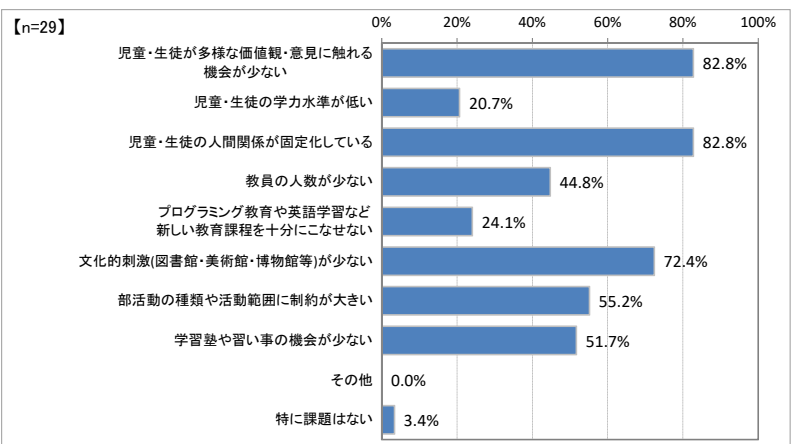
経済的負担が大きい。
兄弟姉妹が義務教育に在籍している場合、上の子にあわせて母親が本島へ父親が島に残り下の子の面倒を見るという家族別居の2重生活になるケースが多い。



Q2.離島の特性等による、教育上の課題 (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	児童・生徒が多様な価値観・意見に触れる機会が少ない	24	82.8	82.8
2	児童・生徒の学力水準が低い	6	20.7	20.7
3	児童・生徒の人間関係が固定化している	24	82.8	82.8
4	教員の人数が少ない	13	44.8	44.8
5	プログラミング教育や英語学習など新しい教育課程を十分にこなせない	7	24.1	24.1
6	文化的刺激(図書館・美術館・博物館等)が少ない	21	72.4	72.4
7	部活動の種類や活動範囲に制約が大きい	16	55.2	55.2
8	学習塾や習い事の機会が少ない	15	51.7	51.7
9	その他	0	0.0	0.0
10	特に課題はない	1	3.4	3.4
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	29	100	29

【n=29】



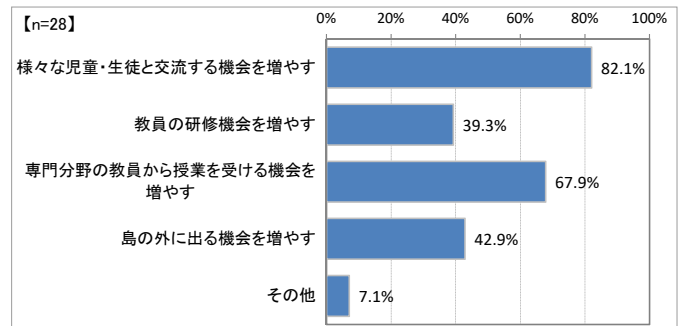
Q3.課題の解決策 (Q2=1-9) (MA)

No.	カテゴリ	件数	(全体%)	(除不%)
1	様々な児童・生徒と交流する機会を増やす	23	82.1	82.1
2	教員の研修機会を増やす	11	39.3	39.3
3	専門分野の教員から授業を受ける機会を増やす	19	67.9	67.9
4	島の外に出る機会を増やす	12	42.9	42.9
5	その他	2	7.1	7.1
	不明	0	0.0	
	N (%ベース)	28	100	28

【n=28】

【その他内訳】

島内学校間での交流学習、校内での縦割り活動の充実等
人間的に成長するには、多くの人と接する中で切磋琢磨することが必要だと感じる



（参考 2）参考資料

- （1）離島の現状及び平成 29・30 年度の実証実験等の報告（内閣府提出資料）
- （2）高等学校の通信制課程及び遠隔教育について（文部科学省提出資料）
- （3）教育の情報化に関する総務省の取組（総務省提出資料）

離島の現状及び 平成29・30年度の実証実験等の報告



内閣府

令和元年6月21日(金)

1

沖縄県内離島位置図



2

島内に高校がない離島における中学卒業後の進路(H29年度卒業者)

○ 島内に高校がない離島の中学生は、中学卒業後、島外の高校に進学（H29年度実績100％）。

	離島名	市町村名	中学校数	卒業 者数	進学者								就職者数		その他		備考	
					人数	うち沖縄本島		うち出身離島		うち他の離島		うち県外		出身 島内	出身 島外	出身 島内		出身 島外
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合					
高校無	伊平屋島	伊平屋村	2	15	15	15	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	野甫島含む
	伊是名島	伊是名村	1	17	17	15	88.2%	－	－	0	0.0%	2	11.8%	0	0	0	0	
	伊江島	伊江村	1	45	45	45	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
	津堅島	うるま市	1	3	3	3	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
	久高島	南城市	1	7	7	4	57.1%	－	－	0	0.0%	3	42.9%	0	0	0	0	
	座間味島	座間味村	3	8	8	8	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	阿嘉島、慶留間島含む
	渡嘉敷島	渡嘉敷村	1	6	6	6	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
	粟国島	粟国村	1	11	11	11	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
	渡名喜島	渡名喜村	1	4	4	3	75.0%	－	－	1	25.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
	北大東島	北大東村	1	6	6	6	100.0%	－	－	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0	
	南大東島	南大東村	1	14	14	13	92.9%	－	－	0	0.0%	1	7.1%	0	0	0	0	
	多良間島	多良間村	1	28	28	22	78.6%	－	－	5	17.9%	1	3.6%	0	0	0	0	
	竹富町内 各離島	竹富町	9	35	35	10	28.6%	－	－	20	57.1%	5	14.3%	0	0	0	0	各離島（竹富島、西表島、 小浜島、黒島、波照間島）
	与那国島	与那国町	2	13	13	9	69.2%	－	－	2	15.4%	2	15.4%	0	0	0	0	
	合計			26	212	212	170	80.2%	－	－	28	13.2%	14	6.6%	0	0	0	0
高校有	宮古島	宮古島市	15	569	558	45	8.0%	505	90.5%	0	0.0%	8	1.4%	0	0	11	0	池間島、伊良部島含む
	石垣島	石垣市	9	493	473	33	6.9%	426	90.1%	1	0.2%	13	2.7%	9	2	8	1	
	久米島	久米島町	2	71	71	12	16.9%	58	81.7%	0	0.0%	1	1.4%	0	0	0	0	
	合計			26	1,133	1,102	90	8.2%	989	89.7%	1	0.1%	22	2.0%	9	2	19	1

出典:「離島関係資料 平成31年1月」(沖縄県企画部)

3

離島の中学校出身者の高校卒業後の就職進学状況(H29年度卒業者)

- 島内に高校がない離島出身者（182名）の高校卒業後の就職進学状況は、進学（118名）、就職（34名）、未就職等（30名）。
- このうち、出身離島に戻った者は18名（就職8名、未就職等10名）。

	離島名	市町村名	卒業 者数	就職者					進学者					未就職等		帰島 率 (※)	備考
				人数	うち沖 縄本島	うち出 身離島	うち他 の離島	うち県 外	人数	大学・短大		専修学校 (専門課程)	出身 離島	出身 島外			
										うち沖 縄本島	うち県 外				うち沖 縄本島		
高校無	伊平屋島	伊平屋村	18	4	0	2	0	2	8	4	0	3	1	5	1	38.9%	野甫島含む
	伊是名島	伊是名村	20	8	4	2	0	2	5	2	0	3	0	0	7	10.0%	
	伊江島	伊江村	32	5	3	1	0	1	22	4	10	7	1	2	3	9.4%	
	津堅島	うるま市	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0.0%	
	久高島	南城市	3	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	座間味島	座間味村	13	0	0	0	0	0	12	3	4	2	3	0	1	0.0%	阿嘉島、慶留間島含む
	渡嘉敷島	渡嘉敷村	6	0	0	0	0	0	5	2	0	3	0	0	1	0.0%	
	粟国島	粟国村	6	1	1	0	0	0	5	2	2	1	0	0	0	0.0%	
	渡名喜島	渡名喜村	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0.0%	
	北大東島	北大東村	6	0	0	0	0	0	5	4	0	0	1	0	1	0.0%	
	南大東島	南大東村	8	3	1	0	0	2	3	0	2	1	0	0	2	0.0%	
	多良間島	多良間村	13	0	0	0	0	0	12	5	3	3	1	1	0	7.7%	
	竹富町内 各離島	竹富町内 各離島	39	7	0	2	1	4	28	8	10	5	5	2	2	10.3%	各離島(竹富島、西表島、 小浜島、黒島、波照間島)
	与那国島	与那国町	14	2	0	1	0	1	10	3	5	1	1	0	2	7.1%	
	合計			182	34	12	8	1	13	118	39	37	29	13	10	20	9.9%
高校有	宮古島	宮古島市	549	103	18	25	0	60	392	83	129	104	76	34	20	10.7%	伊良部島、来間島含む
	石垣島	石垣市	458	102	13	9	19	61	293	46	117	54	76	30	33	8.5%	
	久米島	久米島町	67	12	2	2	0	8	45	12	6	22	5	3	7	7.5%	
	合計			1,074	217	33	36	19	129	730	141	252	180	157	67	60	9.6%

※帰島率：高校卒業後、出身離島に戻った者(就職及び未就職等)／卒業者数

出典:「離島関係資料 平成31年1月」(沖縄県企画部)

4

人材育成に関する沖縄振興審議会報告とそれを受けた内閣府の取組

● 沖縄振興審議会報告「沖縄振興の一環としての人材育成」（平成29年6月28日）

- 意見（※）の中で、「情報通信基盤の整備に伴い、いわゆる十五の春の解消のため情報通信を活用した高校の整備が可能となるなど、情報通信の活用は離島のための措置として重要である」と指摘したが、与那国町と琉球大学により高校教育の実証実験が行われることに注目している。

※「沖縄振興審議会会長・専門委員会合意見 半世紀を迎える沖縄振興の今後の在り方について」（平成28年11月17日）



沖縄振興審議会の報告を受け内閣府としての取組みを策定

● 「沖縄の人材育成のための今後の取組」（平成29年7月4日）

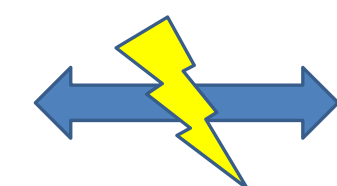
- 十五の春、さらには子供の進学に際して家族も島を離れざるを得ない状況を少しでも減らせるよう、情報通信技術を活用した遠隔教育によって離島における高校段階の教育環境を充実させる。
- 平成29年度においては「沖縄離島活性化推進事業」によって与那国町と琉球大学で高校教育に関する実証実験を夏休み期間中に行う。
- 今後、他の離島においても情報通信技術を活用した遠隔教育によって高校段階の教育環境の充実を図る場合には、必要な支援を行う。

5

平成29・30年度の内閣府の補助事業（実証実験の実施）

与那国町と琉球大学をICTにより結び、遠隔授業や合同授業を実施することで、小規模離島における高校教育の可能性について実証実験を行った。

		H29年度	H30年度
期 間		平成29年8月23～25日（3日間）	平成31年1月22～25日（4日間）
参 加 生 徒	与那国町	帰島中の高校生 9人	与那国中学校 1年10人、2年10人 久部良中学校 1年7人、2年4人 ※実証実験の目的は、音声や映像の技術的課題、教員の連携や生徒同士のコミュニケーションなど授業の進め方の検証にあるため、中学生でも支障なく実施が可能。
	琉球大学	— ※講師のみ	附属中学校 1年2組36人、1年3組37人 2年2組35人、2年4組38人
教 科		英語、数学、国語	数学、理科
授業の方法		元教員による授業を琉球大学から与那国町へ配信	・ 附属中の授業を与那国町へ配信 ・ 与那国町側の教室にはサポート教員を配置 ・ 互いの学校の生徒同士で議論、交流を実施



ICTによる双方向型合同授業
（H30年度実証実験）



6

平成29年度 ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会報告書(概要)

※ 琉球大学作成の報告書を基に内閣府において概要を作成したもの。

第1章 離島教育環境改善事業

○ 事業概要

- ・本事業は平成29年度に与那国町から琉球大学へ委託された事業。
- ・ICT機器を活用し、高校設立の可能性を検証する実証実験を行うことにより、与那国町の教育環境の改善を図り、地域の活性化と定住の促進に資することを目的としている。
- ・実験後は検証委員会を設置し、ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果の検証や、離島における高校教育の可能性の検証を行う。

○ ICTによる遠隔授業の概要

- ・琉球大学と与那国中学校をICT機器でつなぎ、遠隔授業を実施。
- ・平成29年8月23～25日の3日間に、1日3コマ(英語、数学、国語)の授業を琉球大学から遠隔授業として配信。
- ・受講者は、沖縄本島の県立高校に在学する与那国町出身の高校生9人(1年生:5人、2年生:1人、3年生:3人)。

第2章 実証実験

○ 遠隔授業の配信

- ・英語、数学、国語とも中学校3年生までの既習事項で学習できる内容とした。
- ・今回の遠隔授業では、講師はパソコンを利用せず、ホワイトボードとプリントの資料を配布して講義を実施した。

第3章 検証

○ 英語・数学・国語の遠隔授業を担当した講師からの報告

(良かった点)

- ・音の伝達がほぼ同時だったので、遠隔地という感じがせず同じ教室にいるのと変わらなかった。

(良くなかった点)

- ・生徒の手元が見えないので、どの程度記入しているのかわかりづらい。どこでつまづいているか確認できなかった。

(感想)

- ・体を動かす活動やグループ活動などの授業ではどう展開できるのだろうかという疑問が出てくる。
- ・生徒たちの手元を見ることができないのが今回の一番の課題。タブレット等を利用して双方向で確認できるようになるともっと効果があると思われる。

○ アンケート事後調査集計結果(高校生)

- ・「文字の見やすさ」に関しては全員「特に問題はない」、「声の聴きやすさ」に関しては全員が「通常の授業より聴きやすい、同じくらい聴きやすい」と回答するなど、おおむね肯定的な評価になっている。

7

第4章 実証実験を通してのICT活用についての提言

○ 実証実験におけるICT機器についての技術的な提言

- ・講師をされた先生から「ホワイトボードが意外と小さい」、「板書させることができない」という意見があったが、これに対してはタブレット端末への資料の配信や、タブレット端末画面を電子黒板へ投影あるいはスクリーンへ合成する技術を使うことを提案したい。
- ・飛び入りの資料のために書画カメラを用意することも考えられる。
- ・机間指導が難しい点からもタブレット端末による画面の共有ソフトは導入すべきである。

第5章 展望と課題

○ 沖縄県島嶼地域ネットワーク高等学校(仮称)構想 ※本実証実験を踏まえた離島への高校教育の可能性として提案されたもの(委員長試案)。

- ・沖縄県には高等学校が設置されない離島が20あるが、そのすべての離島に生徒が地元から通学可能なキャンパスを置くとともに、それらをネットワークで結びICTを活用した授業等を相互展開することで、その全体をひとつの高等学校として整備する構想である。

(多様な設置形態の模索)

- ・設置形態に関しては多様な在り方が想定される(沖縄県立、琉球大学附属、自治体による一部事務組合立)。

(各キャンパスに教員を配置)

- ・配置された教員は当該キャンパスにあっては対面授業を行うが、その授業は同時にICTの活用によって他のキャンパスに遠隔授業として配信される。

○ 沖縄県島嶼地域ネットワーク高等学校(仮称)の意義

- ・15の春(高校進学を機に親元を離れる、また家族ごと島を離れざるを得ない課題)への、もう一つの選択肢。
- ・様々な事情で郷土を離れられず進学を断念せざるを得ない生徒等にとつての高校進学の実現。
- ・高校を核とした新たなコミュニティづくりの推進。
- ・小中学生にとつての影響(これまで身近ではなかった高校生の存在により未来への憧れを醸成)。
- ・地域の産業界にとつての人材の可視化。

○ 展望

- ・今後は実現可能性に対する教育制度、教育行政、学校経営などの観点や、生徒、保護者、自治体のニーズなどの観点から緻密な研究・検討が必要であり、次回以降の取組では、こうした構想の実現可能性や利用者のニーズを念頭においた実験や調査が必要。

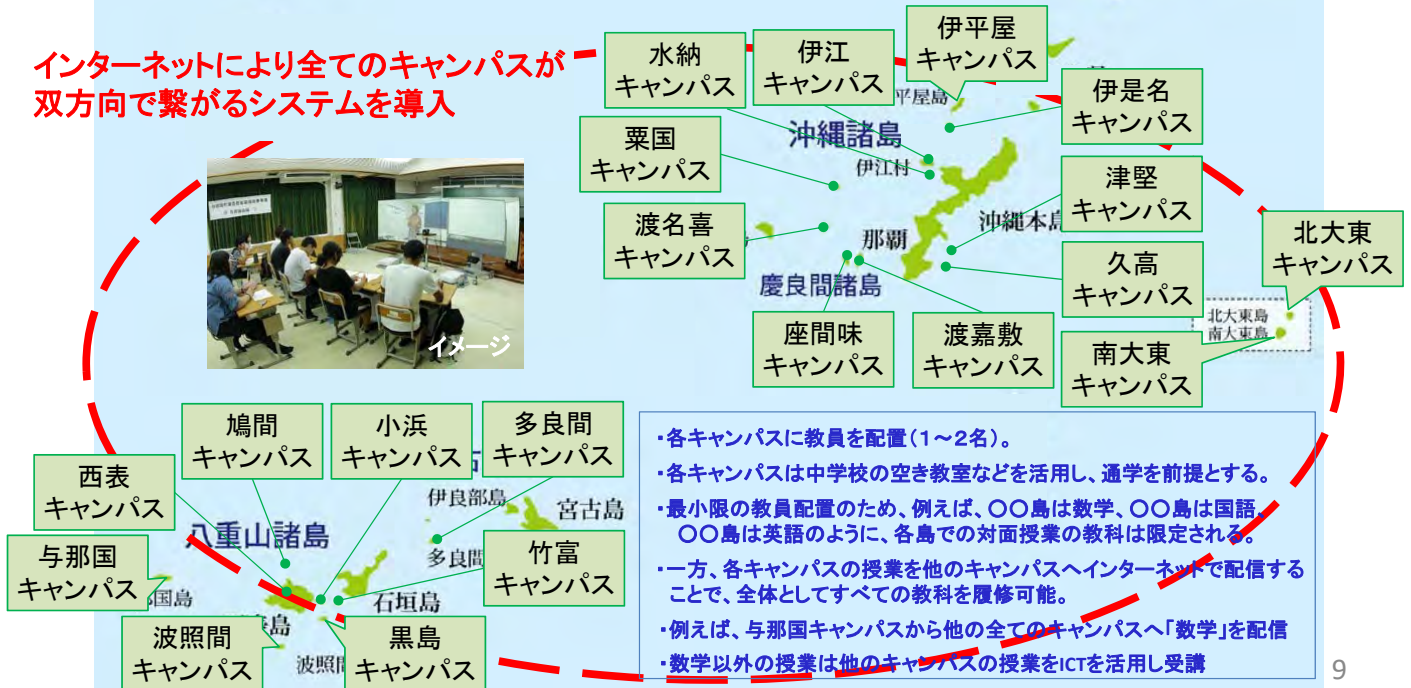
8

平成29年度の内閣府の補助事業(実証実験の報告書)

- 琉球大学に検証委員会を設置し、教育効果や今度の課題などを検証し、報告書を取りまとめた。
- 報告書では、委員長試案として「沖縄県島嶼地域ネットワーク高等学校(仮称)構想」が示された。

小中学校は設置されるが、高校が設置されていない島が20存在するが、その20の島の全てをICTにより繋ぎ、各島々から各教科毎に持ち回りで配信する。

インターネットにより全てのキャンパスが
双方向で繋がるシステムを導入



9

平成30年度 ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果等検証委員会報告書(概要)

※ 琉球大学作成の報告書を基に内閣府において概要を作成したもの。

第Ⅰ部 離島教育環境改善事業

- 事業概要
 - ・本事業は平成29年度に引き続き、与那国町から琉球大学へ委託された事業。
 - ・ICT機器を活用し、高校設立の可能性を検証する実証実験を行うことにより、与那国町の教育環境の改善を図り、地域の活性化と定住の促進に資することを目的。
 - ・実験後は検証委員会を設置し、ICT機器を活用した遠隔授業による教育効果の検証や、離島における高校教育の可能性を検証。
- ICTによる遠隔授業の概要
 - ・琉球大学教育学部附属中学校と与那国町の中学校(与那国中学校又は久部良中学校)をICT機器でつなぎ、遠隔授業を実施。
(本来的には高校生を対象として行うことが理想だが、与那国町には高等学校がないことから、中学生を対象に実証実験を実施。)
 - ・平成31年1月22~25日の4日間に、1日2コマ(数学、理科)の授業を琉球大学附属中学校から遠隔授業として配信。
 - ・前年度と異なる点として、教室に実際にいる生徒に加えてモニターに映る生徒にも同時に授業を行う遠隔合同授業の形で実施。

第Ⅱ部 実証実験の検証

- 教師の評価(成果と課題)
 - (1)成果
 - ・相互の交流により、考えが引き出され学習課題の解決に繋がることができた。
 - (2)課題
 - ・生徒がどのように考えが深まっているのかを見とったり、考えがうかばず困っている様子などの見とりや支援(手だて)ができなかった。
 - ・生徒の思考を見とるためのICT機器の活用とその研修が必要だと感じる。
 - ・授業者側の視点から言うと、スクリーンは目の前の生徒と共に視野に入る位置に設置した方が良いと感じる。
 - ・附属中学校側の機器の設置がもう少し早ければ、テレビ会議を行い、授業を進めるにあたっての共通理解等を深められた。
 - ・今ある機器を最大限に活用するとともに、教材提示装置、電子黒板、タブレット端末等を活用した授業改善など、当該教育委員会や琉球大学の支援の下、双方の学校間交流、教師相互の交流、生徒相互の交流を重ねながら、遠隔授業による、より有効的な学習支援方法を積み上げていくことが肝要。
- 生徒を対象としたアンケートの分析
 - ・総合的な評価としては、大多数の生徒達にとって普段の授業程度の学びの質が保障できていたと評価できる。
 - ・映像と音声については、一部に「見えにくさ」「聞こえにくい」などの指摘があり、機器設置の際に調整を十分に行うなど改善の余地がある。
- 検証委員会による評価、提言等
 - (1)評価
 - ・大人数で授業が実施できることにより協議し合い、対話的で深い学びへと繋がり思考力が高まった。また、学習意欲の向上等、主体的に課題を解決して学びに向かう姿勢が育った。

10

(2) 提言等

【全般的事項】

- ・沖縄県全域における教育の保障を考えるとICT機器が有効な手段となる地域があることは間違いなく、これまでの小中高校における統廃合の実情や今後の財政面を考えると遠隔授業の必要性はますます大きくなっていくものと思われる。
- ・ICTを活用した遠隔授業の実施に当たり、自治体による学校内施設の整備や学校内での支援体制の整備を始めとした様々なサポートが必要となる。
- ・実現可能性に対する教育制度や教育行政、学校運営・学校経営などの観点や、生徒、保護者、自治体のニーズなどの観点を踏まえた研究・検討が必要。

【個別事項】

- ・電子黒板の中には、各拠点間で同一の資料を映し、双方向にペンで書き込める機種もあるので新設の際には推奨したい。
- ・グループ学習については現行の設備では難しく、グループに最低1台のビデオ会議ができるパソコンあるいはタブレットが必要。
- ・各学校間をつなぐネットワークの性能の調査および改善が必要。
- ・技能教科の体育、美術、音楽、技術家庭科等、また、実験のある理科の授業をどう進めていくか。

第三部 実証実験の意義と展望

1. 意義と展望

(1) 離島における高等学校教育機会の提供に向けての意義

- ・高等学校への進学のために生まれ育った島を離れて他の地に行く選択肢を残しつつ、地元を離れずに高等学校の教育を受けることができるよう整備を図っていくことは、教育機会の平等保障の観点から重要である。
- ・ICT機器を活用した遠隔授業の実施において進展が見られたと考えられる。
- ・離島を結んだ高等学校の設置には依然として検討課題が多いが、このような実証実験の積み重ねが制度設計の前提となる。

(2) 学校教育の充実に向けての意義

- ・他校との双方向的な授業の実施は、教科内容の習得にとどまらず、他者理解やコミュニケーション能力等の、テストの点数では測ることが難しい力の育成にもつながり得る。

(3) 学校の小規模化への対応に向けての意義

- ・日本の多くの地域で進行している学校の小規模化の課題の検討に対しても基礎的データをもたらすものとなる。

(4) ICT機器を活用した教員の研修について

- ・今後の展望の一つとして、離島やへき地の教員に対するICT機器を活用した研修等の教員の資質向上に向けた取り組みも挙げられる。

2. おわりに

- ・得られた成果と新たな課題、そして見えてきた意義や展望の方向性は概ね以下の2つであるように思われる。
 - ①教育環境のさまざまなハンディキャップに対し、ICT機器をどのように活用し、どこまでそれを克服できるのかという検討と挑戦。
 - ②ICT機器を利用することで広がる教育環境の新たな可能性（給食時間や休み時間などを含め学校が常時多地点と繋がっている場合における、新たな学校文化や学校生活の創造等）。
- ・今年度は住民を対象とした大規模なニーズ調査や与那国町の教員からの十分なフィードバックなどを求めることもできなかった。
- ・今後も継続して高等学校設立の可能性を検証するためには、実証実験や検証を行う際の取組体制や事業そのものの本格化に向けた努力が不可欠。

11

令和元年度の内閣府の補助事業（実証実験の実施・検討会の開催）

概要

1. 実証実験の実施

- 引き続き、実証実験を継続し実施する。
- 今年度は、与那国町と伊江村を接続した授業（ネットワーク授業）の実証実験の実施を予定。

2. 検討会の開催及び全国の先進事例調査

- 各離島のニーズや意見を踏まえながら、沖縄島嶼地域ネットワーク高等学校（仮称）構想に関する課題等の検討をはじめ、ICTを活用した離島における高校教育の将来像を議論するため、関係省庁や沖縄県、離島自治体、琉球大学等による検討会を設置・開催。
- 検討会の議論に資するよう、全国のICTを活用した離島における高校教育の先進事例の調査やアンケート調査を実施。

12

高等学校の通信制課程及び 遠隔教育について

令和元年6月21日(金)



高等学校通信制課程について

1. 目的

- 高等学校における通信制課程は、教育の機会均等の理念に基づき、勤労青年に高等学校教育を受ける機会を広く提供するものとして、定時制課程とともに昭和23年に制度化。
- 近年では、勤労青年が減少する一方、不登校・中退経験者、特別な支援を要する生徒、経済的な困難を抱える生徒など、多様な課題を抱えた生徒が多く所属。

※通信制高校の学校数(生徒数):244校(181,031人)

うち、公立77校(62,783人)、学校法人立148校(107,009人)、株式会社立19校(11,239人))

うち、広域通信制(3以上の都道府県の生徒を対象に教育可能な広域通信制は105校(100,997人))

(平成28年度 学校基本調査ほか)

2. 教育課程の特色

- 全日制、定時制、通信制の課程の区分に関わらず、高等学校の教育の目的や目標は共通。卒業に必要な単位数は、共通して「74単位以上」。
- 勤労青年に高等学校教育を受ける機会を広く提供するため、技能連携による単位認定、定時制課程及び通信制課程の併修(定通併修)等による単位認定が可能。
 - ・技能連携…定時制・通信制課程の生徒が、都道府県教育委員会が指定する技能教育施設において教育を受けている場合、卒業に必要な単位数の2分の1以内で、施設における学習を高等学校における教科の一部の履修とみなすことができる制度。
 - ・定通併修…定時制課程の生徒が、通信制課程において一部の科目の単位を修得したとき等は、その単位数を卒業に必要な単位数に加えることができる制度。

3. 通信制課程における教育方法

- 通信制高校における教育は、**添削指導**、**面接指導(スクーリング)**、**試験**の方法により実施。これに加え、インターネット等のメディアを活用した指導等の方法で行うことができる。(高等学校通信教育規程 第2条)
 - ・添削指導…生徒が日頃自宅等で学習した成果をレポート等で提出し、これに教師が添削し、2生徒に返送する方法で指導。
 - ・面接指導(スクーリング)
 - …生徒が登校し、教師に直接接しながら指導を受ける。(面接指導時間の一部免除制度あり)
 - ・試験…添削指導、面接指導(、メディアを活用した指導)等の成果を測る。

高等学校通信制課程について（続き）

4. 通信制課程における教育課程の特例

○ 通信制課程における各教科・科目等の添削指導の回数、面接指導の単位時間の標準は、学習指導要領上、特例として全日制・定時制課程とは別に定められている。

【高等学校学習指導要領（現行） 第1章第7款】

通信制の課程における教育課程については、第1款から第6款まで（第4款、第5款の1並びに第5款の4の(4)のア及びイを除く。）に定めるところによるほか、次に定めるところによる。

- 各教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間（1単位時間は、50分として計算するものとする。以下同じ。）数の標準は、1単位につき次の表のとおりとするほか、学校設定教科に関する科目のうち専門教科・科目以外のものについては、各学校が定めるものとする。

各教科・科目	添削指導（回）	面接指導（単位時間）
国語、地理歴史、公民及び数学に属する科目	3	1
理科に属する科目	3	4
保健体育に属する科目のうち「体育」	1	5
保健体育に属する科目のうち「保健」	3	1
芸術及び外国語に属する科目	3	4
家庭及び情報に属する科目並びに専門教科・科目	各教科・科目の必要に応じて2～3	各教科・科目の必要に応じて2～8

- 総合的な学習の時間の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数については、各学校において、学習活動に応じ適切に定めるものとする。
- 面接指導の授業の1単位時間は、各学校において、各教科・科目の面接指導の単位時間数を確保しつつ、生徒の実態及び各教科・科目等の特質を考慮して適切に定めるものとする。
- 学校が、その指導計画に、各教科・科目又は特別活動について計画的かつ継続的に行われるラジオ放送、テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習を取り入れた場合で、生徒がこれらの方法により学習し、報告課題の作成等により、その成果が満足できると認められるときは、その生徒について、その各教科・科目の面接指導の時間数又は特別活動の時間数のうち、各メディアごとにそれぞれ10分の6以内の時間数を免除することができる。ただし、免除する時間数は、合わせて10分の8を超えることができない。
- 特別活動については、ホームルーム活動を含めて、各々の生徒の卒業までに30単位時間以上指導するものとする。なお、特別の事情がある場合には、ホームルーム活動及び生徒会活動の内容の一部を行わないものとする。ことができる。

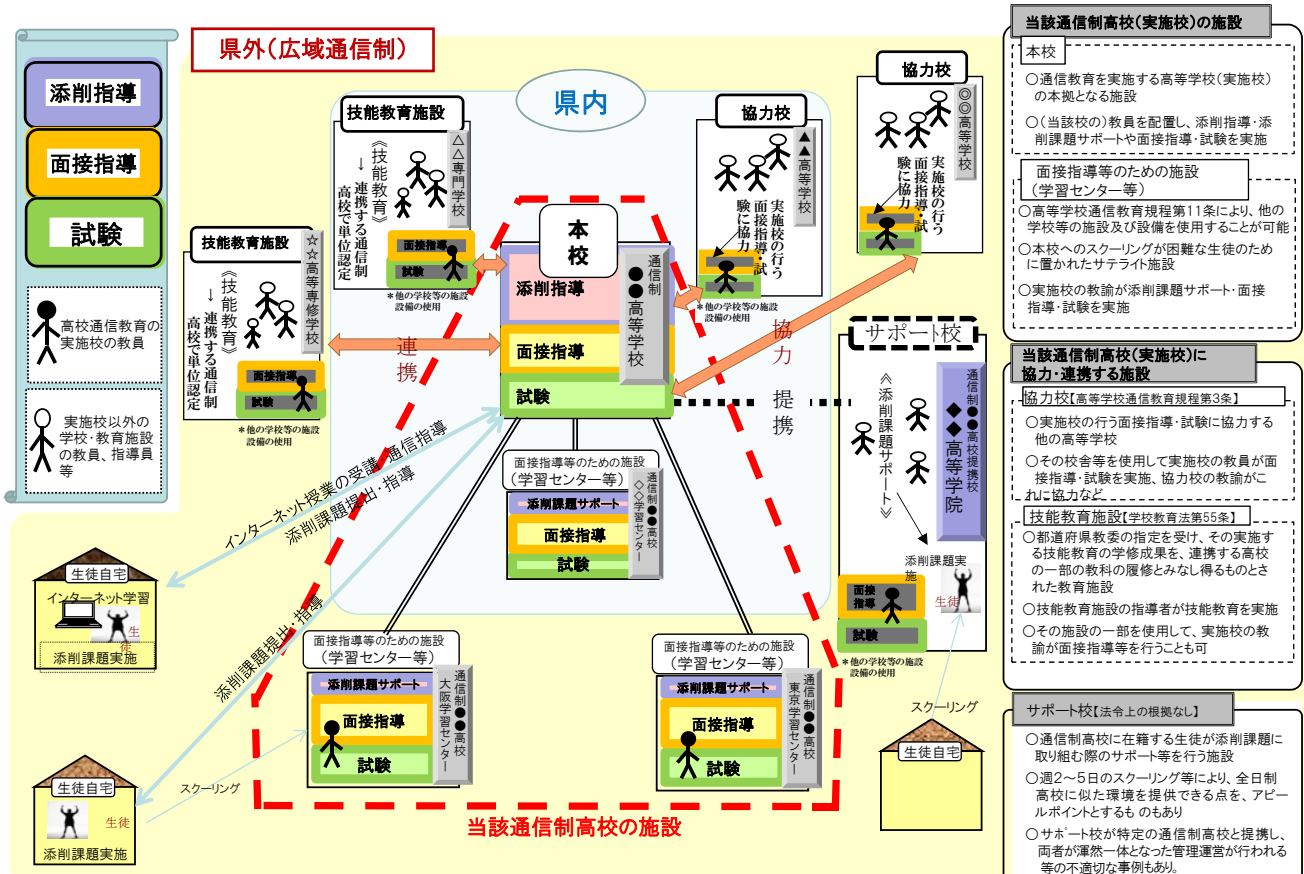
【参 考】

各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数
（高等学校学習指導要領 第1章第2款）

教科等	科目	標準単位数	教科等	科目	標準単位数	
国語	国語総合	4	保健体育	体育	7～8	
	国語表現	3				
	国語現代文	2				
	国語現代文B	2				
	国語古典	4				
地理歴史	世界史A	2	芸術	音楽Ⅰ	2	
	世界史B	4		音楽Ⅱ	2	
	世界史B	4		音楽Ⅲ	2	
	日本史A	2		美術Ⅰ	2	
	日本史B	2		美術Ⅱ	2	
公民	現代社会	2		美術Ⅲ	2	
	現代社会	2		工芸Ⅰ	2	
	政治・経済	2		工芸Ⅱ	2	
		2		工芸Ⅲ	2	
		2		書道Ⅰ	2	
数学	数学Ⅰ	3		書道Ⅱ	2	
	数学Ⅱ	4		書道Ⅲ	2	
	数学Ⅲ	5	外国語	コミュニケーション英語基礎	2	
	数学Ⅳ	2		コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	数学活用	2		コミュニケーション英語Ⅱ	4	
理科	科学と人間生活	2		コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	物理基礎	2		英語表現Ⅰ	2	
	化学基礎	2	英語表現Ⅱ	4		
	生物基礎	2	英語会話	2		
	地学基礎	2	家庭基礎	2		
	2	家庭総合	4			
	2	生活デザイン	4			
	2	情報	社会と情報	2		
	1		情報の科学	2		
		総合的な学習の時間		3～6		

※ 1単位時間を50分とし、35単位時間の授業を1単位として3計算することを標準とする。

高等学校通信制課程の指導体制



(参考) 高等学校通信制課程に関する規定

○ 学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号) 抄

第五十四条 高等学校には、全日制の課程又は定時制の課程のほか、通信制の課程を置くことができる。

2 高等学校には、通信制の課程のみを置くことができる。

3 (略)

○ 学校教育法施行規則(昭和二十二年文部省令第十一号) 抄

第九十六条 校長は、生徒の高等学校の全課程の修了を認めるに当たっては、高等学校学習指導要領の定めるところにより、七十四単位以上を修得した者について行わなければならない。(後略)

2 (略)

第九十七条 校長は、教育上有益と認めるときは、生徒が当該校長の定めるところにより他の高等学校又は中等教育学校の後期課程において一部の科目の単位を修得したときは、当該修得した単位数を当該生徒の在学する高等学校が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができる。

2・3 (略)

第九十九条 第九十七条の規定に基づき加えることのできる単位数及び前条の規定に基づき与えることのできる単位数の合計数は三十六を超えないものとする。

○ 高等学校通信教育規程(昭和三十七年文部省令第三十二号) 抄

第二条 高等学校の通信制の課程で行なう教育(以下「通信教育」という。)は、添削指導、面接指導及び試験の方法により行なうものとする。

2 (略)

第十二条 実施校の校長は、当該実施校の通信制の課程の生徒が、当該校長の定めるところにより当該高等学校の定時制の課程又は他の高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)の定時制の課程若しくは通信制の課程において一部の科目の単位を修得したときは、当該修得した単位数を当該実施校が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができる。

2・3 (略)

4 第一項又は第二項の場合においては、学校教育法施行規則第九十七条の規定は適用しない。

5

多様な高等学校通信制課程

＜NHK学園高等学校＞

・ネット学習コース：月1～2回スクーリング又は集中的なスクーリング
+NHK高校講座視聴、レポート添削指導

※ 不登校特例課程を有するネット学習コースもあり。

・ベーシックコース：月1～2回スクーリング+NHK高校講座視聴、レポート添削指導

・登校コース：週3回スクーリング(AM面接指導、PM個別学習等の学習支援)
+NHK高校講座視聴、レポート添削指導

から、生徒が自身の学習スタイルにあわせてコース選択。



※ 独自のe-Learningシステムを活用

- ・学習管理
(レポート評価、スクーリング出席、試験結果をマイページに記録。保護者も閲覧可能。)
- ・メールによる質問
- ・クラス掲示板
- ・インターネットテレビ会議システムを利用したwebチャット・ネット授業・ネットホームルーム
- ・レポート教材、レポート学習・提出など

＜神奈川県立横浜修悠館高等学校＞

- ・日曜日集中スクーリング
- ・生徒自らが時間割を組む平日登校講座
- ・インターネット上で学習・添削指導を受けるIT講座

から、生徒自身が自身の学習スタイルにあわせてコース選択。



6

遠隔授業の類型（イメージ）

遠隔教育の推進に向けたタスクフォース
(平成30年9月)

合同授業型

- 児童生徒が多様な意見や考えに触れたり、協働して学習に取り組んだりする機会の充実を図る。

教師支援型

- 児童生徒の学習活動の質を高めるとともに、教員の資質向上を図る。

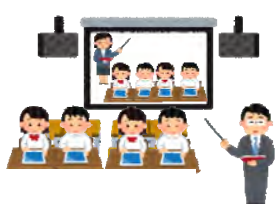
教科・科目充実型

※ 高等学校
段階のみ

- 生徒の多様な科目選択を可能とすることなどにより、学習機会の充実を図る。

送信側

教師 + 児童生徒



ALTや専門家等



当該教科の免許状を保有する教師

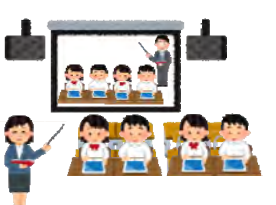


同時双方向

同時双方向

受信側

教師 + 児童生徒



教師 + 児童生徒



当該学校の教師（当該教科の免許状の有無は問わない）+ 生徒



7

高等学校における遠隔授業〔教科・科目充実型〕について

◆ 制度化

○ 学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）抄

第八十八条の三 高等学校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第九十六条 校長は、生徒の高等学校の全課程の修了を認めるに当たっては、高等学校学習指導要領の定めるところにより、七十四単位以上を修得した者について行わなければならない。（後略）

2 前項前段の規定により全課程の修了の要件として修得すべき七十四単位のうち、第八十八条の三に規定する授業の方法により修得する単位数は三十六単位を超えないものとする。

◆ 主な要件・留意事項（平成27年文部科学省告示第92号ほか）

- 多様なメディアを高度に利用して、多様な情報を一体的に扱うもので同時かつ双方向に行われるものであって、高等学校において、対面授業に相当する教育効果を有すると認めたもの。
- 当該授業を行う科目等については、それぞれの教科・科目等の特質に応じ、対面による授業を相当の時間数（高等学校学習指導要領第1章第7款に定める面接指導時間を参考とする。）行うこと。
- 配信側の教員は、担当教科の免許保持者であり、かつ、受信側の高等学校に属する教員であること。受信側にも高等学校の教員（実施教科の免許の有無は問わない）が立ち会うこと。
- 評価については、配信側の教員が実施すること。

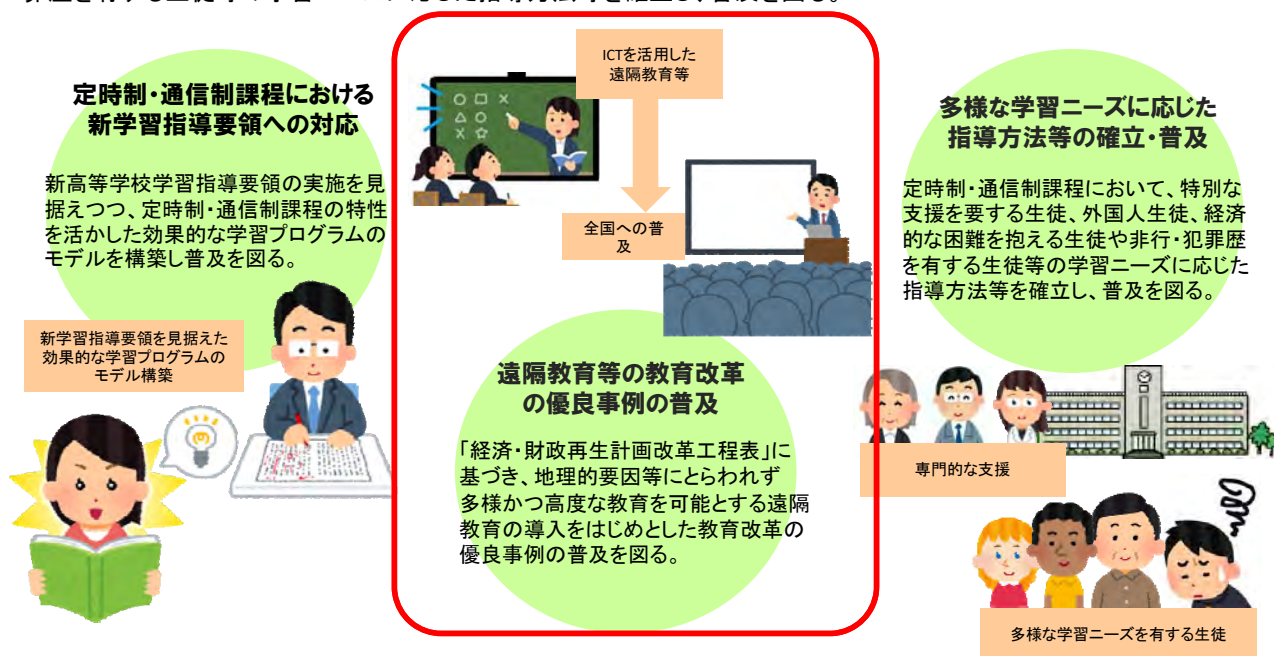
◆ 導入状況 : 35校・105科目（平成29年度）

8

◆概要◆

高等学校において、地理的要因等にとらわれず多様かつ高度な教育を可能とする遠隔教育の導入をはじめとした教育改革の優良事例の普及を図るとともに、新高等学校学習指導要領の実施を見据えつつ、定時制・通信制課程の特性を活かした効果的な学習プログラムのモデルを構築し、普及を図る。

また、定時制・通信制課程において、特別な支援を要する生徒、外国人生徒、経済的な困難を抱える生徒や非行・犯罪歴を有する生徒等の学習ニーズに応じた指導方法等を確立し、普及を図る。



9

「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」 (うち、「遠隔教育等の教育改革の優良事例の普及」)の実施状況(平成30年度～)

実施主体	テーマ
北海道	遠隔教育の質の確保・向上に向けた実証研究～遠隔授業における配信校の組織体制の在り方について～
静岡県	中山間地域の小規模校における遠隔教育推進事業
徳島県	小規模校での多様な学習を可能にする遠隔授業の調査研究
高知県	ICT活用(遠隔教育)による中山間小規模校での学力保障
長崎県	遠隔教育システムを用いた国内外の大学等との連携による教育効果について
大分県	農業系高校における遠隔教育の導入に関する実証研究

中山間地域の小規模校における遠隔教育推進(静岡県)

取組概要

- 事業実施前、小規模分校においては、化学担当の教員が配置できず、生物担当の教員が化学の授業を実施。
- 事業実施により、専門的な知識を有する化学担当教員の指導が可能となり、より質の高い事業を実現。
- 安定した送受信システムの構築・配信側教員の準備の負担が実施後の課題。

<配信>

浜松湖北高等学校
(生徒数969名)

遠隔授業

<受信>

佐久間分校
(生徒数69名)



分校の教員(生物担当)の立会いのもと、本校に在籍する化学担当教員が遠隔により授業を配信。
分校の教員は机間指導などにより、生徒の学習をサポート。



10

遠隔教育の質の確保・向上に向けた実証研究（北海道）

受信校・配信校



配信校	配信校	教科（科目）	単位数
夕張	偶知安	理科（物理基礎）	2
	有朋	芸術（書道Ⅰ）	2
	有朋	商業（情報処理）	2
平取	有朋	数学（数学Ⅱ）	2
	有朋	数学（数学Ⅲ）	2
	有朋	情報（社会と情報）	2
南茅部	有朋	公民（政治・経済）	3
	有朋	数学（数学Ⅲ）	2
下川商業	有朋	芸術（書道Ⅰ）	2
	有朋	数学（数学Ⅲ）	2
礼文	有朋	外国語（英語表現Ⅰ）	3
	有朋	芸術（書道Ⅰ）	2
豊富	有朋	公民（政治・経済）	2
	有朋	情報（社会と情報）	2
常呂	偶知安	理科（物理）	4
	有朋	外国語（コミュニケーション英語Ⅱ）	2

北海道教育委員会 作成
 ・教育再生実行会議高校改革WG（第6回）
 （平成31年2月21日）資料2
 ・遠隔授業ガイドブック第1版（平成31年3月）
 ・平成30年度研究開発学校研究開発実施報告書より

実践例

[書道Ⅰ]

2単位修得のための
 総授業時数70単位時間
 のうち、
 ・68単位時間について、
 遠隔授業を実施。
 ・2単位時間について、
 7月及び2月に、対面
 事業を実施。

有朋高等学校

<配信側（授業者）>の様子

ハンディカメラによる受信校の映像



遠隔授業



礼文高等学校

<受信側（生徒）>の様子

新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて ～柴山・学びの革新プラン～

平成30年11月22日公表

- Society5.0の時代こそ、学校は、単に知識を伝達する場ではなく、人と人との関わり合いの中で、人間としての強みを伸ばしながら、人生や社会を見据えて学び合う場となることが求められている。その際、教師は、児童生徒との日常的な直接の触れ合いを通じて、児童生徒の特性や状況等を踏まえて学習課題を設定したり学習環境を整えたりするなど、学びの質を高める重要な役割を担っている。
- 学びの質を高め、すべての児童生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、新学習指導要領の着実な実施やチームとしての学校運営の推進が不可欠。その中核を担う教師を支え、その質を高めるツールとして先端技術には大きな可能性。
- 今後の我が国の教育の発展には、学校現場における先端技術の効果的な活用を実現するための技術の進展と、学校現場における先端技術の活用の促進が必要不可欠。



教師



先端技術



Society5.0時代
 の教育

読解力、対話力、科学的思考力、問題解決能力、
 創造性、好奇心・探求心、リーダーシップの育成など

教師を支援するツールとして先端技術をフル活用することにより、すべての児童生徒に基盤的な学力や他者と協働しつつ自ら考え抜く力を育むとともに、新たな社会を牽引する人材を育成する質の高い教育を実現。



「遠隔教育の推進に向けた施策方針」（2018年9月）も踏まえ、

質の高い教育の実現のための先端技術の活用を推進

※教育再生実行会議に提案し、ご議論いただく予定

Society5.0時代を見据え、先端技術の活用によりすべての児童生徒に対して質の高い教育を実現

- ★新学習指導要領の着実な実施
- ★チームとしての学校運営

により、子供たちが、自ら問題を見いだし、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ環境を実現

1. 遠隔教育の推進による先進的な教育の実現

～2020年代の早期にすべての小中高校で活用できるように～

教師による質の高い教育を実現するため、

- 様々な状況に対応した教育の充実(小規模校、中山間地、離島、分校、複式学級、病院内の学級)
- 特別な配慮が必要な児童生徒の支援(病気療養、不登校、外国人、特定分野に特異な才能を持つ児童生徒等)
- 教育の質向上のための優れた外部人材の積極的活用(グローバル化に向けた外国語、情報教育等)

上記を推進するため、指導体制の充実を図りつつ、

- ・遠隔教育のグッドプラクティスの全国的普及
- ・民間企業・大学等の遠隔教育に関するノウハウ・技術の集約・活用を促進
- ・中学校の遠隔授業におけるニーズの高い分野での実証的取組の実施(新しいタイプの特例校創設)
～英会話、プログラミングで受信側の教室にいる教師を支援～
- ・免許制度の弾力的な活用による社会人等の積極的な登用

等

2. 先端技術の導入による教師の授業支援

- 教師支援のツールとしてビッグデータの活用などによる児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
- 指導力の分析・共有、研修への活用などによる授業改善など教師の資質能力の向上

上記を推進するため、

- ・先端技術の効果的な活用に向けた実証的取組(スタディ・ログの活用等)
- ・学校・教育委員会と民間企業等が連携した先進事例の収集・情報提供

等

3. 先端技術の活用のための環境整備

- 「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」を踏まえた学校のICT環境の整備促進
- 関係省庁・民間企業・大学等と連携した先端技術導入のための環境の構築

上記を推進するため、

- ・先端技術を含むICTに関する専門的な知識・技能等を有する人材の活用
- ・全国学力・学習状況調査等のデータ利活用促進と情報セキュリティ確保の両立に向けた検討

13

総務省説明資料

令和元年 6 月
総務省 情報流通行政局
情報流通振興課 情報活用支援室

教育の情報化に関する総務省の取組

1

ハード(システム)

①スマートスクール・プラットフォーム実証事業(H29～31)

文部科学省と連携し、教育分野におけるクラウド化を推進した上で、教職員が利用する「校務系システム」と、児童生徒が利用する「授業・学習系システム」間の、安全かつ効果的・効率的なシステム連携及びデータの利活用手法について実証し、「スマートスクール・プラットフォーム」として標準化する。

(参考)先導的教育システム実証事業(H26～28)

多様なデジタルコンテンツを、端末やOS、時間や場所を問わず活用可能な「教育クラウド・プラットフォーム」を構築する。
(授業・学習系システム)

ソフト(コンテンツ・人材)

②地域ICTクラブ普及推進事業(H30～31)

地域で子供・学生、社会人、障害者、高齢者等がモノづくり、デザイン、ロボット操作、ゲーム、音楽等を楽しく学び合う中で、プログラミング等のICTに関し世代を超えて知識・経験を共有する仕組みとして、「地域ICTクラブ」を整備。

(参考)若年層に対するプログラミング教育の普及推進(H28～29)

子供たちの論理的思考力や創造性等を高める観点から、クラウドや地域人材を活用した、プログラミング教育の実施モデルを開発・普及する。

また、障害のある子供や突出した能力を示す子供に対するものを含む教材コンテンツ・指導ノウハウの開発、ポータルサイトの構築、出前講座等のアウトリーチ的手法や指導者研修による全国への普及展開等を実施する。

①スマートスクール・プラットフォーム実証事業（H29～31）

2

文部科学省と連携し、教育分野におけるクラウド化を推進した上で、教職員が利用する「校務系システム」と、児童生徒が利用する「授業・学習系システム」間の、安全かつ効果的・効率的なシステム連携及びデータの利活用手法について実証し、「スマートスクール・プラットフォーム」として標準化する。

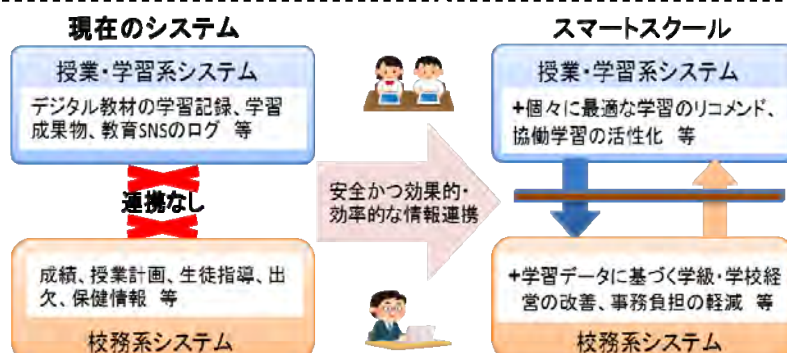
【H31予算額:2.1億円(H30予算額:2.7億円)】

【これまでの取組・現状】

- 現在、教職員が利用する校務系システムは、児童生徒の成績や家庭状況など機微な情報を扱うため、セキュリティ確保等の観点から、授業・学習系システムとは分離されている。
- そのため、データ受け渡しのためにUSBを使用するなど、非効率な状況に陥っており、さらに紛失等による個人情報流出も生じかねない。また、両システムのデータが連携して利用されず、データ利活用による教育の質の向上や、教職員の事務の効率化の機会が失われている。
- そこで、セキュリティ確保とデータ利活用を両立させる観点から、両システム間の安全かつ効果的・効率的なシステム連携及びデータ利活手法の確立と、その円滑な運用基盤となる次世代におけるネットワーク環境の構築が急務であり、そのための調査研究や実証事業を平成29年度から3年計画で実施している。

【目標・成果イメージ】

- 学校現場におけるICT環境整備・データ利活用が促進されることにより、教職員の業務効率化、個々の児童生徒に応じたさらなるきめ細かな指導が実現し、教育の質の向上が図られる。
- 異なる事業者のシステムの自由な組み合わせが可能になり、事業者間の競争が促進され、コスト低減やサービス向上が図られる。

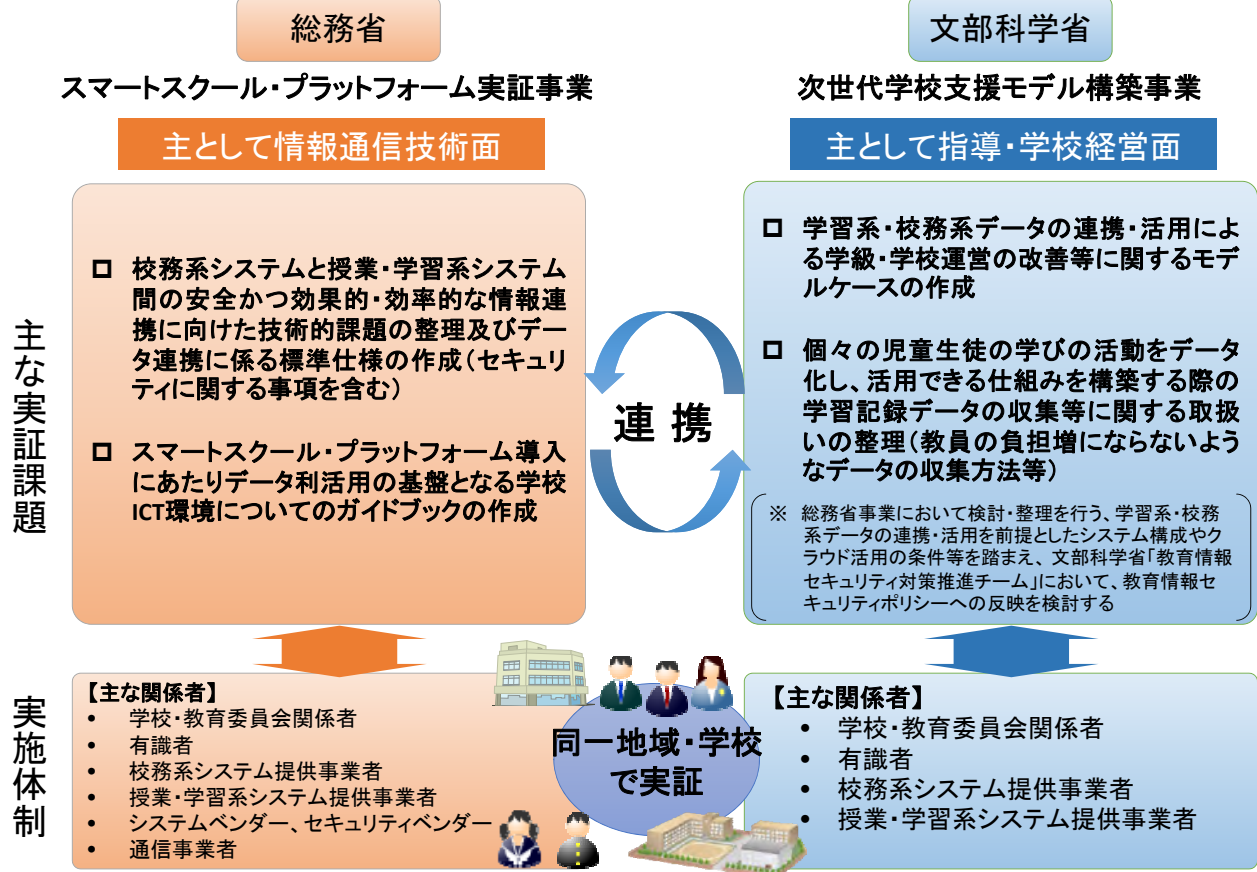


（参考）スマートスクール・プラットフォーム実証事業の採択地域・団体

3

「スマートスクール・プラットフォーム」の標準化に向けた実証5地域を採択





教育現場におけるクラウド活用の推進に関する有識者会合について

1. 検討内容

○「未来投資戦略2018」(平成30年6月閣議決定)及び「世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」(同決定)に基づき、総務省において、教育現場における授業・学習系及び校務系システムの効果的・効果的なデータ連携手法を確立するための、スマートスクール・プラットフォーム実証事業を実施している(平成29年度～31年度(予定))。

○これに関連し、授業・学習系及び校務系システムの双方のクラウド化を促進する観点から、クラウド化による

- ・運用コストの軽減
- ・セキュアなシステム環境の実現
- ・教員の事務負担軽減

等の効果に関して検証し、教育現場における効果的・効果的なクラウド導入のあり方について本年度中に一定の結論を得る。

また、慶応義塾大学に調査研究を委託し、高岡市の中学校においてクラウドサービスを活用した遠隔授業を実施することにより、学校現場が簡易かつ効果的・効果的にクラウドサービスを利用できる手法に関する調査・検証を行い、本有識者会合において成果を報告する(スマートスクール・プラットフォーム実証事業の平成30年度予算2.7億円の内数)。

2. 構成員 (敬称略、五十音順)

赤堀 侃司(座長代理)	一般社団法人ICT CONNECT 21 会長
生貝 直人	東洋大学経済学部総合政策学科 准教授
伊藤 寛	新地町教育委員会教育総務課 指導主事兼社会教育主事
梅嶋 真樹	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任准教授
佐藤 昌宏	デジタルハリウッド大学大学院 教授
清水 康敏(座長)	東京工業大学 名誉教授
中井 陽子	日本マイクロソフト株式会社パブリックセクター事業本部 業務執行役員、文教営業統括本部 統括本部長
永宮 直史	特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会 事務局長
宮崎 達三	株式会社ミライト・テクノロジーズ 常務執行役員

※オブザーバ 文部科学省(情報教育・外国語教育課)、経済産業省(サービス政策課教育産業室)
※事務局 総務省(情報活用支援室)

3. スケジュール

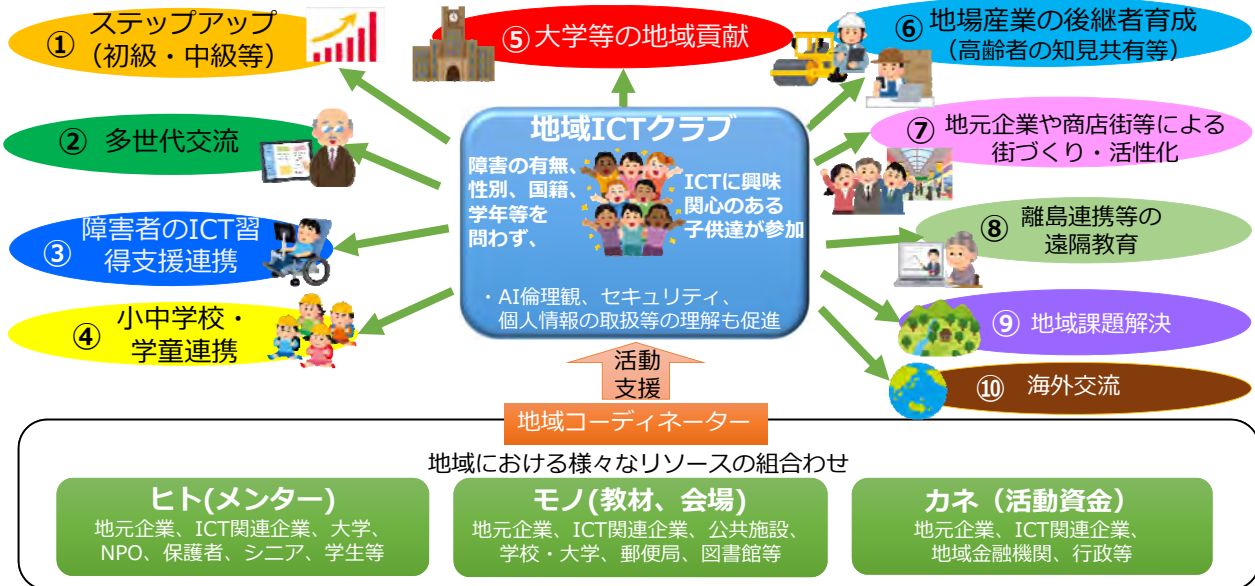
- 第1回(11月21日)
クラウドサービスを利用している教育委員会からのプレゼンテーション
- 第2回(1月8日)及び第3回(1月30日)
教育現場でクラウドサービスを提供している事業者からのプレゼンテーション
- 第4回(2月22日)
教育現場でクラウドサービスを提供している事業者からのプレゼンテーション及び論点整理
- 第5回(3月28日)
最終とりまとめ

②地域ICTクラブ普及推進事業

6

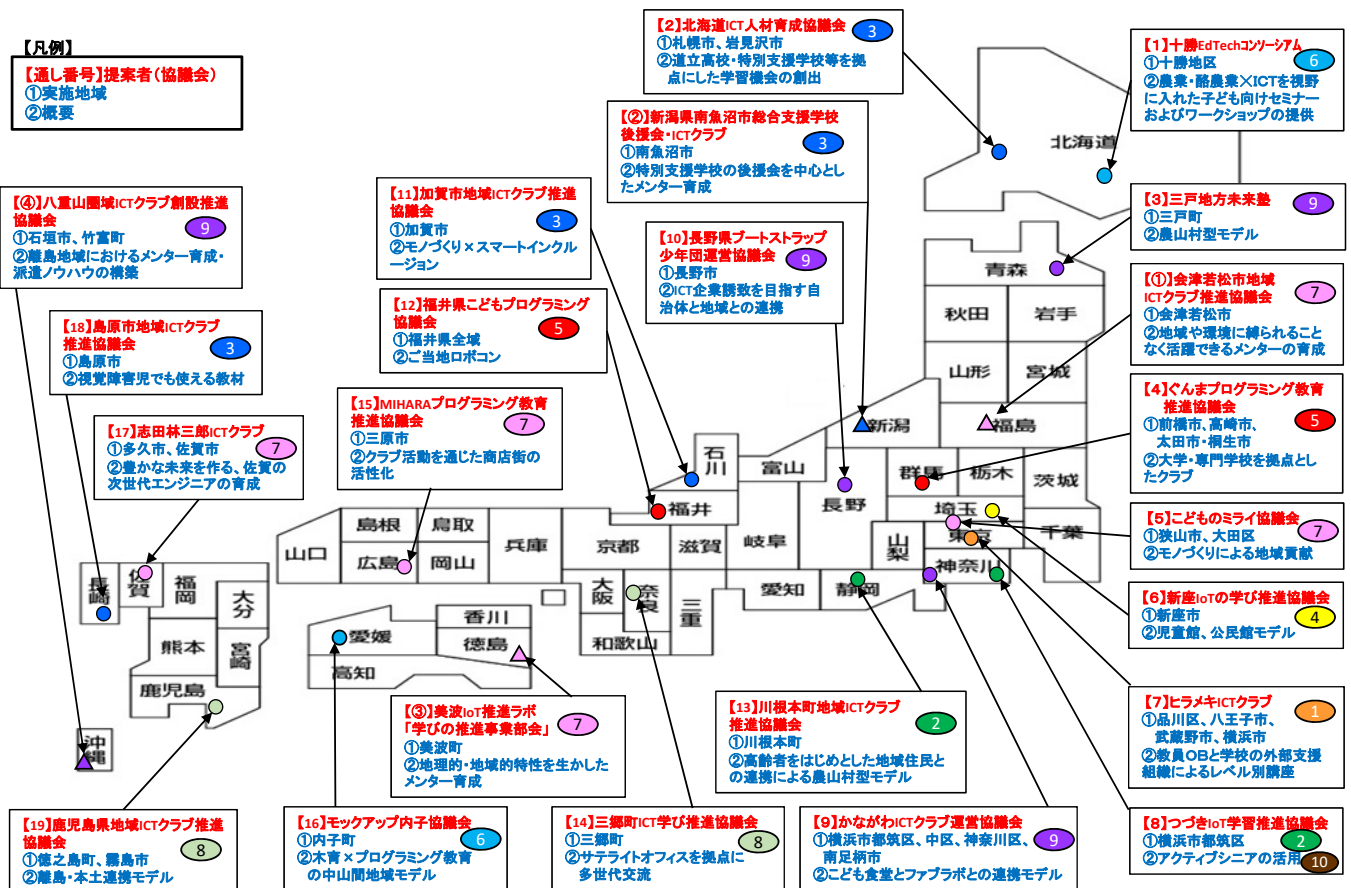
【H31予算額：1.8億円（H30予算額：1.5億円）】

- 「地域ICTクラブ」は、地域で子供・学生、社会人、障害者、高齢者等がモノづくり、デザイン、ロボット操作、ゲーム、音楽等を楽しみ学び合う中で、プログラミング等のICTに関し世代を超えて知識・経験を共有する仕組みとして整備。
- 地域におけるヒト、モノ、カネの各資源を活かし、地域の特性等に応じた様々なタイプのモデル実証を行い、全国への横展開を推進。
- また、高齢者と社会人、子供等の学び合いによる各々の知見の共有、障害者に対する理解の促進、社会人等に対するリカレント教育なども期待。



平成30年度実証事業一覧

7



令和元年度 ICTを活用した
離島における高校教育調査研究
報告書

令和2年3月

株式会社情報通信総合研究所